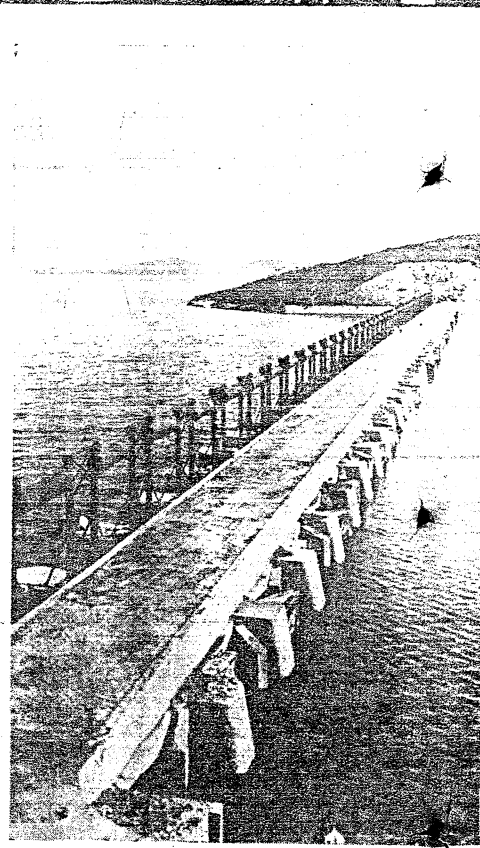


朝鮮統計時報

第三號



(道海黃) 門開大の利水海延

會協計統鮮

株式會社

朝鮮地方行政學會

社長

酒井興三 吉

電話本局 ② 三五八三番
振替京城 二四七〇三番

朝鮮公民教育會

理事長

酒井興三 吉

電話本局 ② 三五八三番
振替京城 二五一九九番

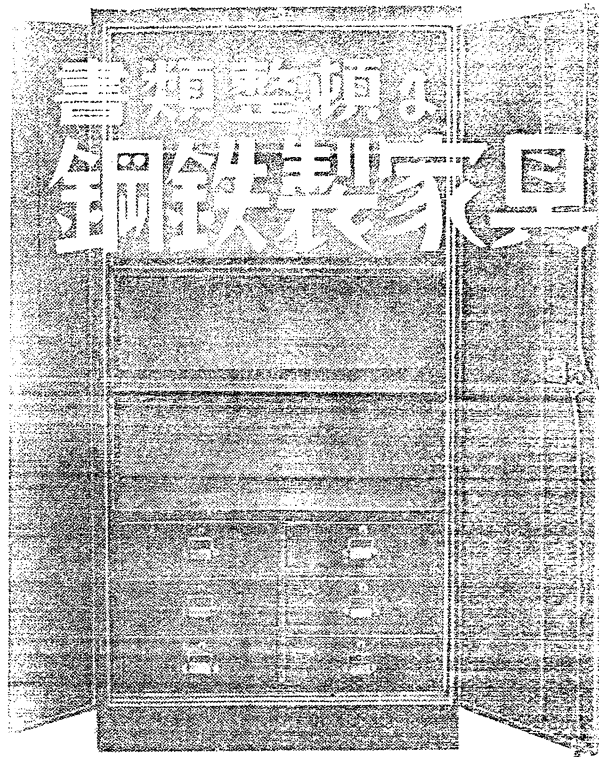
出版

印刷

59 地番九五一第倉米南府城京

所刷印會尚政行 會社

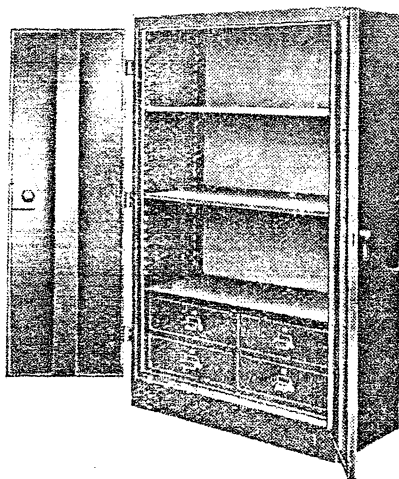
書類整理の 鋼鉄製家具 二割安



鍛達の技！精密なる
機械！材料の特選！
優良品は熊平鋼製家
具工場から

今日、鋼製家具の普及に伴ひ殊に朝鮮の如く氣
温の激變いたします處に於きましては鋼製家具
の需要多く弊店は今回鷺梁津に工場を建設致し
最も完全なる機械を設備し高級技術者を以てな
す良品多産、然も従來市價の二割安提供をモツ
トウに、苦心と努力と研究を重ねて居ります

御照會次第詳細型録進呈



株式會社 熊平商店 京城本町 電②624,5115

株式會社 熊平鋼鐵工場 京城鷺梁津 電④1281

に界
容陣の社本く輝

・例規と
圖書出版

朝鮮教育關係
圖書の出版

鮮明な印刷
至廉で迅速

株式會社

朝鮮地方行政學會

社長

酒井與三吉

京城府南米倉町一五九番地

電話本局三五三三番
振替京城二四七〇三番

朝鮮公民教育會

理事長

酒井與三吉

京城府南米倉町一五九番地

電話本局三五三三番
振替京城二五一九九番

合資會社

行政學會印刷所

代表者

酒井與三吉

京城府南米倉町一五九番地

電話本局二八一八番
振替京城九九七四番

總督府食堂

電話光化門八八八番
同五六〇番ノ一九四番

朝鮮神宮南山亭

電話本局二八六三番

京城帝國大學食堂

電話光化門一六九一番
同三〇〇番ノ一三七番

經營者 山田真一

京城帝大醫院構内

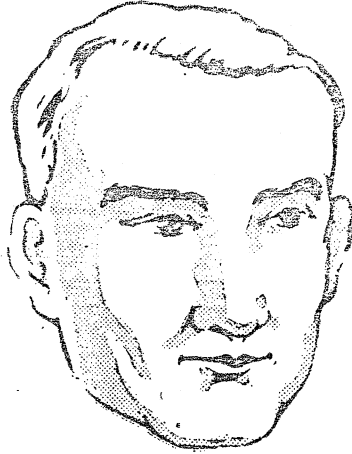
昭五食堂

電話光化門二二一五番
同三〇〇番ノ八〇番

京城俱樂部

電話本局 二〇三番
一六五〇番

心安 と 望希



特約官廳

朝鮮總督府
遞信局
鐵道局
專賣局

相 互 組 織

千代田生命

本社 東京市橋區橋二丁目
東京支店 京府南大門通二丁目

朝鮮統計時報 第三號 目次

就任之辭

朝鮮統計協會長 鈴木壽男 (3)

オリムピック以上

前朝鮮統計協會長 鹽田正洪 (4)

統計の任務

内閣統計局統計官 森數樹 (7)

統計の話 (二)

京城帝國大學教授 大内武次 (13)

昭和十年の現住戸口

總督官房文書課 (21)

他府邑面に常住する者の人口概數調

臨時國勢調査課 (27)

報告例の解説

村辻元 (29)

國勢調査申告書等検査の結果に就て

臨時國勢調査課 鈴木虎次郎 (37)

資料

□ 鑛産額 (昭和十年)

(46)

□ 家内工業 (昭和九年)

(48)

扇……………卷頭小言……………

塩田會長を送り

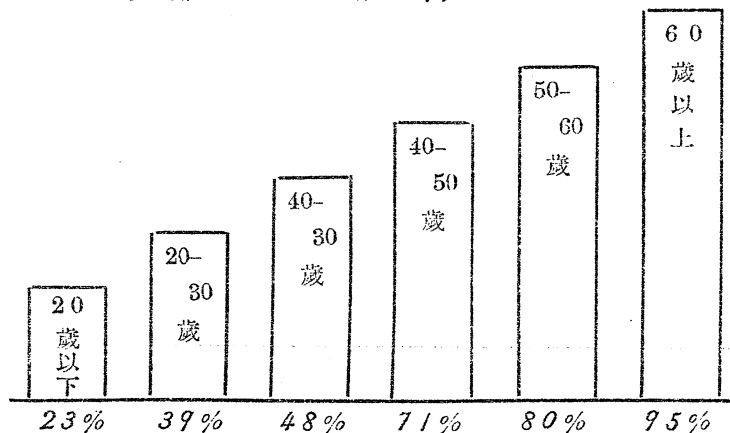
鈴木新會長を迎ふ……………

<p>〔蔬〕 菜（昭和十年）……………(50)</p>	<p>〔藝〕 兎（昭和十年）……………(53)</p>	<p>〔水産生産額（昭和十年）〕……………(54)</p>	<p>〔地〕 税（昭和十年末）……………(56)</p>	<p>〔朝鮮貿易（昭和十年）〕……………(59)</p>	<p>〔道歲入出決算（昭和九年度）〕……………(62)</p>	<p>〔書〕 堂（昭和十年）……………(60)</p>	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="566 481 678 1220"> <p>偶 感……………須々木生六</p> </td> <td data-bbox="502 481 614 1220"> <p>更 と 鑑……………佐藤生吉</p> </td> <td data-bbox="438 481 550 1220"> <p>オリムピック雜感……………安元三郎吉</p> </td> <td data-bbox="375 481 486 1220"> <p>故都の初夏……………庄司香月七</p> </td> <td data-bbox="311 481 422 1220"> <p>朝鮮と洪水……………美都木生吉</p> </td> </tr> </table>	<p>偶 感……………須々木生六</p>	<p>更 と 鑑……………佐藤生吉</p>	<p>オリムピック雜感……………安元三郎吉</p>	<p>故都の初夏……………庄司香月七</p>	<p>朝鮮と洪水……………美都木生吉</p>
<p>偶 感……………須々木生六</p>	<p>更 と 鑑……………佐藤生吉</p>	<p>オリムピック雜感……………安元三郎吉</p>	<p>故都の初夏……………庄司香月七</p>	<p>朝鮮と洪水……………美都木生吉</p>								
<p>質疑應答欄……………六</p>	<p>話の塵(3)……………大義生望</p>	<p>統計メモ……………七</p>	<p>故柳澤伯記念事業資金募集……………七</p>	<p>統計日誌……………七</p>	<p>會 協 會 人 事……………七</p>	<p>編輯後記……………七</p>						

良い照明は眼の護り

近年に於ける近視弱視の増加

(年齢別による増加率)



これは吾國に於ける最近の統計であります。

この恐るべき数字は、過去に於て「物を見ること」に就いて何か大きな誤謬を犯してゐた事を物語るもので、殊に貧弱な照明の下で眼を酷使した爲めにどれだけ健全な眼が徒らに傷はれてゐたかが窺はれるのであります、悪くなつた眼を眼鏡や治療で矯正することを考へるよりもまず、電燈を明るくし眼の悪くなるのを未然に防ぐのが賢明な方法です

京城電氣株式會社

各種財産の信託及
年賦・定期・手形貸付

有利迅速

(營業案内贈呈)

京城府南大門通二丁目十九番地



朝鮮信託株式會社

社長 谷 多 喜 磨

支店所在地 群山・釜山・木浦・平壤・大邱
農場所在地 仙掌・利川・群山・大田・江景・井邑
南原・寶城

テントは中西

京城驛前

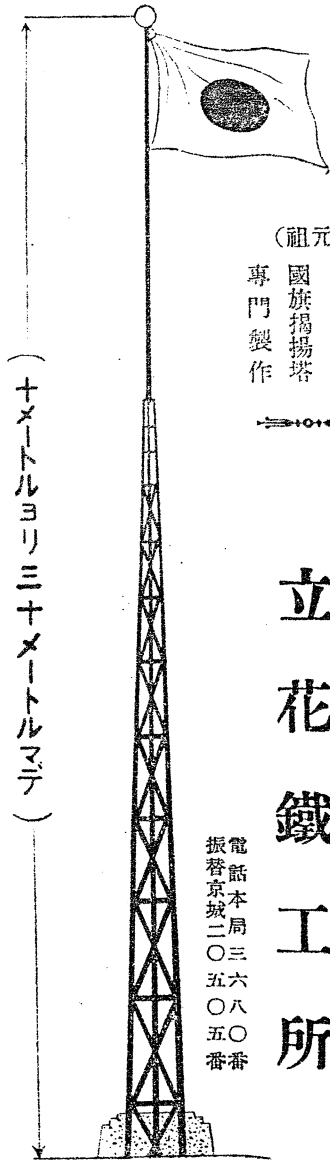
電話番二八四八番

京城府光照町壹丁目一四五

立花鐵工所

(祖元)
立花式鐵骨
國旗掲揚塔
専門製作

電話本局三六八〇番
振替京城二〇五〇五番



朝鮮統計時報

第三號

卷頭小言

今回宇垣總督閣下が朝鮮を去られ、其の後任として南新總督閣下をお迎へすることになつた。昭和六年夏以來五年有餘、その間に於ける宇垣總督閣下の御治蹟については、人皆の知るところである。文化、産業、交通その他に互つて、朝鮮はために面目を一新するところ頗る多く、わが半島が愈々一般に認識され、重視されるに至つたことは顯著なる事實である。

×
しかしながら、宇垣總督閣下の廳員に對する御挨拶中にもあつた如く、わが朝鮮は進歩したりとは云へ、漸く施政二十五年の第一期を経て第二期に入つたのみで、朝鮮が眞にその使命を全うし、民衆が物心兩面の安定を得るためには、爾後の努力を要するもの甚だ多きを覺悟せねばならぬ。新總督閣下を迎ふるに當つて、我々は従來以上の誠意と努力を以て邁進せねばならぬ。

×
オリムピック大會に於ける我が選手の眞剣なる活躍には感激の外はない。各種競技に互つて、我が選手の全心全靈が日本精神に奮ひ立つてゐて、其の結果は成績の上にも極めて如實にあらはれてゐる。殊に半島出身の選手によつて、見事マラソン競技の第一着が占められ、新記録を作るに至つたことは、我々の深く欣びとするところである。

鹽田會長を送り

鈴川新會長を迎ふ

昨秋、朝鮮統計協會創立以來、將に一周年を迎へんとする時に當り、今回歸らずも鹽田會長には文書課長より農産課長に御榮轉になり、新會長として我が協會は、林政課長より文書課長に御來任の鈴川課長をお迎へすることになつた。

顧みれば、我が協會の創立には、幾多の困難が豫想せられてゐたのであるが、昨昭和十年秋十月、始效二十五周年の記念すべき好機に際して、敢然と之を實現し、先づ府邑面職員を主體として、汎く一般の待望の裡に朝鮮統計協會は其の自由度を誕生を見したのであつた。

爾來會務は日々に進捗し、會員六千名を擁して、及ばずながら、協會存立の重大使命のために邁進し來つたのである。これは官民各位の御聲援と關係者の御努力に依るものであることは勿論であるが、此の間に於ける鹽田前會長の御指導と御鞭撻とに負ふところは、極めて大であつたのである。然るに今回の御榮轉に依り、協會生みの親として、はたまた協會草創の間に於ける最も力強い指導者としての鹽田會長と御別れするに至つたことは、誠に惜別の情に堪へないものがある。

斯に我が會長としてお迎へした鈴川文書課長は、忠北内務部長、農林局林政課長等の要職を歴任せられ、而して其の御人格の高潔は既に一般に知られてゐる方である。新會長には必ずや統計及び統計の發達に關し、深き御理解と御同情とを有せらるる事を信じて欣びに堪へないと同時に、今後の協會の満足なる發展のために絶えざる御指導と御援護とを御願ひする次第である。

就任之辭

朝鮮統計協會長 鈴川壽男

今回鹽田前會長の後を承け、朝鮮統計協會長に就任致しましたに付、一言御挨拶申し上げます。

統計の重要性に就きましては、既に本誌創刊號誌上に於て諸家の意見が發表されてゐるところであります。各般の施設經營には、何といつても正確なる統計がその基礎とならねばならぬ時代となつて居ります。殊に朝鮮が、産業に文化に、異常なる發達を遂げつゝあり、諸種の企劃が續々と進めらるべき時運に際會してゐることは、萬人の齊しく認むるところであつて、それと共に、統計の需要は層一層倍加される譯になるのであります。

朝鮮統計協會の創立は、朝鮮がかゝる情勢に當面してゐるにも拘らず、統計界の現狀を顧るとき、今尙ほ依然として不備不整の點あるを否み得ない状態にあるが、其の根本原因は、未だ一般民衆の間に統計思想普及せず、動もすれば統計の重要性を闕却して來た所にあるので、これが打開の一策として、統計思想の普及向上を圖り、統計事務の刷新改善を行はんが爲に爲されたのであります。しかるに昨秋十月の創立以來、僅に一年に過ぎないのであります。會務は極めて順調なる進捗を示し、協會は所期の目的に向つて着々と邁進し來つたのであります。

このことに就いては、會員並に關係者各位の理解と努力によることは勿論であります。また鹽田前會長の御指導宜しきを得たところに、與つて力があつたのであると思ひます。今回其の後任として私が會長に就任することとなり、頗る重責を感じる次第であります。幸ひ各位の御厚情と充分なる御奮闘とに俟つて、協會の満足なる發展に寄與したい覺悟であります。

オリムピツク以上

前朝鮮統計協會長 鹽田正洪

四

オリムピツクの我が陸上軍に不振の慄みがあつた中に於て、わが半島出身の孫基禎君と南昇龍君とが堂々マラソンの一着と三着とを贏ち得て世界環視の中に萬丈の氣を吐き、全國民の感激を喚つた―私は、此の快ニュースを掲げた八月十日の朝刊を前にして、統計事務第一線の青年職員諸君に感想を寄せるのである。

×

オリムピツクの興味と感激とは、畢竟參加各國民の胸中にある國民主義ナショナリズムの琴線を掻き鳴らす所に發するものと謂へよう。選手權保有國民に對する雌伏幾年の努力が酬ひられてメイン、マスト高く日章旗が翻り、君が代の齊唱が起る時に全國民の胸は迫り、涙は思はずはふり落つるのである。選手が快捷の名譽を國民の名に於て享有する心理と同じである此の場合我々は一箇の箇人でもなく、世界の人類でもなく、一人のこらす大日本帝國の國民たる意識と感情に歸一し統合さるゝのである。實に尊くも純一なる感情ではないか。

×

然らば世界各國民がその頭腦、その實力を國際的に測はすものは單りオリムピツクの競技のみであらうか。否であ

る。我々は國民の名に於て、國家の名に於て平素不斷に、ヨリ切實なる生活力を闘はしつゝあるのである。その闘ひは殆ど日目のラヂオニュースを通じ、新聞紙を通じ、或は産業、經濟、貿易、或は軍事、外交、或は教育、科學等々の廣汎なる部門に亘つて爲されつゝあることを知るのである。而もスポーツが國民の體質、技能の優劣を示すに止まるのに比して、これは國家國民の盛衰、興廢を支配するところのヨリ眞劍なる競争である。オリンピックの場合と較べ物にならぬ大いなる國民的感激、國民的昂奮が白熱すべくして案外左様でないのは、此の競争が不斷隱微の間に行はれ、其の諸相が複雑多岐に亘り、優劣、勝敗の數が一々明白でないのによるのであらう。

×

歐洲は大小強弱互ひに國境を接し、四隣の影響を直接に蒙る事情にあるから、其のナショナルリズムは尖鋭に對立し緊張味大に漲る。然るに我國は群島と半島に亘り、想定歐國は比較的遠距離にあり、市民の戰時的訓練としての防空演習の如きすら何となく實感を伴はぬ有様だが、然し仔細に世界情勢を見渡して、我國が東亞の安定勢力としての地位と責務の重きを感ずるときに、國民的に今一層の自覚と緊張の必要ある所以を知るのである。

今度のオリンピックでは、吾々はメデイカだの、ハーバーだのいふ歐米選手中の強豪を知り、次の東京大會の假想敵として備ふるの用意をなすであらう。然し我々も之に百千倍する熱意と認識を以て世界に於ける國力爭覇の現状を知り、深く之に備ふるの決意が無ければならぬ。

×

吾々お互ひの日常携はりつゝある仕事は、量に於て大きいとは謂へない。そんな大きな見解に基いての大きな仕事は、宰相か大臣の役目であると考へられ易いが、それは誤りである。國家は有機的組織により成立つ。豪閣に大臣の必要なると同じ意味に於て行政組織網の凡ての職務を重しとする。人體に於て、頭の働きが大切で足の役目は小さいと謂へぬのと同じく、職分は異にしても、職責に甲乙ないのである。私は此の觀點から、行政第一線の諸君に「仕事は小さくても、氣宇は大きく」との標語を呈して、その自重、自奮を促したのである。

世界を見よ、日本を見よ、そして我々の尊い國民主義的感情をオリムピックの闘ひ以上に昂揚せしめるところの素晴らしい國際猛闘がそこに展開して居る事實を認識せば、吾々お互ひの國力増進に就ての働きの意義が立所に明白となり、今井田前總監の所謂「能動的精神」が力強く湧起して來るのを自覺するであらう。

邑面の棉作技手の働きの結果が反當收量の何斤かを増し、畜産技手の頭腦の所産として綿羊の飼養戸數が何戸殖えたといふことは、それだけの勢ひを以て國家の原料國策を強め、國民經濟の國際競争力を加へるものであることは謂ふまでもない。これらは單に一例であるに過ぎぬ。國家は市町村、府邑面の集合體である。この行政單位に於て、住民の富力が加はり生活が向上して行くことは直ちに日本國家の富強増進を意味する。行政第一線の諸君の任重く且つ感激に値する所以は之れである。府邑面の統計事務擔當者は、日本の國際競争力の構成要素としての下級單位に於ける審判者又は、記録係としての職分を自覺する所に、仕事の意義の大なるを發見するであらう。

要は認識を大きく持つことである。修養である。自己研磨である。敢て切に諸君の思索に懇へるものである。

統計の任務

内閣統計局統計官 森 數 樹

本稿は去る四月二十一日、三重縣主催の下に、四日市公會堂を會場として行はれた日本中部十八府縣統計關係者大會席上に於ける内閣統計局森統計官の講演原稿である。今回特に同氏の御承諾を得て本誌に掲載することとした。

統計の任務遂行上の三問題

惟ふに統計の任務は、複雑多岐に互る社會事象の過去の事實に付きまして、簡明直截にして萬代不易の統計數字に變形表示致しまして、現在社會の實體を的確に認識せしめる材料とし、併せて將來の趨勢を察知し、以て政治行政上各般施設の根本資料を興ふるにあるのであります。従ひまして此の重大任務を完全に遂行して行くには、次の三つの大きな問題があると思ふのであります。

先づ第一の問題は、調査を行ひまして統計數字を作り上げる基本材料を集める事でありませぬ。これを私共は統計實地調査と稱へて居ります。此の實地調査に依つて集めましたものは、皆様が日常新聞雜誌其の他の書物等で御覽になる統計數字そのものでは御座いませぬので、此の材料から誰が何處で何時見ても同一に理解する所の、統計數字に作り上げねばなりません。これを私共は統計材料の製表と稱へて居ります。製表と申しましたも氷を作る譯ではありません。統計表を作ること、これが即ち第二の問題であります。

そこで最後に統計表が出来上りますと、政治家行政官其他統計を利用する者、或は又専門家として統計を研究する學者等は、思ひ思ひの社會事象に付て官民より發表された統計數字を利用し研究するのでありまして、これを私共は統計研究と稱へ第三の問題と致すのであります。

統計實地調査

以上申し上げました通り統計は此の三つの大きな問題に分れるのでありまして、皆様と共に私共は第一の統計實地調査及第二の統計材料の製表に従事致して居るのであります。殊に官府統計に司はる各府縣の皆様方に在りましては、第一の統計實地調査に關與することが最も多いのでありますから、主として茲に問題を限り第一の統計實地調査に付て御話申上げて見たいと思ふのであります。

國として必要を感じて第一義的の統計を得ようと思へた場合には、凡て此の統計實地調査より始まるのでありますから、實地調査は所謂統計のスタートを切るものであります。そのスタートに於て方向、速度に狂ひがあつたならば、其の後の内容が如何に充實されて居つても役に立たないのであります。此の意味に於て統計の尖端を切る實地調査は、統計の任務中最も大切な役割を演ずるのであると申上げることが出来ます。

今二三の例を擧げて見ますならば、此の實地調査の任務が如何に重大であるかの認識が國民の頭に充分徹底致して居りませぬ昔の頃には、調べる者も調べられるものも共に其の程度の考へで實地調査を行ひましたので、全國的に積算された統計數字より眺めて見ますと、誠に恐縮に堪えない事柄が少くないのであります。

牛馬統計の例 試みに一昔も二昔も前の牛馬の統計を見て御覽なさい。毎年屠殺する頭數の方が生れる頭數よりも多いのでありまして、我國の牛馬は其の内一頭も居なくなる譯でありましたが、増えこそすれ、一寸も減る様子が見えませぬ。之れは屠殺の方の統計は、監督の關係上正しいが、生れる方の統計が不正確で實際よりも餘程少い爲であります。

今より三十年許り前の明治三十八年の牛の頭数は百十六萬七千六百十頭であります。其の年の出生は十四萬五千二百五十九頭でありまして、屠殺数は二十二萬二千六百十三頭で一年間に七萬七千三百九十四頭づつ減つて行つて、十数年の内に、日本には牛は居らないと云ふ事になるのであります。今日尙多くの牛が存在して居ります。今日では百四十九萬八千二百六十頭の數に上つて居ります。却つて増加が致して居ります。

米の統計の例 又之れも昔の話の例であります。未だ郡役所のあつた時代でありまして、非常によく統計の効能を知つて居られる或る郡長さんが、一體此の郡からはどの位の米が取れるかを調べまして、一年間郡民が消費するだけの米を取つて、後の残りを最も有利に他縣へ輸出し様との計畫の下に、米の生産統計實地調査を行つた事があります。之れは其の郡長さんが来る前の米の統計を見ますと、その郡一年間の生産高よりも、輸出高の方が餘計であつたのであります。若しそれが事實とするならば、其の郡の方々は米を一粒も食べる所か、御腹から吐き出して居られた譯であります。所が實地調査を正確に行ひました結果、今迄の生産調査に五割近くの誤りのあつたことを發見したのであります。

又古賢エンゲル氏は、人口及米麥の統計よりして、人口は食糧より其の増加の度合は強く、人口は幾何級數的に増加するに對して、食糧は僅に算術級數的にしか増加しないことを發見した。これは統計の鐵則であります。然るに我國の人口及び米の統計を明治初年以來比較して見ますに、人口は三千四、五百萬人が七千萬人になりましたから約二倍の増加であります。之に反して米は二千四、五百萬石の收穫が時として増減はありますが、約六千萬石に増加し、二倍半になつて居ります。米の方の増加の度合が強いのであります。其の原因としては肥料生産等に關する技術の非常な進歩を計へることが出來ますが、それ以上生産統計調査が正確になつたからであります。

人口統計の例 又我國の人口を累年に眺めますと、大正七年から大正九年に於て急減して居るのを見るのであります。

す。これ實際に我國の人口が其の間で約百四十萬人減少したのではなく、人口は徐々に増加して居つたが、大正七年までの人口懸案調査に依る不正確の爲で、人口の虚數が相當にあつたもので、これが大正九年の國勢調査で一掃された結果であります。若しも今日にして尙昔の様な不正確なものでありましたならば、到底今日の様に實際的に正確を賞ぶ時勢には、統計の任務を果すことは出来なかつたであらう。幸にして先輩以來刻苦精勵、今日の殆んど理想に近い實査を行ひ得るやうになりましたことは、誠に慶賀に堪へない所でありまして、一朝一夕にして出来上つたものではありません。我人と共に大なる誇とすると同時に、少しでも心に弛みがありましたならば、元の木阿彌、再び其の不信を天下に關することになるのであります。ほこりとすると共に大に注意を拂はねばならぬ所であります。

我國の統計調査機關

斯様に統計實地調査は統計の任務中最も重要にして而も最も困難な仕事でありますので、之に處する我國地方の統計群は數量的に見まして非常な數に昇るのであります。又其の機關は非常に完備致して參りまして時勢に後れざらんことを努めて居るのであります。

市町村の調査員 第一市町村には、常置されて居ります十有餘萬の産業調査員が居られます。毎年國庫より多額の補助金が交付され、日夜各種の統計資料を、或は實地に付て、或は聽取りの方法に依りまして、蒐集致して居るのであります。其の上に、臨時の統計調査が行はれますと、夫々特殊の統計調査員が設けられます。即ち五年目毎に行はれます國勢調査の際には、二十數萬人の國勢調査員が、毎年任命されて居ります。米の値段を調節致します、基本統計資料を求めます所の生計統計調査には、家計調査員がおります。又失業調査には失業調査員、農業調査には農業調査員と申

した場合には、各専門の統計調査員が設けられました。統計調査中最も困難であり、又最も大切な資料の蒐集を致して居ります。其の人員たるや、實に想像以上の多数に昇るのであります。

府縣廳・市町村役場 第二府縣廳及び市町村役場には、二三人に近い統計事務員が居ります。そうして市町村役場では、統計主任者の下に、調査員を指導監督して、府縣への報告事務に當つて居られます。府縣では統計課の下に、市町村より提出されたものを、國へ報告致しますと同時に、府縣自體の統計事務を司つて居ります。

中央官廳 更に又第三の中央官廳に於きましては、統計局だけでも五百人以上の事務員、此の外各省には多數の關係者がありまして、主として府縣廳より進達された材料に付て、整理編纂を致して居ります。此の外に司法とか軍事とか、交通々信とかの特殊機關にも、相當多數の統計従事員が居られます。此の統計群と申しますか統計網は、中央地方一致協力、夫々の任務に應じ事務を分擔致して居ります。

統計調査員の重要性

是等大團體の統計群の中で最も重要な役割を演じますものは、勿論最前線部隊とも云へる市町村に常置又は臨時に設けらるる各種の統計調査員であります。

これらの方の活動が間違つたならば、國政の運用を如何に誤らせるかは既に牛馬や米の實例を以て御説明申上げた通りであります。其の中で此の部長さんの計畫は有名な話でありまして、物價政策の上から見ましても、又消費節約の點から考へましても、大切な事柄であります。

これに付て思ひ起すことは、嘗つて歐洲大戰が開かれまして、一旦有事の際には如何に調査員が大切な仕事をやつた

か、交戦國は何れも多数の青壯年が戰場に出征し、残つた者も軍需品の製造に従事したりして、國の生産事業が非常に衰へましたから、外國から高い値段で、どしどし生活必需品を買つたのであります。従ひまして日本とかアメリカとかは、戦争の爲には非常に恵まれて澤山の御金を儲けたのであります。その時日本ではどんな品物でも、日本で賣るよりも遙かに利益が多くて、澤山買つて呉れるからといふので、國內の需要などは殆んど考へないで、どしどし外國へ品物を出したのであります。この時に成金と云ふ詞まで生れたことは、皆さんのよく御承知の點であります。白金裏の草履を使用して見たり、寶石の御菓子土産を出したりして、世人を驚かした時代であります。所がアメリカでは國民的訓練が行届いて居りました爲に、正確なる生産統計より消費統計に現はれる量を差引いたものだけは、國內の物價に關係なく、輸出し得るものであるといふので、それだけを輸出致して殆んど狂ひのない程日頃の統計が正確であつたのであります。但し、到底これだけでは歐洲諸國の需要を充たす譯に参りませんので、何とかもう少し輸出したい、物價も上げたくない、茲にアメリカの常設統計調査員等が活動致しまして、一週間の内毎日何か一品づつ輸出する大切な必需品を食べないか消費しないかして、七種の品物に付て一年間の國民消費量を七分の一だけ節約して、剩餘と合せて輸出した相であります。これが有名なレスデーシステムと唱へられて居るものであります。爲に日本が僅に三十數億圓を儲ける間に、米國は一つ桁違ひの三百八十億圓許り儲けましても、日本の様に三倍近くの物價騰貴は致しませんで、二倍一寸位で、國民の生活は安定致して居つた相であります。日本が米騒動やら消費節約なんか云つて騒いだのは、全く汗顔の至りであります。國をして地方をして誤らざる政策施設を行はしむるには、如何にはたの者が精を出しても、元の基礎となるべき資料を誤つたならば、其の後の道は假令正しい道を踏んで進んで參つても、結果として正しい道には戻し得ないのであります。(未完)

統計の話(二)

京城帝國大學教授 大 内 武 次

前回に於て社會上の事實に關する數字が、統計と云ひ得らるゝためには、その正確性を確保する所の統計的調査方法によつたものでなければならぬと云ふことを申し述べました。即ちそのやうな正確性の確保されてゐない所の數字は統計ではありません。無條件に信頼し得る所の數字であつて始めて統計であります。こう云ふ意味に於て統計は近代に遡入つて始めて成立を見た所のものであります。昔はなかつたのであります。先達もさる新聞に日蓮上人の御遺文に、日本の戸口數の總體が示されて居ることから、これが日本の統計の始まりであるとか或はないとか云ふやうなことが細々と考證されて居りまして、その考證をめぐる所の歴史上の研究は精緻を究め、尊敬すべきものであります。然し私は統計なる言葉の濫用には恐れ入らざるを得なかつたのであります。元よりそのやうな戸口に關する數字は、前回に申しました通り、當時の日本の人口状態を推定する一つの資料ではありますが、然しそれは統計とは全く似てもつかないものであります。そんなものが統計であると云ふ風に、一般の世人が考へて居たのだとすると、それは由々しき一大事でありまして、統計はそんなものとは違ふものだと言ふ事を、茲で聲を高くして叫びたいのであります。それと同じく今日發表されて居ります所の數字にありまして、全く統計的調査方法を顧慮しないで得られて居ります所の、その正確性の確保されて居ない所の數字がありましたならば、それは統計ではありません。今日はインチキもの

流行する世の中でありますから、そんなものが統計だとしてのさばつて居ることがないとも云へません。もしさうだとしたなら、それは統計の領域から徹底的に驅逐して終はなければならぬのでありまして、そう云ふものに對する統計と云ふ稱呼は、嚴重に拒まるべき事柄であります。そして統計の統計たる權威は飽く迄保持せしめることにしなければなりません。

この事は前回に申し上げたことに駁足を加へたのに過ぎないのでありますが、要するに統計と統計でないものを區別する重要な點は、その數字が統計的調査方法によつて得られたものであるかどうかと云ふことに存するのであります。それでその當然の順序として、こゝに統計的調査方法の内容を申し上げなければならぬことになるのでありますが、そこ迄話が進む前にもう少し統計そのものゝ外廓を申し上げて置かないと、話の筋道が悪くなりますから、それは後に譲りまして、こゝでは内容に深入りしない所の統計そのものに付て續けて申し上げることにいたします。

科學的精神の勃興と統計

統計は近代に這入つて發生した所のものであると云ふ事は、屢々繰り返して申し上げたことでもあります。然らば統計は何故近代に至つて始めて發生を見たのでありましようか。斯る疑問は自ら生じて來ざるを得ないのであります。これを究めますことは、統計の本質を明かにする上に甚だ必要のことでもありますから、暫らくこの問題を考へて見ましよう。

近代と云ふものは時勢の新しい力が歴史の古い殻を破つて出現して來た所のものであります。第一には文藝復興の機運、次で宗教改革の思潮などによつて、培はれました所の時勢の力が、歴史を押し進めて現はれて來た所の新時代であります。こゝでは古い宗教的の傳統的觀念は棄てられて居ります。それで人々が事物を考察します場合、その古い觀念に囚はれる事なく、新しく事物を直視すると云ふ事が始まつたのでありまして、こゝに自然科學の勃興を見ることにな

つたのであります。この自然科学的精神は何等在來の主觀に囚はるゝことなく、事物を客觀的にありのまゝに考察すると云ふ事に存するのでありまして、自然現象の研究に對しては元よりそれが徹底的に行はるゝことになつたのであります。その精神は更にそれ以外の社會の事物に對しても廣く行はるゝことになつて參りました。然るに社會上の事物を客觀的にそのありのまゝを明かにするが爲めには、統計と云ふ手段による外に他の手段はないのであります。そこでこの科學的精神の要求は、自ら統計の發生を促し、それを發達せしめるに至つたのであります。近代以前にありましては、このやうな科學的精神は見る事が出来ません。即ち統計を發生させる動力がなかつたのでありますから、統計が存立する筈はないのであります。近代に於きまして始めて統計が成立することになりましたのは、主として科學的精神がそれを要求したからであります。

科學的精神の要求があつて、そして統計が發生したと云ふ事は、統計學と統計の發生した時期を較べて見ますと、よく解ることです。こゝでは統計學全體のことを申し上げる場合ではありませんから、それには深入りいたしません。今統計學の發生した時期を溯つて尋ねて見ますと、それは統計が發生しました時期よりか、遙か以前に位するであります。まだ統計のなかつた時に、既に統計があつたと申しますと、それは少し變なことではないかと考へられる方があつても知れませんが、實際さうなのであります。統計學は十八世紀の中葉に、獨逸で「スタテイスティク」と名づけられ、學問として成立したのであります。然るに實際に統計が成立しまして世の中に現はれて來ましたのは、これは後に詳しく申し上げますが、十八世紀末のことです。即ち統計學と統計とはその發生の時期に四、五十年上のギャップがあるのであります。一體これは何を意味することでありませうか。要するにこれは、先程申しました通り、科學的精神によつて學問が先づ起り、次いでその學問の要求する所に基いて、統計が成立したものであることを示すものに他ならないのであります。

この點は今少しく詳しく申し上げて見ませう。近代の科學的精神によつて醸成された所の機運は、社會を客觀的に

研究すると云ふことであります。そこでこの機運に副ふて「スタテイスティーク」なる學問が成立いたしました。このときは元より、統計は存在しなかつたのでありますから、今日の統計學の内容とは全然違ふのでありまして、社會を客觀的に研究する所の一つの企に過ぎなかつたのであります。そしてその内容は當時現存して居つた各國の國力並に國狀の比較研究と云ふやうなことからなつて居つたのであります。けれどもその中には統計に類するが如き數字などは一つもなく、全部記述的の純粹な叙述から成つて居つたのは、統計がなかつた以上當然のことでありまして、この學問は十八世紀の中葉に成立しましてから、その後十九世紀にかけまして、段々と發達を續けて行きました。然し國家の國力並に國狀を記述するにしましても、單にそれを叙述すると云ふこと以外に、もつと明確に客觀的の狀態を表章する所の手段が別に求められなければなりません。即ち一般に社會上の事實を客觀的に表示する所の、手段が求められなければならなかつたのであります。そこで茲に統計なるものが生るゝに至つたのであります。實は實際に統計が生れるに付ては、科學的精神の要求以外に、も一つ他の要件を必要とするのであります。それは國家の政治組織が近代的に改造されなければならぬと云ふことであります。このことは後に説明いたすことでありますから、こゝでは觸れずに置きます。兎も角統計學が生れてから、統計が出現いたします迄に、四、五十年以上を要したこととなりました。尙念のため申し上げておきますが、一旦統計が生れました以上、統計學はこの新たに生れた統計を中心として發達しますことは當然のことでありまして、それでありまして、統計のない時の前述の統計學と、統計が存在して居る時の今日の統計學と、その内容が全然異なつて居るものであることは、云ふ迄もないことであります。

スタテイスティークと云ふ言葉

序でありますから茲に、統計の名稱のことに付て一言申し添へておきますやう。我が國に於けるこの名稱の由來は、前回に申し上げたことであります。獨逸に於きましては、今申しました通り、統計學が先に出來てそれから統計が出來

たのでありますから、その學問の名稱たるスタテイスティクと云ふ言葉は、自然の作用の統計の名稱になつたのであります。然らばこのスタテイスティクと云ふ言葉は、元來如何なる意義を持つたものでありましやうか。先に申しました通り、スタテイスティクと云ふ學問は、各國の國力並に國狀を記述した所の學問であります。この種の學問は實際政治家に對して必須とする所の智識を網羅した所のものである譯であります。所がそれ以前に伊太利で實際政治家を指す言葉に、スタテイスタと云ふ言葉があつたのでありまして、それでこの言葉を借用して、この學問の名稱をスタテイスティクとしたのだと云ふ事であります。それでは何時頃から學問に對する稱呼たるスタテイスティクが、統計そのものを指すことになつたかと云ひますと、それは明確には定め難いことでもありますけれども、統計が成立したのは十八世紀末のことでありますから、それは恐らく十九世紀初頭のことであらうと思はれます。

スタテイスティクなる學問で研究しました所の内容は、國家の國力並に國狀だつたのでありますから、そこには人口、兵力、境域の大小、貿易、其他の記述があつたのであります。それ等の事柄は後に統計が出現しました時、先づ第一に統計として發表された所のものであります。それ故スタテイスティクとは最初そのやうな國家に關する事實を數字で表はした所のものを指したことであつたのであります。然し今日では統計の範圍はもつと廣くなつて居ります。凡て社會上の事實を表示する所の數字のみならず、更に自然現象に關する事實を數字で表示した所のものも含んで居るのであります。それ故スタテイスティクとは今日ではそれ等を包括した所の言葉なのであります。

英語では今日統計のことをスタテイスティクスと呼んで居ります。これは獨逸のスタテイスティクから轉化した所の言葉であります。英國に於ては十八世紀の末頃に獨逸のスタテイスティクなる言葉が輸入されました。そしてそれが英語化されてスタテイスティクスとなつたのであります。その輸入された當時には矢張り、國家又は政治に關する研究を指したものでありまして、學問に對する稱呼だつたのであります。それが十九世紀になりまして、統計が發達しましてから、獨逸に於けると同じやうに、統計そのものを指すことになつたのであります。

英語なり獨逸語なりでは、統計の學問を指す言葉と、統計そのものを指す言葉が同一でありますから、甚だ紛らはしいのであります。この點は我が國では、統計學と統計と云ふ風に判然と區別されて居りますから、甚だ好都合であります。

國家の政治組織と統計

扱以上に於きまして科學的精神の勃興、即ち事物を客觀的に究めやうとする所の要求が、統計を産むことになつただと云ふ事を申し上げました。然し乍らこゝで統計を作成する事業の實際を考へて見ますと、これは容易な仕事ではないのであります。そのためには組織ある所の作成機關がなければなりませんし、又それは多大の經費を要する所の仕事でもあるのであります。さればこれは個人や私人團體の容易に行ひ得ることではなく、どうしても國家によつて行はれなければならぬことなのであります。従つて統計が成立いたします爲めには、國家機關がその仕事のために動いて來なければなりません。即ち近代精神が社會に瀰漫して居りまして、それ丈では統計を産み出すことは出來ないのであります。そのためにはどうしても國家それ自身が、近代精神によつて改造せられることを必要としたのであります。國家が舊政治のまゝであつては統計は産み出し得ないのであります。従つて科學的精神の勃興は既に統計を要求して居たのであります。その統計を實現するためには、舊政治による所の專制國家が仆れて、それに代る所の近代精神に則る國家即ちデモクラシーによる所の國家が成立しなければならなかつたのであります。統計の發生は歐羅巴に於きまして、十八世紀末から十九世紀初頭にかけて行はれました所の、政治上の大革命の成就する日まで待たなければならなかつたのであります。

舊政治の特色は專制政治であると云ふ事が出來ますが、專制政治の下にありましては、統計は全く存在しなかつたのであります。元來專制政治にありましては、爲政者は自己の意思のまゝに政治を左右するのでありますから、その爲政

者の信念による所の一意的の政治が行はれるのであります。殊に暴君の政治になりましたは、抑制のない恣意によつて政治が行はれます。従つてその政治のために何等か調査を行ふと云ふやうな事があつても、それによつて事實そのものを明かにしやうとした所のものは殆んどなく、爲政者が自己の必要とする欲求を満足せしめんが爲め行はれた所のものが大部分を占めるのであります。前回にも申しました通り、統計調査に類似するものとして、古くから人頭調べの類のものが行はれて居ります。然し乍らそれは人口それ自體を明かにするための調査ではなく、徴税のため、或は軍事上の目的のために主として行はれた所のものであります。此類の調査の中で特に著名なものは、古代ローマに於て行はれたものでありまして、今日人口調査(國勢調査)のことを英語でセンサスと申しますが、この言葉はローマのこの調査に淵源するものでありまして、人々がよく例に引く所のものであります。これも亦徴税、徴兵のために行はれた所の調査であります。今日のセンサスとは全く趣を異にしたものでたつたのであります。又人民を登録する所の制度、即ち戸籍の制度なども行はれましたが、これは人口を知る爲めのものではなく、犯罪人の捜査、或は宗教上の宗門改めなどと云ふやうな多種の目的のために定められたものであります。要するにこれ等の調査は爲政者の便宜に存したものでありますから、それによつて、例へば人頭税を賦課する目安が得られよばよいのであつて、只單にそれ丈のものでたつたのであります。その目安に誤があつて思ふ通りの収入が得られなかつたとすれば、それを充たす爲めには更に税を重課すると云ふやうな事も行はれるのであります。それでありまして、この種の調査は爲政者の必要を充たすに足りる丈の範圍内に於てのみ行はれたものでありまして、決して一國の人口數を確認しやうと云ふやうなことは向けられて居なかつたのであります。統計に關する調査とは全く相反した方針に基いて居る所の調査であります。

土地に關する調査も早くから行はれて居ります。以前にありましては、土地は富の唯一の源泉であつて、國力を左右する重要な要素でありますから、各國にその調査の例を見るのであります。英國のドメスデー・ブック、佛蘭西のポリブティックと云はるものは、今日殘存して居ります所のその調査の記録であります。今日歴史家は當時の經濟事情

を採る唯一の資料として、これを深く研究して居ります。この調査は曩の人口に關する調査よりは整つたものだと云はれて居りますが、然しこれも土地の租稅負擔能力を知る爲めに行はれた調査でありまして、それが解れば足る丈の範圍に於て行はれた調査でありますから、今日の統計調査とは全く異なる所のものであります。

要するに以上の如き調査は、人口調査にありましても、亦土地調査にありましても、たゞ爲政者が自己の必要を充す範圍内に於てのみ行つた調査でありまして、その充さんとする要求が、偶々人口なり土地なりに關聯して居つたから、そこで今日から見ればそれは人口調査であり、或は土地調査であつたと云ひ得るのでありますから、即ちそのやうな結果が得られたことは、全く偶然のことであつたと云ふ事が出来るのであります。さればそれは偶然の副産物であるに過ぎないのであります。それ故今日統計調査に於て、事實を客觀的に正確に表示するため、慎重に準備されて居ります所の統計的調査方法が、こゝには全然備はつて居ないのでありますから、これによつて統計が成立し得ることは絶対にあり得ないのであります。

このやうな次第でありまして、専制治下に於きましては統計は存在しないのであります。従つてこのやうな政治狀態が続きます限り、統計の出現は望むことが出来ませんでした。歐羅巴に於て専制政治が打破せられましたのは十八世紀のことです。獨逸の如く封建制度の永く殘存しました國は餘程遅れて居りますが、英吉利の如きは十七世紀に於ける數次の政治上の改革によつて、既に十八世紀の初期には立憲政治が確立せられて居ります。佛蘭西の如きは十八世紀末の大革命によつて、専制政治から一舉に共和政治に移つて居ります。新世界に於けるアメリカ合衆國も亦、十八世紀の後半に母國の羈絆を脱して共和制の政治を樹立して居ります。それでこのやうにデモクラシーによる所の政治が確立せられて、こゝに漸やく今迄見ることの出来なかつた統計が出現することになつたのであります。それでありまして、すからデモクラシーの政治制度は統計を生むだ所の母體であつた譯であります。(未完)

昭和十年末の現住戸口

總督官房文書課

總數 朝鮮に於ける昭和十年末の現住戸口は四、一四二、九七六世帯、二一、八九一、一八〇人で、前年に比し一三二、三七〇世帯、七六五、三五三人を増加した。即ち人口増加の割合は人口千人に付三四・九六人である。人口増加の趨勢を観ると明治四十三年末の一三、〇〇〇千人臺より、大正四年末の一六、〇〇〇千人臺、同九年末の一七、〇〇〇千人臺、同十四年末の一九、〇〇〇千人臺を経て昭和五年末には二〇、〇〇〇千人を越し、同十年末には二一、八九一千人を算するに至つたのである。

大正四年末	三、二七、九七六	一六、二七六、六八九	一三三・三
大正九年末	三、九三、七九一	一七、二六八、九八九	二二九・九
大正十四年末	三、六九、六三四	一九、〇五、五三六	一四二・八
昭和五年末	三、八二、五五四	二〇、二五六、五三三	一五三・三
昭和十年末	四、一四、九七六	二一、八九一、一八〇	一六四・四

道別 昭和十年末の現住人口を道別に観ると、最も多いのは慶北の二、四六九、一〇三人、最も少いのは咸北の七九二、二九三人で、慶北は咸北の三倍以上である。其の他二、〇〇〇千人以上の道は京畿・全南・慶南、一、五〇〇千人以上は全北・黄海・平北・江原・咸南、一、〇〇〇千人以上は忠南及平南、一、〇〇〇千人に満たないものは忠北である。

年次	世帯	人口
明治四十三年末	二、八〇四、〇三三	一、五三三、〇一八
		一〇〇・〇

道名	總數	内地人	朝鮮人	外國人
全鮮	三、八九一、一〇〇	五八三、四三八	二、三〇八、六四四	五八、八八八
京畿道	二、三三〇、五七〇	一四七、六七二	二、一七二、七三三	一〇、〇六五
忠清北道	九三三、四七七	八、五三〇	九〇〇、九三六	六四九
忠清南道	一、四六九、六四〇	二五、二二九	一、四四三、六四四	一、八〇七
全羅北道	一、三三三、八七七	三五、四七三	一、三〇九、九四六	三、〇〇八
全羅南道	二、四〇九、六〇三	四三、九〇八	二、三六五、四四五	一、三三九
慶尙北道	三、四六九、一〇五	四八、六〇七	三、四二〇、九四〇	一、三五六
慶尙南道	二、一九一、五三三	九五、〇七八	二、〇九五、七〇〇	一、六四五
黄海道	一、六九九、七二八	一九、四六六	一、五九七、〇〇〇	三、〇〇二
平安南道	一、四〇九、〇三二	五七、〇三九	一、三五七、三三九	四、七五三
平安北道	一、六二七、七八五	二二、七三七	一、五七二、九八二	一、八〇六
江原道	一、五三九、三五七	一三、六四二	一、五二四、九〇八	八〇八
咸鏡南道	一、六三三、三三三	四六、一〇七	一、五五二、〇〇三	六〇、九三三
咸鏡北道	七九二、二九五	四一、八五〇	七四四、二七七	六、六六六

内鮮外人別 昭和十年末の現住人口中内地人は五八三、四八八、朝鮮人は二、三〇八、六四四、外國人は一〇、〇六五、總人口は三、八九一、一〇〇、内地人は二、一七二、七三三、朝鮮人は九〇〇、九三六、外國人は六四九、忠清北道は八、五三〇、忠清南道は二五、二二九、全羅北道は三五、四七三、全羅南道は四三、九〇八、慶尙北道は四八、六〇七、慶尙南道は九五、〇七八、黄海道は一九、四六六、平安南道は五七、〇三九、平安北道は二二、七三七、江原道は一三、六四二、咸鏡南道は四六、一〇七、咸鏡北道は四一、八五〇、外國人は一、八〇六、朝鮮人は二、一七二、七三三、内地人は二、三〇八、六四四、總人口は三、八九一、一〇〇、外國人は一〇、〇六五、朝鮮人は二、三〇八、六四四、内地人は五八三、四八八、

二四九人何れも増加した。
 尙内地人及外國人の總人口に對する割合を道別に觀ると、内地人は京畿・咸北・慶南に多くて江原及忠北に少く、外國人は平北・咸北・京畿に多くて全南・慶北・慶南・江原に少い。

道名	總數	内地人	朝鮮人	外國人
全鮮	1,000,000	26.5	97.66	2.69
京畿道	1,000,000	23.6	95.84	4.80
忠清北道	1,000,000	9.34	98.95	0.71
忠清南道	1,000,000	17.6	98.61	1.33
全羅北道	1,000,000	22.0	97.53	1.57
全羅南道	1,000,000	17.81	98.68	0.51
慶尙北道	1,000,000	19.69	97.74	0.55
慶尙南道	1,000,000	43.96	95.68	0.55
黄海道	1,000,000	12.03	98.60	1.98
平安南道	1,000,000	26.39	97.34	3.57
平安北道	1,000,000	13.44	97.59	1.17
江原道	1,000,000	8.93	99.55	0.55
咸鏡南道	1,000,000	28.83	98.78	3.80
咸鏡北道	1,000,000	25.82	93.40	7.78

外國人は主として滿洲國人及中華民國人であるが其の國籍を細別すれば次の通りである。

國名	總數	男	女
總數	五八、八八八	四六、四六八	一二、四二〇
滿洲國及中華民國	五七、壹九	四五、八六四	一一、七五五
土耳其	一〇五	五五	五〇
英吉利	一八三	九三	九〇
佛蘭西	五二	三五	一七
獨逸	四	二	二
瑞西	一	一	〇
丁抹	一	一	〇
諾威	一	一	〇
波蘭	四	三	一
瑞典	二	一	一
チエツロ	二	一	一
スロバキヤ	二	一	一
澳地利	五	三	二
露西亞	一五	七	八
北西亞	六七	三七	三〇
北米	七	三	四
濠洲	一〇	五	五

府別 昭和十年末現住人口を府別に觀ると最も多いのは

府名	總數	内地人	朝鮮人	外國人
京	四〇、四三〇	二五、三三二	二六、四六三	六、二四八
仁	八〇、四三〇	二二、四九三	六五、五九五	二、三四三
開	四四、四三七	一、五五四	五二、六七五	三、八
大	三六、七七一	八、八一	二七、四〇七	一、六一
群	四一、〇七	九、七二	三〇、七四三	一、六一
全	四〇、五九三	五、八四一	三三、三六六	一、四一
木	五九、〇四	八、八三	四九、九七七	二、四三
光	三三、七四	七、七三	四四、七二五	一、三
大	一〇五、七二	二六、一五〇	七九、一〇	四、六
釜	一〇、七七一	五、六五二	三、三二	一、八
馬	二九、八五八	五、三六七	二四、四二	一、〇
平	一七、七四六	二、六九	一四、三六	一、〇
鎮	四八、三三四	五、六七五	四一、九五〇	一、〇

京城の四〇四、二〇二人で、釜山の二八〇、二七一人、平壤の一七二、七四六人、大邱の一〇五、七一六人、仁川の八〇、四二〇人之に次ぎ其の他開城・木浦・光州・新義州・元山・咸興・清津は何れも五〇千人以上、群山・全州及鎮南浦は四〇千人以上、大田は三〇千人以上、馬山は二〇千人以上である。

新義州	五、三三〇	八、二七六	五、九六〇	七、〇八四
元山	五、四〇九	一〇、八三二	四、六五六	九、三三三
成興	五、六四四	八、九七五	四、一三七	五、三三三
清津	五、〇八五	一〇、三三三	三、八七五	九、八七七

男女別 昭和十年末現住人口中男は一、一六、一四

四人女は一〇、七七五、〇三六人で女百に付男は一〇三・

一七人に當り、前年に比し男の割合を〇・三三人減少した。而して此比率を道別に觀ると江原の一〇六・九五人最も高く全北の一〇五・〇五人、咸北の一〇五〇〇人之に次ぎ平南の一〇〇・四九人最も低く、全南の一〇〇・七四人、黄海の一〇一・一五人之に亞いでゐる。

道名	總數	内地人	朝鮮人	外國人
全鮮	一〇五、七七一	一〇三、六七一	一〇一、七七八	三、七〇二
京畿道	一〇五、〇八〇	一〇一、四四三	一〇〇、五五三	四、五七二
忠清北道	一〇四、八八二	一〇三、二二二	一〇二、六六九	四、四五三
忠清南道	一〇四、九三三	一〇三、三三三	一〇三、〇六一	五、三三〇
全羅北道	一〇五、〇四三	一〇一、三三三	一〇三、九八四	四、五八六
全羅南道	一〇〇、七五四	一〇三、三三〇	一〇〇、三三三	四、七〇七
慶尙北道	一〇一、三三三	一〇一、三三三	一〇一、三三三	四、二七七

道名	人口	面積(方軒)	一方軒に付人口
慶尙南道	一〇一、〇〇〇	一〇五、六〇〇	一〇一、七七一
黄海南道	一〇一、一五五	一〇四、三三三	一〇〇、八八八
平安南道	一〇〇、四九九	一〇三、七三三	九九、九六六
平安北道	一〇一、六六八	一〇三、六六六	一〇一、五五五
江原道	一〇六、九九五	一〇三、八八八	一〇六、八八八
咸鏡南道	一〇四、五七七	一〇六、八八八	一〇三、七三三
咸鏡北道	一〇五、〇〇〇	一〇二、四四四	一〇三、五五五

密度 昭和十年末の現住人口密度は一方軒に付九九・二

人で前年に比し三・五人を増加した。各道の人口密度を觀ると京畿の一八一・八七人最も高く、忠南の一八一・二二二人之に亞ぎ、其の他全北・慶南・全南・慶北及忠北は相次いで密度高く何れも全鮮平均を遙かに超過してゐる。

最も低いのは咸北の三八・九四人で咸南・平北及江原も著しく平均以下である。而して黄海は九六・七七人、平南は九四・四一人で何れも平均密度に近し。

道名	人口	面積(方軒)	一方軒に付人口
全鮮	一〇五、七七一	一〇五、七七一	九九、一六六
京畿道	一〇五、〇八〇	一〇三、七三三	一〇一、八七七
忠清北道	一〇四、八八二	一〇三、三三三	一〇一、三三三

忠清南道	一、四九九、六四〇	八、一〇六、四八	一八一、三三
全羅北道	一、五五五、八二七	八、五五三、二七	一七九、五七
全羅南道	二、四〇九、六〇三	一三、八八七、三三七	一七五、五二
慶尙北道	二、四九九、〇三	一八、九八八、八三	一五〇、〇三
慶尙南道	二、一九一、五二	一三、五〇四、五八	一七八、一一
黃海道	一、六九九、七二八	一六、七三三、六六	九六、七七
平安南道	一、四〇九、〇三一	一四、九三三、二八	九四、四二
平安北道	一、六七七、八五	二八、四四四、五〇	五八、八八
江原道	一、五九一、五三七	二六、二六二、九九	五三、三三
咸鏡南道	一、〇三三、三三五	三、九七九、四七	五〇、二四
咸鏡北道	七三、三三	二〇、五五六、五〇	五八、九四

一世帯人口 昭和十年末に於ける一世帯當人口は平均五・二八人で、内地人は四・〇三人、朝鮮人は五・三三人、外國人は四四〇人である。

道名	總數	内地人	朝鮮人	外國人
全鮮	五、二八	四、〇三	五、三三	四、四〇
京畿道	五、一九	四、三〇	五、二七	五、一九
忠清北道	五、三八	三、六七	五、四〇	三、三六
忠清南道	五、四一	四、〇七	五、四四	三、六七
全羅北道	五、二五	四、八八	五、一八	三、八一
全羅南道	五、〇三	四、三〇	五、〇五	三、六一

慶尙北道	五・三三	四・一五	五・三三	三・三四
慶尙南道	五・七七	四・一九	五・三三	三・五九
黃海道	五・一五	三・六四	五・一八	三・七四
平安南道	五・五五	四・一六	五・二九	四・九八
平安北道	五・四四	三・四〇	五・五九	五・三四
江原道	五・三七	三・五六	五・四〇	三・〇三
咸鏡南道	五・六五	三・四八	五・七七	三・三九
咸鏡北道	五・四九	三・七三	五・六六	三・九三

職業別 昭和十年末の現住戸口の世帯を職業別に觀ると、「農林及牧畜業」最も多く總數の七割二分を占め、之に亞ぐは「商業及交通業」の八分、「公務及自由業」の五分「工業」の三分、「漁業及製鹽業」の一分の順位である。尚「其他の職業を有するもの」は八分、「無職及職業を申告しないもの」は二分である。

更に内地人、朝鮮人及外國人別の職業を觀ると、内地人は「公務及自由業」の四割三分最も多く、「商業及交通業」の二割七分と「工業」の一割五分之に亞ぎ、朝鮮人は「農林及牧畜業」の七割五分最も多く、「商業及交通業」の七分と「公務及自由業」の三分之に亞ぎ、外國人は「商業及交

「通業」の四割七分最も多く、「農林及牧畜業」の二割一分と「工業」の一割五分之に亘いでゐる。

職 業	總 數		内 地 人	
	實 數	千 分 比	實 數	千 分 比
總 數	四,四三,九七六	一,〇〇〇.〇〇	四,四三,九七六	一,〇〇〇.〇〇
農林及牧畜業	二,九三三,二二二	七三〇.〇四	七九八,八四四	一八〇.〇〇
漁業及製鹽業	六〇,〇三三	一.四四	二,四五六	〇.五七
工 業	一三三,〇二七	三.〇二	二一,四八五	〇.五三
商業及交通業	三三三,〇六四	八.〇八七	五八,九四四	一.三三
公務及自由業	一九四,九六一	四.六一九	六一,五九四	一.四七
其他の有業者	三三三,〇二七	八.〇八七	六,一三六	〇.一四
無職及職業を申告せざるもの	一〇一,三三九	二.四九	六,二二六	〇.一五

(續)

職 業	外 國 人	
	實 數	千 分 比
總 數	一,〇〇〇.〇〇	一〇〇.〇〇
農林及牧畜業	三,九四一,七三三	八八.九一
漁業及製鹽業	二,九三三,二二二	六.六三
工 業	一三三,〇二七	三.〇二
商業及交通業	三三三,〇六四	七.五三
公務及自由業	一九四,九六一	四.四一

其の他の有業者 無職及職業を 申告せざるもの	昭和十年末	昭和九年末	昭和八年末	昭和七年末	昭和六年末
三,七六五	九四,九二〇	三三,八二二	一,六五七	一,六五七	一,六五七

内地人本籍地別 昭和十年末の現住内地人を本籍地別
に觀ると、九州區の二二二、四三九人最も多く總數の三割
六分四厘を示し、中國區之に亞ぎ一三一、五七五人で總數
の二割二分五厘に當り、此の二地方で現住内地人の半數以
上を占めてゐる。

本籍地	昭和十年末				
	實 數	千 分 比	九 年 末	八 年 末	七 年 末
總 數	五三,四七二	一,〇〇〇.〇〇	五三,四七二	五三,四七二	五三,四七二
樺 太	三六四	〇.七	三六四	三六四	三六四
北海道	三,八三〇	七.一五	三,八三〇	三,八三〇	三,八三〇
東北區	三〇,六九六	五.七三	三〇,六九六	三〇,六九六	三〇,六九六
關東區	五,五八八	一.〇五	五,五八八	五,五八八	五,五八八
北陸區	二,〇三六	三.八	二,〇三六	二,〇三六	二,〇三六
東山區	二〇,六九〇	三.八	二〇,六九〇	二〇,六九〇	二〇,六九〇
東海區	二,八三二	五.三	二,八三二	二,八三二	二,八三二
近畿區	四,六一七	八.〇	四,六一七	四,六一七	四,六一七
中國區	三二,七五五	六.一	三二,七五五	三二,七五五	三二,七五五
四國區	四,六八九	八.七	四,六八九	四,六八九	四,六八九
九州區	二二,四三九	四.二	二二,四三九	二二,四三九	二二,四三九
沖繩縣	二五〇	〇.五	二五〇	二五〇	二五〇

他府邑面に常住する者の人口概數調

臨時國勢調査課

昭和十年國勢調査に於て新規に調査項目中に加へられたものの中に常住地と云ふがある。之は現在人口の外に行政上の施設計畫等に必要な資料である。常住人口を明かにし、以て兩種人口の差異を知らむとする趣旨の下に調査せられたのである。

此の嚴密なる調査結果の發表は朝鮮國勢調査報告道編に逐次發表せられる筈であるが、最近整理事務上の必要に迫られ、他府邑面に常住地を有する者即ち平常自分の居住し

て居る府邑面に於て調査を受けなかつた者、更に換言すれば申告書の常住地欄に常住地の記入しある者の道別總數を申告書より抽出して調査したものである。勿論之は絕對正確なものとは謂へないし、且つ其の歸屬する常住地に之を還元した眞の常住人口ではなく、單に他府邑面に常住地を有する者が何人位あるかと云ふ事を見るに過ぎないものであるが、其の概數を表示すれば次の通りである。

常住地別人口

道名	他府邑面常住者		ナシ(不明又ハ不詳)		合		計
	男	女	男	女	男	女	
全 鮮	二七、二五二	一一、〇〇〇	三、七七一	一、四〇八	三一、〇二三	一二、〇〇八	四三、〇三一
京 畿 道	三、〇七〇	一一、三六〇	四、一三三	二、四三〇	七、二〇三	一三、七九〇	二〇、九九三
忠 清 北 道	一〇、五八三	五、四四一	二、一七二	〇	一二、七五五	五、四四一	一八、二〇〇

忠清南道	一四、九二九	七、七九二	三、七二〇	三、〇〇〇	三	二、五二一	一、五二九	七、八三三	三、九二二
全羅北道	一九、〇七一	八、五九二	二、七六〇	二、六三三	四一	三、〇四一	一九、三三三	八、六四〇	二、七九七
全羅南道	二五、三三九	九、二九五	三、四三三	四、〇〇五	九四	四、九一九	二五、六四四	九、八七二	三、五〇三
慶尙北道	三三、二九四	一四、六五一	五、九四三	五、〇〇三	八二	四、三二四	三三、六三七	一四、七三三	三、七、五六一
慶尙南道	二七、九二〇	九、九七三	三、七、八九四	三、五三九	二、八七	六六七	二八、四四九	一〇、一三三	三、八、五六一
黃海道	一五、二九五	五、一一九	三、〇、四三三	三、五三	八七	三三七	一五、五五三	五、二〇六	三、〇、七四九
平安南道	一四、一四九	九、七三六	三、三、八八七	三、六〇	一一	三七三	一四、四〇九	九、八五〇	三、四、二五九
平安北道	三三、〇一一	八、七七七	三、三、三三八	三、〇〇八	一一	二五九	三三、七〇九	八、七七八	三、二、四八七
江原道	二二、二七四	六、七七五	二、八、〇六九	二、六三三	七五	三、四〇〇	二二、五五九	六、八七〇	二、八、四八七
咸鏡南道	三二、八二六	一一、八四三	四、三、六六九	六、七三	一、五	八三九	三三、四九八	一一、九九九	四、四、四九四
咸鏡北道	一六、五七九	四、〇五九	二、〇、四三八	六、六	三	八九	一六、四四七	四、〇、八〇〇	三、〇、五三七

右の表に依れば他府邑面に常住地を有するものの總數は男二十七萬二千五百五十一人、女十一萬五千人、計三十八萬七千五百五十一人であつて、常住地の不明又は無しと申告された者男四千五百五十五人、女千四十八人、計五千二百三十三人である。之を道別に觀るとき、流石に京畿道は最も多く四萬三千六百九十一人を算し、之に亞ぐ咸鏡南道が四萬三千六百六十九人で僅かに二十二人の開きを以て第二位を占めて居ると云ふことは、近時北鮮に於ける各種産業、交通、經濟の異狀なる發展に伴ひ其の一時的來住者の激増を物語るものにはなからうか。

次に慶尙南道、全羅南道、平安北道の四道は孰れも三萬人臺、忠清南道、全羅北道、黃海道、平安南道、江原

道、咸鏡北道の六道は各二萬人臺であつて、忠清北道最も少く一萬六千六人を示して居る。之を男女別に觀るとき各道孰れも女より男の數著しく多く、總數に於ても亦女は男の半數に達せざる状態である。之を要するに一時的人口移動の原則が女より男に多いことを證明するものであらう。尙常住地の不明又は「ナシ」と申告されたもの合計五千二百三人に達して居ることは聊か注目し得るものであつて、調査員が申告書記入上の注意事項を熟讀し、之に適合する様記入を爲さしむるに於ては今少しく正確なる常住地を記入せしめ得たのではなからうか。單に面倒だと云ふので「不明」とか「ナシ」とか記入して了つた嫌が多いのではなからうか。研究を要する問題である。

報告例の解説

村 辻 元

本府報告例に依つて作製せられる諸表は、前にも申述べました通り、或は施政計畫の材料として、或は法令實施の状況を知る材料として、或は諸般事務の参考資料として極めて必要であるばかりでなく、其の他各方面に利用の範圍が極めて廣いのでありまして、其の結果は本府施政年報、統計年報等に發表されて居ります。かやうに重要な資料となるのでありますから、本府報告例に依る各表報告の正否は、其の影響するところが寔に重大であります。報告例別冊は、尙承知の如く甲乙二冊から成つて居り、報告表の總數は五百表を超過してゐますが、一表たりとも疎にすることの出来ないものであります。

而して之等の表には、報告例に注意事項が記載され、表の作製に當つて注意すべき要項が示されて居りますから、各表の作製には必ず之を熟讀誦味して誤謬なきを期せねばならぬのであります。注意事項のみでは各表の理解、作製に困難を感ずることも有りはしないかといふ老練心から、以下各表についての意見を述べて多少の御参考に供したいと思ひます。

報告例 第八二號 耕地面積表

耕地とは秩序的に耕耘して農作物の栽培に供せらるる土地で普通畝

(内地の田)と田(内地の畑)とに分れ、畝は水を灌溉して主として水稻を栽培し、田は時に灌水することもあるが、これを澆灌させずに各種の作物を栽培するのであります。畝は更に排水不良で常に水濕の多い濕畝と、排水良好で主作物の收穫後は排水して田(畑)同様に利用の出来る乾畝とに分れ、また同一年に同一地に作物を栽培する回數を基準として一毛作畝、二毛作畝に分類されます。而して多くの場合濕畝は一毛作畝、乾畝は二毛作畝として利用されてゐます。

土地臺帳登録耕地とは規定に依つて土地臺帳に記載せられてある畝、田を指すのであります。それ故年末現在の登録耕地面積は土地臺帳面の畝、田が悉皆訂正せられてゐる場合は十二月末現在の土地臺帳集計簿から採つて記入すれば宜しいのであります。土地の異動が多いために年末に至つても土地臺帳が未だ訂正せられてゐない場合には、之等は土地の異動關係書類又は關係者に付異動後の實際の地目、面積を調査し、年末現在に於ける土地臺帳集計簿の結果を加除訂正しなければ正確な數字が得られないのであります。今土地の異動を生ずる場合を擧げると次の如きものがあります。

イ 耕地を耕地にあらざる他の地目に變更したる場合
ロ 耕地整理等に依り道路、溝渠、溜池等に變更したるもの

(二) 非課税地成に依り鐵道用地、鐵道線路、道路、堤防等に變更したるもの

(三) 谷、池沼、雜種地に變更したるもの

耕地中相互に地目變更したる場合即ち地目變更に依り田が谷に、谷が田に變更するが如きをいふのであります。

ハ 誤謬訂正に依り地目、面積に變更ありたる場合

然しながら此處に注意しなければならないのは、一年若くは數年間休閑して耕作しない耕地や水害、山崩れ其他天災に依り荒地となつた耕地は如何に取扱つたらよいかといふことであります。休閑地は土地所有者又は耕作者の意志に依つて耕作しないで勿論耕地でありませぬ。又荒地は地目變換を爲さないものは復舊作業をなして耕地に復した部分から逐次耕作をなすのが通例でありますから、荒地になつて番田の形態をなしてゐなくても、規定に依る地目變換が行はれてゐない限りは、土地臺帳面の通り、耕地として記入することになつて居りますから、之が爲集計簿の結果を訂正してはなりません。然しながら前申述べた耕地整理、非課税地成等は天災ではなく、所有者又は耕作者が進んで地目を變更したのであつて、全く荒地とは其の趣が異つてゐるから、當然異動後の地目に依らねばなりません。

土地臺帳未登録耕地とは、香または田と看做し得べきもので、例へば耕地にあらざる他の地目を耕地に變更して地目變換未済の爲め未だ土地臺帳に耕地として登録せられてゐない土地であります。この種の土地の面積は核算を見積り掲記することになつて居ります。然し注意を要することは、火田面積は別途に調査されてゐますから此處では調査を要しないことであります。(注意四参照) 今火田以外に未登録耕地

とされるのは次のやうに耕地でないものを耕地とした場合であります。

一 非課税地より耕地となしたるもの、例へば開墾に依り林野を耕地となしたるもの

二 湖、海等公有水面を埋立て又は干拓して耕地となしたるもの

三 谷、池沼、雜種地より耕地となしたるもの
因に耕地整理の概要を申しますと、耕地の利用を増進する目的で其の所有者が共同して土地の交換若くは分合、區劃、形狀の變更、道路、堤塘、畦畔、溝渠、溜池等の設置及び之に伴ふ灌漑、排水に関する設備並に工事を行ふを謂ふのであります。

他表との關聯 調査の結果得た耕地面積の計數が正確か否かを見る爲には、次に示すやうな關聯ある表又は事項に付審査することを忘れてはなりません。

イ 土地臺帳の登録及未登録の番の面積の合計から休閑地を除いた面積は、米の作付反別と番に米の代作物(運根・慈姑・蘭・芹・莞草等)を栽培した面積の合計段別とは符合すべきものであります。

ロ 番の二毛作の面積は、其の年中二回以上收穫をなした土地で、米の後作物として作付した麥や綠肥(紫雲英・青刈大豆・ヘアリベツテ・ルーサン等)等の作付反別の合計と符合すべきものであります。

ハ 報告例第九五號土地改良事業表の番總面積に荒地成を加へたものは、耕地面積表の番面積と符合すべきものであります。

ニ 本表附表の自作、小作別面積表中には休閑地でも小作契約のあるものは小作地に、他は自作地として計上し、總計に於て本表と符合せしめられたのであります。

報告例 農業戸数表
第一七九號

様式一 農業戸数表 本表で謂ふ農家とは、田又は畚を耕作する者及之等の被備者即ち耕地を有せず農家に雇傭せられ農業に従事して獨立の生計を営むものであつて各一世帯を爲すものであります。林業・牧畜業等のみを行ふ者は含んでは居りませぬ。又火田民は報告例第一四八號火田面積及火田耕作者戸口表に於て調査するので是處では調査しないことになつて居ります。

専業とは本表では農業のみを営む者又は農業を主として傍ら他の業務を営む者で、兼業とは他に主なる職業を有つて居りて傍ら農業を営む者を謂ふのであります。これは概して南群に多いのであります。

様式二 營農種別農業戸数表 本表中の自作、小作等に付ては注意事項に説明がありますが、茲に考慮を要する問題があります。それは東拓又は農場等の移民で、普通の小作人と異り、年賦償還等の方法に依つて會社又は農場等の土地を耕作する者であります。之は自作とするのが適當であると認められます。何となれば農業戸数の營農種別は農政上農家の耕耘その他經營状態を調査するのであつて、右掲の如き移民の大部分は普通小作人と異り、相當の實力を有し雇人を使役し、中には耕地の幾部を他人に小作せしめ地主と異ならないものがあるからであります。勿論それ等移民の土地を更に他人が小作したる場合には其人は小作となるのであります。

他表との關聯 様式一及二を通じ本表を利用する場合は相當に多いのであります。例へば農家一戸當りの耕地面積を見るにも、農家一戸當りの家畜數を見るにも、その他各種の事項に互つて廣く用ひられ

ます。従つて本表は報告例中の他表との關聯あるものが随分あります。之等は嚴密に彼此對照して調査の正確を期せねばなりません。今參考の爲その一、二の例を擧げることによります。

1 本表の自作 小作、自作兼小作の各農家戸數と報告例第八二號耕地面積表(附表)の自作農の自作面積、小作農の小作面積、自作兼小作農の自作面積及自作兼小作農の小作面積とはそれぞれ對照し、營農種別毎に農家一戸當り耕地面積を調査し、耕地と農業戸數に矛盾なきやう注意せられたいのであります。

報告例第一六三號現住戸口職業別表の農林及牧畜業とあるは農業・林業・牧畜業の外に養蠶及び狩獵を業とする者を調査するのであります(同表注意九參照)、何れも其業の専業(同表では主業となつてゐる)戸數のみを掲記するのでありますから、林業・牧畜業・養蠶業狩獵のみ営む者が少數であるときは農業戸數表の總戸數は現住戸口職業別表の農業及牧畜業者の戸數より多くならなければなりません。

報告例 家畜及家禽表
第一七七號

様式一 牛種別表 牛は犬について家畜中最古のもので數多の種類があります。牛屬は現在大別して羊牛・水牛・野牛・半野牛・原牛及び家牛の六種であります。其の内家牛は最も普通のもので、性質温順で我々の生活上かくべからざる家畜の一つであります。よく人の労働を援け、乳及び肉は滋養に富んで人の嗜好に適し、其の糞尿は肥料として效用多く、角、骨及び皮は加工して種々の方面に用ひられます。牛を形態から分けると類原牛・長額牛・大額牛・短額牛となり、長角牛・中角牛・短角牛・無角牛となります。また産地の地勢により山

岳牛・平原牛・穀谷牛とし、用途から見るときは乳用牛・肉用牛・役用牛、兼用牛となります。しかし普通は産地により区分せられてゐます。以下報告例記載の牛種について述べて見ます。

朝鮮牛 古來全道にわたり飼養せられ、性質温順にして使役容易なること、體質強健にして粗放なる飼養管理に堪ゆること、肢蹄強靱にして動作が活潑なること、挽曳馱載等力役能率の大なること、肥育性に富むこと、皮質の良好なること等が朝鮮牛の特徴であり、美點長所であります。農業經營上必要なばかりでなくこの朝鮮牛は農家の貴重なる財産であり、農村に於ける金融財源ともなり、また朝鮮は一般に牛肉嗜好の習慣が強く民族生活と密接なる關係を有してゐます。朝鮮牛の系統に就いては種々の議論があり、或は印度牛或はジャバ系統といひ類原牛酷似のものといふが、まだ詳らかではありません。その體型は全鮮を通じて一様のやうであります。仔細に觀るときは、大小型態其の他不揃であつて地方的に多少異なり、一般に西北鮮地方の牛は南鮮地方のものよりも體型が大きい。この朝鮮牛が初めて内地に輸出されたのは相當に古く、今より七百九十餘年前、堀河天皇の御代に對馬の住民と貿易したのに始まり、下つて豊太閤の征韓役に際し松浦某なる者が朝鮮牛を持ち歸り、長崎地方に飼育繁殖したといふことから今以て高麗牛の稱があるといふのを見ても随分古くから内地に入つたものであります。而して現在朝鮮牛が内地に移出されるものは年々約七萬頭といふ莫大な數に上つてゐます。

ホルスタイン種 これはまたホルスタイン・フリージヤン種ともいひます。ホルスタインの名はデンマルクに近いドイツの州名で、フリージヤンは本種を多く飼養するオランダの西フリースランド州名に基くのであります。元來ドイツ、オランダの北海に面した地方には體

型の類似した黒白の牛を産し、ホルスタインはこれ等共通の原種より産したものであります。體は大きく性質が極めて温順で管理も容易であるが虚弱で結核に侵され易い。泌乳量は最も多い種類であるが稀薄であつて、バター製造用には適當でない。生乳用竝にチーズ製造用には適當し、牧場に飼育せらるるもの多く、我國の重要な乳牛であります。其の色は普通黒と白との斑であるが、赤と白との斑もありません。

エアシャヤ種 イギリス、スコットランドのエアシャヤ州の原産で性質強健、粗放な飼養管理に耐へ、しかも泌乳量が多く、且つ其の質が濃厚で滋味に富み、我國でも一時盛んに飼養されたことがありましたが、漸次その數を減じました。毛色は白と褐との斑で生體量牝五、六百斤、牡七、八百斤で體格中等大であります。

これ等の外にも色々の種類があるが、今はこれを省略します。
横式二馬種別表 馬は石器時代から家畜として飼養せられたものと云はれ、當時は主に食用に供せられたものらしく、使役に用ひたか否かは詳らかではありません。我が國では神代の昔から馬匹を使用し、馬に鞍を置いて乗つたことも神代に始まつたやうであります。性質温順でよく力役に堪へ、又騎乗に適します。

現在生存する馬屬は家馬の外に驢馬及び斑馬があります。其の内幕は最も廣く飼養せらるるもので、學問上から見ると一種であるが、人為陶汰の結果大小形状一様でなく、品種は約四十種に達してゐます。これを分類するには産地別に依るの外、血種による分類法、頭形による分類法等種々あるが、實際上最も便宜とせられ、且つ多く用ゐられてゐるのは用途別分類法に産地別分類法であります。用途別

岳牛・平原牛・谿谷牛とし、用途から見るときは乳用牛・肉用牛・役用牛、兼用牛となります。しかし普通は産地により区分せられてゐます。以下報告例記載の牛種について述べて見ます。

朝鮮牛 古來全道にわたり飼養せられ、性質温順にして使役容易なること、體質強健にして粗放なる飼養管理に堪ゆること、肢蹄強靱にして動作が活潑なること、挽曳駈駝等力役能率の大なること、肥育性に富むこと、皮質の良好なること等が朝鮮牛の特徴であり、美點長所であります。農業經營上必要なばかりでなくこの朝鮮牛は農家の貴重なる財産であり、農村に於ける金融財源ともなり、また朝鮮は一般に牛肉嗜好の習慣が強く民族生活と密接なる關係を有してゐます。朝鮮牛の系統に就いては種々の議論があり、或は印度牛或はジャバ系統といひ類原牛酷似のものといふが、まだ詳らかではありません。その體型は全鮮を通じて一樣のやうであります。仔細に観るときは、大小型態其の他不揃であつて地方的に多少異なり、一般に西北鮮地方の牛は南鮮地方のものよりも體型が大きい。この朝鮮牛が初めて内地に輸出されたのは相當に古く、今より七百九十餘年前、堀河天皇の御代に對馬の住民と貿易したのに始まり、下つて豊太閤の征韓役に際し松浦某なる者が朝鮮牛を持ち歸り、長崎地方に飼育繁殖したといふことから今以て高麗牛の稱があるといふのを見ても随分古くから内地に入つたものであります。而して現在朝鮮牛が内地に移出されるものは年々約七萬頭といふ莫大な數に上つてゐます。

ホルスタイン種 これはまたホルスタイン・フリージヤン種ともいひます。ホルスタインの名はデンマルクに近いドイツの州名で、フリージヤンは本種を多く飼養するオランダの西フリースランド州名に基くのであります。元來ドイツ、オランダの北海に面した地方には體

型の類似した黒白の牛を産し、ホルスタインはこれ等共通の原種より産したものであります。體は大きく性質が極めて温順で管理も容易であるが虚弱で結核に侵され易い。泌乳量は最も多い種類であるが稀薄であつて、バター製造用には適當でない。生乳用竝にチーズ製造用には適當し、牧場に飼育せらるるもの多く、我國の重要な乳牛であります。其の色は普通黒と白との斑であるが、赤と白との斑もあります。

エアシャ種 イギリス、スコットランドのエアシャ州の原産で性質強健、粗放な飼養管理に耐へ、しかも泌乳量が多く、且つ其の質が濃厚で滋味に富み、我國でも一時盛んに飼養されたことがありましたが、漸次その數を減じました。毛色は白と褐との斑で生體量牝五、六百斤、牡七、八百斤で體格中等大であります。

これ等の外にも色々の種類があるが、今はこれを省略します。
横式二馬種別表 馬は石器時代から家畜として飼養せられたものと云はれ、當時は主に食用に供せられたものらしく、使役に用ひたか否かは詳らかではありません。我が國では神代の昔から馬匹を使用し、馬に鞍を置いて乗つたことも神代に始まつたやうであります。性質温順でよく力役に堪へ、又騎乗に適します。

現在生存する馬屬は家馬の外に驢馬及び斑馬があります。其の内家馬は最も廣く飼養せらるるもので、學問上から見ると一種であるが、人爲淘汰の結果大小形状一様でなく、品種は約四十種に達してゐます。これを分類するには産地別に依るの外、血種による分類法、頭形による分類法等種々あるが、實際上最も便宜とせられ、且つ多く用ゐられてゐるのは用途別分類法並に産地別分類法であります。用途別

たしてゐます。性質は遠慮で忍耐力に富むが、強靭に乏しく、走ることは遅い、現在では小荷物の運搬或は耕犁を牽かせる外、牡種は此馬に配して騾を作るに用ひられ、枯草、藁等を與へて農家に飼養せられてゐます。野生の體はアジア及びアフリカに數種あるが、いづれも大同小異であります。

騾は牡種と牝馬との雜種で其の體格は一般に馬に似てゐますが、長耳を具へ裸出せる尾根を有してゐます。粗食でよく勞働に堪へ、重要な家畜の一つであります。毛は粗糙で短く、普通は黒褐色であるが、稀には灰色或は赤褐色のものがあり、黒色の縦斑のある者もあります。

山羊は顔が平直で圍味を缺き、雄雌共に多くは角があり、その角は上向して末端が後方に向いて居り、下顎に長鬚があつて、被毛は長くて粗であるといふやうな點は、一般によく知られてゐる通りであります。其の毛は綿羊の如くよくはないが織物の原料となり、乳は濃厚で蛋白質及び脂肪を多量に含んで滋養分に富み、其の效能は牛乳に優つてゐる位であります。肉も亦美味で滋養に富み、毛皮は韃にして衣服の材料とします。通例肉用、乳用及び採毛用等に區分せられますが、朝鮮では肉用及び乳用のものが多いのであります。其の體の大小毛色等は一概でないが、黒色のものが最も強健であります。騾動は活潑敏捷で、消化力が強く、粗食に堪へ、飼養容易で蕃殖力が強く甚だ有利な家畜とされてゐます。

山羊は俗に羊といひ、山羊と區別するために羴羊といつてゐます。古來朝鮮には羴羊を飼養したることゝなり、帝王に於て祭牲として飼養されてゐたのであつたが、近世に入り漸くその飼養が始め

り、殊に最近國勢が著しく國民經濟主義に傾き、羊毛自給の必要が痛感せらるゝに至つて、昭和九年大規模の純羊獎勵計畫を樹立し、國策的使命の達成を期すると共に農村振興の一助たらしむべく、その計畫が實施せられてゐます。而して朝鮮に於ける純羊はコリデル種を以てその獎勵品種と定めてゐます。

元來綿羊は家畜中でも相當に古い歴史を有し、體は厚い羊毛に依つて掩はれ、主として採毛の目的で飼養されますが、肉も亦廣く利用せられ且つ其の排泄物は貴重なる肥料となります。山羊と同様に乾燥した風土に適し、濕潤を忌みます。蕃殖力は普通毎年一産一仔で飼養容易にして性質は極めて柔順寧ろ怯懦に近く、老幼婦女子にも管理が容易であります。殊に群居性があつて放牧に適してゐるので、一人の飼養者はよく數頭の犬を使用して數千頭の羊を管理することが出来るといひます。普通は有角であるが、牝牝ともに無角のもの、牝のみ有角のもの等があり、用途により毛用種、肉用種に分れてゐるが、毛肉兼用種といふものもあつて獎勵品種であるコリデル種はそれであり、
の様式四豚種別表 豚は野豬を家畜として馴致改良せられたもので、主として肉を得るために飼ふのであります。體質強健で粗飼に堪へ、早熟多産で蕃殖力強く、肥育は極めて容易であります。豚の主な用途は前申述べました通り肉であります。生肉の外にも、豚脂を作り、血液、骨、皮、毛等も用途があり、廢棄物は全くなく、糞尿は肥料として有効であります。

朝鮮豚は體格が俵小で、體量は僅かに七、八貫に過ぎないのみならず、強健でありますので、早熟性を賦與し、體積を大にする方針からブランクシャール種に依り種改良を實施する方針を以て其の販路及び飼

料の關係上、先づ府屋附近よりその増殖を圖ることとし、農事試験場及び通農事試験場から種豚を配付し指導獎勵を加へました結果、改良種及びその雜種の數は全豚取頭數の過半を占むに至りました。

パークシャー種 黒色の英國種で中庸大の種類であります。額と尾と四肢とに白色斑があります。性強健で、生後一箇年半にして體重四、五十貫に達するのであります。

ヨークシャー種 英國原産の白色種で、體格により大中小の種類に區分せられます。大種は性強健晚熟で、生肉用として都會附近の飼養には適しませんが、加工用として僻地の飼養に適します。中種は大種同様強健であります。早熟で、生肉加工何れにも適します。小種は骨格小さく、體格稍々弱い傾きがありますが、極めて早熟で肥満し易く、生肉用として都會附近に飼養せられます。

樣式五鶏種別表 鶏は家畜として古くより飼養せられ、現在世界各地に擴まつて家畜中重要なものであります。一雄多雌で雌は一年間に約百箇乃至二百箇の卵を産み、豚と共に農家の副業として最も適してゐます。其の主産物は卵と肉であります。副産物としては羽毛、骨及び糞があります。品種は通常用途により肉用、卵用、卵肉兼用、または愛玩用等に區分せられますが、また産地により東洋種、米國種、英國種、地中海沿岸種、佛國種等に區分せられます。

レグホン 伊太利の原産で體質強健、性活潑で各地の風土に適應する特性があります。卵用種であつて産卵數が最も多く、年に二百箇内

外を産みます。トサカは單冠と密被冠とがあり、顔面耳朶共に白く、脚は黄色で外毛には白、黒、褐、パフ、銀等があり、白色レグホンは五毛の白色のものであります。

プリマスロツク 北アメリカの原産で多肉良質、産卵數も亦多く、年に百數十箇を産みます。體質強健で各地の風土に適應する性質があります。母雞にも適し、卵肉兼用として鶏種中重要なものであります。トサカは單冠で耳朶赤く、脚は黄色で羽毛の黄斑なるものが最も多く、中には白・パフ・黒色等のものもあります。

名古屋種 バフコーテンの種から人為淘汰に依つて品種化されたもので體格も小であります。體質強健で内地の愛知縣に於いて作出されたのであります。嘴は脛と共に鉛色で、足には羽毛なく、毛色はパフ色であるが黒い尾羽を有し、性温順で飼養が容易であります。産卵數が多く、卵肉兼用として本邦産鶏種中最も貴重なものであります。

ロードアイランドレッド 北米合衆國ロードアイランド州で淘汰作出されたもので、全身濃赤褐色で、趾は黄色、體質強健であります。早熟の性を有し、肥満容易であります。卵は濃褐色で卵肉兼用種であります。

朝鮮在來鶏は産卵力に乏しく、一箇年僅に七十箇内外に過ぎず、體格も軽く飼養が經濟的でないために、體量の肥大なる白色レグホン種、プリマスロツク種、名古屋種、ロードアイランドレッド種を改良奨励種と定め、先づ適當の地方に集團的に飼養改良せしめ、漸次一般

司法協會雜誌

第十五卷 第九號

昭和十一年九月一日發行

論說

社會と個人
履行補助者の過失による
債務者の責任の史的變遷

(2完)

京城地方法院判事 藤井尚三
京城帝國大學教授 松坂佐一

本會決議

執達吏ヲ換價處分ニ依ル獲得金ヲ續收シ
タル後ニ於ケル鄭當要求及執行取下ノ能否
警察犯處罰令等ノ解釋

通牒回答

二件

資料

中樞院回答要旨
高等法院判決要旨(民事五件)
大審院判決要旨(民事)
法曹會決議要旨(司法省訓令回答要旨)
朝鮮辯護士令俗論(四)

質疑應答雜錄

會員異動・新法令

判例

民 事
辦齊期未到來ノ債權ト詐害行爲
既經二號スル債權 抵當權ノ廢除ト第三取得者ノ特ニ指定スル金額
競爭人礼ニ對スル談合協定ノ違法
知ト不出頭
效力
裁判所經費ノ公文書係屬

賣價一部金四十一錢

發行所 司法協會

振替 〇三〇
東京 〇五

高等法院
小西門
町內

國勢調査申告書等検査の結果に就て

臨時國勢調査課 鈴木虎次郎

今昭和十年十月一日施行國勢調査の原材料である申告書及其の他調査書類の検査事務を完了するに當つて本事務に依り発見された各箇の誤謬に關し聊か意見を述べて關係各位の御参考に供したいと願ふ。

凡そ地球上に存在する凡ゆる事物は總數總量と稱傳ひかゝるが如きは皆正しく誤のないものであるかも知れないが、人間の之に手を觸れる事に依つて必らず其處に想はぬ齟齬や誤算を起させることは種々の實際に於て起ることであつて或程度迄之を知り得る事は事實であるといふことである。此の意味から考へれば今回の検査事務に於て発見された申告書其の他調査書類の誤謬は必らずしも之を責むるに當らないかも知れないが、其の誤謬の程度が各道に依つて著しく差違のある點を以て觀て本事務擔當の従事員、調査員並に一般民衆が今少しく入念の注意を加へて事に當つて呉れたなら最優良の成績を現はした處は北海道の程度迄誤謬の數を減少させることが出来得たのではないかと想ふのである。

次に示す計數は主として申告書其の他調査書類の検査事務に於て発見されたものであつて、今後他の整理事務の進捗に伴ひ検査段の誤謬等も相當発見される見込であるが、之等は大致調査の見地から、本成績に餘り變化を來さないものと考へ検査事務の實績に就いてのみ述べ

る事としたのである。

本検査事務に於て発見された誤謬の總數は四九、六三八件である。之を申告書、照査表及要計表の三區分とすれば

申告書の誤謬	四七、四五八件
照査表の誤謬	二、一四〇件
要計表の誤謬	四〇件
計	四九、六三八件

となつて申告書の誤謬は全體の九割五分七厘弱を占め、他は照査表及要計表の誤謬であるが、要計表の誤謬は總數僅かに四〇件である。要するに之等誤謬の大部分が申告書内容の不備に歸することとなつて居るが、之を他方面より觀察するとき今回の國勢調査の目的が人口調査の三大原則である現在、常住及民籍國籍別人口の三態をとつたのであつて人口數の絕對正確を期せねばならぬと云ふ點から觀れば照査表の誤謬は僅かに全體の四分三厘弱に當るとは謂ひながら之等は總て人口の増減に重大影響を齎らす性質のものであるから其の重要性に於て申告書の誤謬に優るものと言はなければならぬ。

更に之を申告書と調査員及道府郡島邑面従事員の記入すべき箇所別に分類すれば次の通りである。

氏名又は姓名 一件
 男女の別 七二五件
 出生の年月日 八七一一件
 配偶關係 二、三九六件
 居住地 七、九〇八件
 民籍又は國籍 〇、九八〇件
 世帯人員 二、一一八件
 町洞里名及番號 三、二六一件
 世帯番號 八一〇件
 世帯の種類及名稱 四、三三三件
 申告書通し番號 一、二七五件
 調査表の計數 二、〇七七件
 道府郡島區番號 一、八八九件
 道府郡島區面名 四、〇〇六件
 要計表の計數 四〇件
 世帯主又は世帯の管理名 二九件
 申告書の不足 二九件
 其の他 三一件

調査員の記入
 九七三三件

道府郡島區面從事員の記入すべきもの
 道府郡島區番號 一、八八九件
 道府郡島區面名 四、〇〇六件
 要計表の計數 四〇件
 世帯主又は世帯の管理名 二九件
 申告書の不足 二九件
 其の他 三一件

右の表に依れば申告義務者の記入すべきものに對する誤謬最も多く次は道府郡島區面從事員の記入すべきもの及調査員の記入すべきものの順序となつて居るが此の内申告義務者の記入すべきものは主として調査員が之を代筆した實狀にあるので假りに兩者の誤謬を合計した數即ち三、六七二件を以つて從事員の誤謬數と比較するものとすれば二對一の割合となり二者の誤謬は凡そ平均して居るものと考へられる。次に申告義務者の記入すべきもの誤謬を種類別に若干の考察を加へて見れば左の通りである。

本欄記入の對照物としては僅かに世帯主及世帯の管理名が申告書

の欄外と照査表の當該欄とに現はれて居る以外に何物もないのであるから之を確める方法が全く無い爲發見される誤謬も亦皆無と云つて可い程妙いのである。之は實際戸籍簿等と對照して見るならば可なり多くの誤謬を發見し得られることと思ふのであるが國勢調査の結果表には姓の種類別に之を整理するやうな目的を全然持つて居らないのであるから姓名の如きは單に男、女を識別し得れば好いと云ふ様な意味合で内地に於ても餘り重要視されて居らない様である。然しながら朝鮮人の様に姓の特異性を持つて居る民族に在つては同姓の集團状況を觀たり或は各種姓の分布状態や其の種類の研究を爲すことに依つて朝鮮文化の半影を窺はんとしたり又は特殊な社會組織や家族制度の實狀を究めんとする主として學術的方面の參考資料として觀るならば可なり重要なことであると推はれる。最も朝鮮に於ては昭和五年國勢調査の結果から姓調査の大體に就ての調べは既に完了して居るのであるが更に之が五ヶ年目に於ける推移變遷狀況を知ると云ふことも亦興味ある研究の一と謂はなければならぬ。此の點から考へると氏名又は姓名の記入と雖も粗かには出来ないものである。殊に今回の調査に於ては世帯に於ける地位を調査しなかつた爲氏名又は姓名と男、女との關係に於ける誤謬の發見は殆んど不可能と言つてもよい位である。本欄の誤謬として訂正されたものは僅かに一件に過ぎないのは要するに之等の關係に起因するのである。

男女の別
 本欄も世帯に於ける地位が判然するならばより多くの誤謬を發見し得たことと推ふ。僅かに氏名又は姓名と對照し、男名であつて女とあるもの或は其の反對の場合、又は男、女の記入洩等を照會して訂正したに過ぎないのであるから其の件數も亦比較的僅少であるが之をもつて本欄の記入が他に比較して正しく記入されてあつたと考へる事は尙早である。寧ろ如斯平凡な調査事項に誤りの多いと云ふ事

の欄外と照査表の當該欄とに現はれて居る以外に何物もないのであるから之を確める方法が全く無い爲發見される誤謬も亦皆無と云つて可い程妙いのである。之は實際戸籍簿等と對照して見るならば可なり多くの誤謬を發見し得られることと思ふのであるが國勢調査の結果表には姓の種類別に之を整理するやうな目的を全然持つて居らないのであるから姓名の如きは單に男、女を識別し得れば好いと云ふ様な意味合で内地に於ても餘り重要視されて居らない様である。然しながら朝鮮人の様に姓の特異性を持つて居る民族に在つては同姓の集團状況を觀たり或は各種姓の分布状態や其の種類の研究を爲すことに依つて朝鮮文化の半影を窺はんとしたり又は特殊な社會組織や家族制度の實狀を究めんとする主として學術的方面の參考資料として觀るならば可なり重要なことであると推はれる。最も朝鮮に於ては昭和五年國勢調査の結果から姓調査の大體に就ての調べは既に完了して居るのであるが更に之が五ヶ年目に於ける推移變遷狀況を知ると云ふことも亦興味ある研究の一と謂はなければならぬ。此の點から考へると氏名又は姓名の記入と雖も粗かには出来ないものである。殊に今回の調査に於ては世帯に於ける地位を調査しなかつた爲氏名又は姓名と男、女との關係に於ける誤謬の發見は殆んど不可能と言つてもよい位である。本欄の誤謬として訂正されたものは僅かに一件に過ぎないのは要するに之等の關係に起因するのである。

は過去の實蹟が幾らでも説明して居るのである。

出生の年月日

主として配偶關係と對照して其の誤りを發見するのであるが前回調査に於ては職業及世帯に於ける地位等と對照し得たので更に疑義の發見も容易であつたが何度も繰返す様であるが今回は之がないのであるから配偶關係に對照し極端な矛盾のあるもの例へば零歳、一歳、二歳等で有配偶又は死別、離別とあるもの或は記入洩等誤謬であることが歴然として居るものみに就き調査訂正したのである。此の内に大正、昭和時代に生れた小供の出生年月日を不詳としたものなどがあつて相當驚かされたのである。之等は國勢調査に對して申告義務者の熱意が足りないか或は調査員の訓練の不徹底であつた證據ではなからうか。成程朝鮮の片田舎で無學の者であるならば生れた日迄を記憶しない場合があるかも知れないが大正や昭和に生れた小供であれば尠くとも小供の年齢(數へ年)と生れた時期が察であつたか秋であつたか位又之も無理なら無い時か、寧ろ時か位の記憶は全然無い筈はなからうと思ふ。朝鮮の現状としては此の位迄突込んで指示し、致して記入させる様に調査員の訓練をすることゝ必要ではなからうか。

配偶關係

本欄誤謬の内年齢、男女の別、氏名又は姓名等を參照し疑問とするものに就き照會訂正を爲したものは僅かに六七件であつて全世帯員の配偶關係が記入洩となつて居るものが二、三二九件と云ふ大多數を占めて居るのである。之等は申告書の記入者が不注意であるばかりでなく之を檢査するものが少しく注意するならば直に發見し得られることである。次回調査に於て調査員訓練上の指針として特に考へて置いて貰ひたい事柄である。

常住地

今回の調査に新たに加へられた重要な調査項目の一つであるが之又世帯に於ける地位を見ない關係上記入洩に對する考察は全く不可能であつて僅かに進世帯(宿屋、下宿屋等)の宿泊人で常住地が總べて斜線若くは記入洩の様なものに對し照會を爲すに止まり、來客其他に對しては相當記入洩を豫想し得られるが如何ともすることが出来なかつたのである。道別に之を觀察するに全北、慶北、慶南の三道は本件の誤りが比較的尠かつたのに反し、全南、慶南の二道は極端に多かつたと云ふことは調査員の指導並に一般宣傳等に於て何等かの缺陷があつたのではなからうかと想像されるのである。

民籍又は國籍

本欄の誤謬は申告義務者の記入すべきものの中約其の半數を占めて居る。然かも常住地と同様誤記と認められる誤りは僅かに二四件であつて他は總て斜線の記入洩となつて居る。朝鮮の國勢調査に於ては勿論朝鮮人が其の大多數を占めて居る關係上朝鮮人に對し本欄の記入は單に斜線を引かせし之を簡略にしたのであるが此の點に關し調査員の指導並に一般宣傳方面に常住地と同様の缺陷があつた事は本件の誤りが道別に觀るとき常住地の夫れと全く同じ状態にある點から首肯されるのである。如斯簡單な誤謬は大した問題で無い様に考へる人もあるかも知れないが斜線洩に對する本府の解釋は之が果して朝鮮人であつて斜線を引くことを略したものであるか或は支那人の記入洩であるか單に姓名のみを以てしては判然しない場合も多いためであるから斜線と雖ども略することなく完全に記入をして貰ひたいと云ふのである。

世帯人員

調査員の記入すべきものの中最も重要なものは謂ふまでもなく世帯

人員である。國勢調査の絶體基本となる處の人口に聊かでも離隔を來たす様なことがあつては折角の調査も全然意味を爲さないものとなつて終ふのである。即ち他の總ての調査事項は正確な人口を背景として始めて價值づけられるものであるから其の根柢を爲す世帯人員の誤謬に關しては最も重大に之を取扱つて居るのである。故に調査結果の發表に當つても萬一を考慮し先づ各道の要計表から集計した世帯人口概数を發表し、其の後に於て申告書の嚴密な検査を實施し之に加除訂正を加へた絶體正確な人口を發表することとして居るのである。殊に今回は簡易調査であるが人口の三態即ち現在、常住、民籍別人口の調査を爲すのであつて専ら人口調査を其の最大目的としたのであるから特に世帯人員に誤謬を起させぬ極端な指導訓練を希望した次第であつたが、猶細數に於て二、一、一八件の誤記、誤算を生じ速報人口より確定人口が三四三人の増加と云ふ結果を招來した事は誠に遺憾とする處である。成程前回調査及内地の調査に比較して其の割合は僅少であつたが之を各道別に觀察するとき此の誤差は更に一層縮少し得られることを豫想されるのである。即ち本件誤謬の最少を示して居る慶尚北道は其の數僅かに九件に過ぎないものである。尙慶南の六九件、玄鏡の七七件等も尚佳良の方ではあるが、それにしても前者に比し格段の聞きのあることは見逃せない。又速報、確定兩人口の誤差は之等誤謬の加除に依つて現はれて來たものであるが誤謬件數の多いものが必ずしも誤差大とは謂へない。幸に今回の國勢調査に於ては誤謬の増減が偶然相半ばした爲其の誤差は比較的僅少となつたのであるが、將來も亦如斯ことを豫測することは危険である。要するに之等の誤謬を皆無にするに云ふ目標の下に其の誤差を最少限度に止めると云ふ心掛を以つて我々國勢調査事務従事員並に國勢調査員が團結して事に當つて行くだらば、

より優秀な成績を揚げ得ることは慶尚北道の實績が好く之を證明して居る處であつて左程至難なことではないと推ふ。此點私共は今回國勢調査の調査事項各般に互つて最優秀な成績を挙げられた慶尚北道統計主任の御手腕に心から敬服すると共に其の努力を充分賞讃してやまない次第である。

町洞里名及番地、世帯番號

右の二欄は調査員が豫め記入し得るものであるにも不拘之が誤記四一九件、記入洩三、六五二件と云ふ相當多數の誤謬を生じた事は遺憾である。本件も慶尚北道は兩者を合せて僅かに二八件に過ぎないと云ふことはもつて飽としなければならぬ。

準世帯の種類及名稱

本欄誤謬は申告書を訂正したもの一八一件、照査表を訂正したものの六三件、計一八一件であつて他の項目から比較すると僅少であるが準世帯の種類及名稱の記入あるものに就てのみ考へるとき其の比率は決して誇いものとは言へない。

申告書通し番號

本欄は申告書蒐集完了後各世帯順に申告書に之を記入するのであるから少々注意するに誤謬は起り得ない様に考へられるのである。唯一世帯に申告書二枚以上を使用したものに誤つて其の二枚目に次の通し番號を記入する場合が考慮されるばかりである。尙本欄誤謬が全辭的に見て相當多數に上つた主な原因は忠清北道、全羅南北道の三道に特に多數を算した爲で、三道合計七四五件全辭合計の約六割を示して居る。

照査表の計數

照査表の各欄計數の誤記、誤算であるが、之等は府邑面に於て今少しく検査に注意を加へるならば更に誤謬を僅少に止め得ると云ふこ

とは之又慶尚北道の成績に照し考へられることである。本件は黄海道の三三四件最も不良であつて全羅北道の三〇五件、全羅南道の二三八件、江原道の二二二件等も餘り芳しくない成績である。

終りに道府郡島面従事員の記入すべきものに對する誤謬に就き簡單に説明を加へて見れば次の通りである。

道府郡島面名、調査區番號

右の二欄は府邑面に於て記入されるものであつて恐らく其の誤謬は申告義務者及調査員の記入すべきものに比較して遙かに尠いものと豫想されて居つたのであるが實績は之に反し調査區番號の記入及誤記一二、八八九件、道府郡島面名の記入及誤記四、〇〇六件合計一六、八九五件と云ふ膨大な數字を示すに到つた事は誠に寒心に堪へない次第である。調査員其の他に宛を示さねばならぬ地位にある府邑面従事員が調査員の記入すべきものに對する誤謬より遙かに多數を算したと云ふことは他に理由があるかも知れないが結果から見て一言も辯解の餘地はないのであつて將來大いに戒心すべき事柄であると考へられる。夫れが非常に困難な事項でもなく難しい事でも無いだけに一層遺憾の意を深くするのである。

要計表の計數

本欄の誤謬は皆無を信じて居つたが結果は四〇件を算し、そのうち江原道は三〇件を示して居る。就中邑面數の記入箇所を調査區數を記入したと云ふ様なことは特に誤の甚だしいものと謂はねばならない。最も本件誤謬皆無の道として京畿、忠北、忠南、全北、慶南、平北、咸南、咸北の八道を算したことは聊か意を強うするに足る、

其他

世帯主又は世帯の管理者欄に於て發見された誤謬二件及申告書

遞送中紛失したものと二七件であつたが後者の如きは調査員より府邑面、府邑面より道府郡島、道より本府へ夫々提出する場合の不注意から生じたものであつて、將來申告書其の他調査書類の遞送には更に一段の注意を拂はれる様希望するのである。

以上は調査書類の記入責任者別に調べた誤謬の内譯であるが更に之を總括的に各道別の状態を表示して見れば次の通りである。

道名	申告義務者ノ記入スベキモノ	調査員ノ記入スベキモノ	道府郡島面従事員ノ記入スベキモノ	其ノ他	計
京畿道	二、二九五	七四四	一、二六〇	一	四、二六〇
忠清北道	二、〇八一	七四〇	一、〇四三	一	四、二六八
忠清南道	一、七三三	KOK	六四〇	三	二、三七六
全羅北道	五三三	一、六三三	一、八八八(世帯)	二	三、〇五七
全羅南道	三、六六六	一、五五〇	一、七〇六	五	六、九二七
慶尙北道	六二九	八一	五四三	一	一、〇五三
慶尙南道	五、五二七	一、一〇一	二、〇八四	三	六、七〇五
黃海道	二、一〇〇	一、一六七	一、九六七	六	五、一八〇
平安南道	一、二八三	五七五	九七八	一	二、八三七
平安北道	二、四八七	六九五	一、一九八	一	四、一八三
江原道	一、六九九	七六八	一、四三三	四	三、九四〇
咸鏡南道	三六八	二七〇	九三三	四	一、五六五
咸鏡北道	一、二四七	五三三	一、〇〇〇	二	二、七八二
全鮮	三三、五〇〇	九七、三三三	一六、九三五	三二	四九、七八〇

右表に依れば總誤謬件數四九、六三八件の内申告義務者の記入すべきもの總數の四割六分強に當り、次は道府郡島面従事員の記入す

べきもの同三四四分強に當り調査員の記入すべきもの最も少く同二割弱に當つて居る。申告義務者の記入すべきものを道別に觀れば、咸鏡南道の三六八件最も少く、全羅北道の五二五件、及慶尙北道の六二九件が比較的優良である、想ふに之等の道に於ける一般宣傳方法が相當充實して居つたことを物語るのであらう。尙道人口に對する割合を以て比較する時は幾分順位に異動があることと思ふが何れにしても忠北、全南、慶南の三道は次回調査に於て今少く一般宣傳方面に意を注がれたいと希望するものである。

次に調査員の記入すべきものに就いて道別に之を觀れば最優秀は慶尙北道の八一件であつて成績不良と思ふのは、全北、全南、慶南、黄海の四道である。他は孰れも大同小異のものである。之等も觀察に依つては調査員訓練の徹底如何が此處に表現されたものとも解され、將來の好參考資料として各道統計主任は特に記憶に止めて置いて貰ひたい。唯茲に少く注意したい事は前にも述べたが朝鮮の現状は調査員が申告書の代書をせねばならぬものが相當多數に在るのであるから調査員の記入すべきものの中には申告義務者の記入すべきものをも考慮の中に加へて置いて貰ひたいのである。

最後に道府郡邑區區從事員の記入すべきものに就き之を道別に觀るに、成績の最優秀は之又慶尙北道であつて之に亞では忠清南道で他は孰れも相當多數の誤謬を算して居る。殊に全北、黄海、咸北の三道は人口の比率から謂へば孰れも芳ばしくない成績である。

猶其の他の誤謬としては、全北の世帯主及世帯の管理者の誤記及記入誤の二件を除き他は悉く申告書の不足に在るものであつて將來申告書の取扱には一段の注意を拂はれる機合から希望して置く次第である。然し京畿、全北、慶北、の三道が誤謬皆無であつた事は勿論其の取扱に最大の注意を拂はれたことを裏書するものであつて衷心御禮を申し上げます。

扱て之を總括的に觀るとき勿論其の成績は慶尙北道の一、〇五二件は道人口の割合から見ても他を遙かに引離して優秀なものである。之に亞いで咸鏡南道の一、五九四件、忠清南道の一、五二二件及京畿道の四、二六九件（人口に比較して）は其の成績佳良なものと謂ひ得よう。茲でもり一度考へさせて貰ひたいことは慶尙北道が如何にして如斯好成绩をかも得られたかと云ふことである。勿論道統計主任の抜群の功績であることは申す迄もないが、道全體として統計思想の充實して居つたと云ふ事が其の大なる原因の一ではなからうか。之が證據としては他にも在らうが統計時報刊號の七七頁を見れば計數的に之が實證を示されて居ることが直ぐに發見されるのである。即ち昭和十一年一月末日現在に於ける朝鮮統計協會の會員數は七七八人であつて全鮮第一を示して居るのである。

道府郡部別事故件數

道府郡部	申告書事故		照査表		總人口	總人口に對スル割合
	誤記	記入誤	事故	合計		
府部	五〇	二、七五	三、二四五	一、六三	三、四〇七	一、八六五、七九
郡部	四、〇〇	〇、八七	四、〇九	一、九二	五、〇一〇	二、二六強
合計	九〇	三、六二	七、三四	三、五五	八、四六一	二、一三二強

之に依れば府部に對する、郡部の事故の割合は千分の二、一一と同一、一六とであつて、都會地に於ける件數がほんの僅か郡部よりも良し事になつて居るが、教育文化の遙かに進歩して居る都會地が如斯成績にあると云ふことは何を物語るのであらうか、國勢調査の主旨も良く理解し、自計主義の實行し得られる都會人が無教育者の多い田舎人に比較して、左程變りがないと云ふ様なことは餘りにも事の意外に驚くべきであらう。少く率直な言葉であるかも知れないが都會人は國勢調

本に對する觀念に於て之を輕視する嫌いがあるのではなからうか、此の最も適切な例として或都會地に於ける官廳で國務調査の準備調査に際して申告書の記入試験を廳員全部にやらせて見たことがある、處が其の結果を見ると完全な申告はほんの僅かより無かつたと云ふ事である。國務調査に一番理解を以て居る筈のお役人さんで此の様な事があるのである、まして一般都會人に於て好く國務調査を理解し眞摯な考へを以て、重要視して居つてくれたであらうか、これは興味ある研究問題として、次回調査迄に是非解決して置きたい重要な事柄である。唯茲に御断りをして置きたい事は前述の議論は府部郡部の事故總件數から觀ての考察であつて、之を更に府別に分解して觀察するときには相當好成绩を收めた處が澤山にあるのである、今府別事故件數を表示して見れば次の通りである。

左右表に依り總人口千に對する割合を觀るに、盛興府の〇・三%最も成績好く、次は京城府の〇・六%、仁川府の〇・七%、開城府の〇・九%は都會地として恥かしくない成績である。殊に京畿道の三府就中我國第七位人口四十四萬餘を有する大都會京城府が斷然成績第二位に在ることは、勿論本府の御蔭元と云ふハンディキャツプがあるかも知れないが、夫れにしても大成功と謂はなければならぬ。是に就て私は近くでもあり京城府の検査事務に際しては再三府廳に御邪魔して其の歓迎を拜見し、又時に指示も致したのであるが、其の時の府管計主任を始め係員の意氣込を見ただけで今度の京城府は好成績を擧げられた事には半島統計界に輝かしい光明を輝けられたばかりでなく、朝鮮國務調査の爲萬丈の氣を吐いたものとして賞賛に餘りあるものと謂ふべきである。之に反し群山府の三・六%、馬山府の四・二%、釜山府の五・八%、清津府の一〇・六%は成績不良である。

以上をもつて大體今回の検査事務に於て發見された誤謬に對する考

察を述べたつもりであるが、計數中這般各道知事宛通知した事故件數調に比較し幾分相違して居る點のあるのは、照會中の事故で回答のあつたもの或は其の後に發見された事故等を整理追加した結果である。

府別事故件數調

府名	總人口	申告書事故		原査表(發見)	總人口二國	成績順位
		記入	計			
京城府	四四、〇九八	四三	三〇	七	二六〇・五九弱	2
仁川府	八二、九九七	九	三八	〇	〇・六九弱	3
開城府	五、五七七	五	四	二	〇・九四弱	4
大田府	五九、〇六八	四	五二	四	一・五一強	8
群山府	四、六八八	七	七〇	六	一・五二強	14
全州府	四、三三七	五	六三	六	一・八二弱	13
木浦府	六〇、七四四	二	三四	八	一・〇九弱	6
光州府	四、六七	三	三	一	二・三弱	12
大邱府	一〇七、四四	六	七	一	一・一八弱	7
釜山府	一八、五五	一	一	一	一・一七弱	16
馬山府	三、七七八	一	二	六	四・五強	15
平壤府	一八、二二三	六	三	〇	一・八二弱	10
鎮南浦府	五〇、五三	五	八	四	一・七強	9
新義州府	五八、四六三	一	六	八	一・八八強	11
元山府	六〇、二九	一	六	一	一・〇六強	5
咸興府	五、五七七	一	一	一	一・〇三弱	1
清津府	五、五五〇	六	七	八	五・六二〇・五強	17
計	一、六〇六、一七九	五〇	三二五	三三	三・三強	

話の塵

— 3 —

大義生

此の春、會我過家五九郎が大
人氣の裡に退城すると聞もなく
半島の舞姫継承喜が故郷に幾度
目かの錦を飾り、續いて嘗ては
奈日本の戀人と謳はれた栗島す
み子が實演と來る、更に市川右
團次が京城劇場へ來たかと思れ
ば、一方實川延若、澤村宗十郎
の東西名優一座が府民館で開演
する、其の間に荒つばい方では
ボクシングの徐延權、東京相撲
の男女の川一行も來てゐる、此
の春の京城は名流演技の洪水で
あつた。併もいづれも大入満員
の盛況で、一行が満鮮を一列り
して東京へ大返へ歸つて、東京
は大分静寂も重くしてゐる。

の變さ。

偶々觀演中の府民館や劇場の
前を通りかゝると、觀客の自動
車縛着して大混雑を呈し、其は
將に好景氣の絶頂みたいであ
る。ところが、東京の裁判所あ
たりの下級職員ばかりでなく、
こゝにも五十錢の映畫が容易に
見られぬ階級がウヨ／＼してゐ
て、彼等にとつては折角京城に
ゐても、特等七圓から三等二圓
と云つた豪華入場料では地方人
と同様、之等の觀賞に惠まるゝ
ところは絶無である。或る男が
十年來あこがれの銀幕の女王、
栗島を見んものと、思ひ切つて
大枚貳圓を投じ、さて三等席に
敷きつた筈によかつたが、何分
にも府民館の三階のテツペンか
ら遙かに見おろすと、映畫でお
馴染みのすみちやんの顔がなん
と平べつたく見えたと云ふから
悲觀させられる。

◇
「芝居も客も見られぬ京
城、大分静寂も重くしてゐる。本
日は夕食後の本

ブラを第一とする。漢江橋や榮
忠壇などの絶好の納涼地を餘所
に換けて暑苦しい本町通りは散
歩人の洪水で身動きならぬ賑か
さだ、たいていの人は別に買物
するでもなく、兩側のショウウ
インドを覗くと云ふよりも寧ろ
通行の人を見る、人の服装を見
ると云つた方が近いかも知れな
い。尤も夏の婦人は、清楚なうす
ものゝ和服にしる、軽快な洋装
にしる、洋装化した朝鮮服にし
る、背後からはいづれ劣らぬよ
い眺めではある。大分古い話だ
が、嘗て文藝俱樂部が何かと天
下の名士に對し、「貴下は婦人の
どの點に最も魅力を感じるか」
と奇問を發したところ、多くの
愚答の中に或有名な文士が「そ
れは偉大なるお尻である」と喝
破したのは流石に實感を憚りな
く表現したものである。

それにしては近頃流行の腺卷
スカートの躍動振りには、心臓の
影い青年にはちと刺戟が強過ぎ
ると云ふ者もある。

四四

◇
二十師團の壯丁検査の成績に
依ると、朝鮮では内地に比し中
等學校以上の卒業生が斷じて多
いが、情ないことには筋骨薄弱
者も亦比較的多いと、そこで各
學校に於ける體育乃至スポーツ
の再検討が叫ばれてゐると云ふ
考へるまでもなく、非常時日本
が最も必要とするのは健全明朗
な國民である。然るに一般公衆
としてはラヂオ體操が一部に行
はれてゐる以外には、體育など
は凡そ客觀的觀賞の立場にある
かの如く片附けて、その反面に
夜更しや飲酒で健康増進に逆行
してゐる者の多い状態である。
斯うした時代に、ラヂオ體操の
單調を破り、趣味と保健に効果
的で併も萬人向のするハイキン
グが近年流行し出したのは喜ば
しい現象である。試みに京城府
史を播くと、さすがに李朝五百
年の王都だけあり、附近には文
祿の役や丙子の亂、近くは日清

日露の役、韓國獨立、日韓併合に至る迄、その史蹟に至る所に散在してゐる。獨り京城附近に限らず、全鮮至る所に景勝地や史實傳説の地が頗る多いから、之等の由緒を尋ねながら山野を跋涉する事は、保健の上からも健全な趣味の上からも頗る結構なことである。

◇ 京畿道内には大毎選定の八勝八景は一つもないが、きりとて仁川の月尾島や、南山より京城市街を隔て、北漢山を眺めた景観等、さうザラにあるものではない。こゝでは京城から日歸りの出来る開城金剛の絶勝を紹介して見た。

京城を午前八時發列車で立ち、開城から自動車で六里、更に徒歩六町で正午過ぎには朴淵瀑布を仰ぎ見る事が出来る。此の瀑は徐花潭の遺學と名妓黃眞の美貌と共に高麗朝の三絶と稱せられた位古來有名で、數百年前國王の避難城として築造された

大興山城の下にあるので一名山城の瀧とも謂ふ。聖曆・天曆の二峰峙立して深谿をつくり、千岳萬峰より出づる水は合して北門の隘路に至り、朴淵の碧潭となり、溢れて直下百二十四尺(實測)の懸崖を奔下す。殊に此の頃の雨後は靉靄なる瀑音物凄く、飛沫山紅に映じ心階の寒きを覺えしめる。瀧壺の傍らに巨石あつて例の李白の句、飛流直下三千丈、疑是銀河落九天の大字を刻してゐる、高麗時代の名妓黃眞の筆と傳ふ。

瀑布の上流を辿つて約一丁にして大興山城の北門あり、こゝより溪流に沿ふて登れば山漸く高、六三洞、巖頂の珍奇にして風光眞に掬すべきものがある。世に開城金剛の稱あるは此の附近一帯を指すので、殊に龜潭、龍潭の奇勝に配するに古刹觀音寺があつて縁間一入の光彩を添へ、更にこゝより大興寺に至る間は泉石最も幽邃を極め、山容水態筆舌のつくすところでない。

此の地には朝鮮式ではあるが、相當の旅館もあり、高麗時代の古刹觀音寺でも一宿の便を與へぬでもない云ふ。京城から日歸りの人も約四時間、此の山境で悠々遊び、午後五時半開城濱の自動車でその日の中に京城へ歸ることも出来る。又開城から山路を徒歩すれば三里半だから、片道歩いても充分一日の行程ですむわけである。但し大雨の後など自動車不通の時もあるから御注意肝要、京城から日歸りで、斯る幽邃絶勝の地に遊べるとはハイカーの見逃せぬ所であらう。

◇ 朝鮮出身の孫基禎選手がオリムピックでマラソンに優勝した時は、全日本感激の絶頂に陶酔したものだ。あの朝出勤の電車の中でも、勤め先でも、お早うの挨拶代りに「やりましたネ」「よかつたネ」と老若男女、もとより内鮮人異口同音に喜び合つたも

のだ。朝鮮の同胞に依つて日本は世界スポーツ界に覇を唱ふるものゝ一つを加へたのである。將來は次々と世界的人材が朝鮮からも輩出して日本の偉大さを強調したものである。

朝鮮では昔から足の早い人があつたらしく、全羅北道の或部落出身の宰相は、京城と郷里の間を一日で往復したなど云ふ傳説もある。尤も之は縮地法と云つて自由自在に距離を縮めて目的地に瞬間達する事が出来たと云ふのだ。孫基禎君もまさか此の手を使つたわけでもあるまいが、兎に角輝く朝鮮の誇りが一つ殖えたと云ふもの、眞の意味の内鮮融和に相互の尊敬と理解から来る、之を逆用して非國民的言動を爲す者あらば、それこそ朝鮮民衆共同の敵であるとの聲が智識階級はもとより國語も充分解らぬ大衆の間に糾然として起りつゝあるのは全く愉快である。

□ 資

鑛 産 額

〔昭和十年〕

昭和十年の鑛産額は八千八百三萬九千圓であつて、前年に比し千八百八十六萬六千圓の激増振りである。最近十箇年の趨勢を觀ると、昭和元年の産額は二千四百十三萬圓で、其の後大差ない状態で経過したが、昭和七年に至り三千三百七十四萬七千圓に増加し、同八年には更に鑛物價格の昂騰と鑛産物の増産と相俟つて四千八百三十萬一千圓に、九年には更に増進の度を高めて六千九百七十七萬三千圓となり、十年には一躍將に九千萬圓に達せんとする勢ひを示してゐる。

鑛産額を鑛物の種類に依つて觀ると、金(金銀鑛・砂金を含む)の五千百九十六萬一千圓が最も多く、實に總額の五割九分を占め、鐵(鐵鑛・鋼鐵・鐵鑛

料 □

を含む)の千五百三十七萬六千圓(總額の二割七分)これに亞ぎ、石炭(有煙・無煙を含む)の千百九十二萬五千圓(總額の一割三分五厘)も相當に多く、其の他遙かに降つて、銀の二百五十五萬八千圓(二分九厘)、銅(銅鑛を含む)の百五十四萬六千圓(一分八厘)、タンダステン鑛の百三十八萬九千圓(一分六厘)、黒鉛(鑛狀・土狀を含む)の百二十萬八千圓(一分四厘)の順序となつて居り、この外の鑛産は何れも四十萬圓未満のものである。これを前年に比すると、亞鉛鑛・砒砂・螢石・蠟石は何れも減少し、他の鑛産額は悉く増加してゐるのであるが、就中、増加額の著しいものを擧げると、金(金銀鑛・砂金を含む)の千九十一萬一千圓、鐵(鐵鑛・鋼鐵・鐵鑛を含む)の二百五十九萬五千圓、石炭(有煙・無煙を含む)の百九十八萬五千圓、銀の百九萬圓、黒鉛(鑛狀・土狀を含む)の六十八萬三千圓、タンダステン鑛の六十五萬五千圓、銅の六十一萬三千圓等である。

統計メモ

朝鮮の總生産額

昭和九年中朝鮮の生産額を大別して見ると次の如くである。

農 産	九七九,七二五,〇〇〇
畜 産	四〇,七六五,三七一
水 産	一〇六,一五六,五七八
鑛 産	六九,一七三,八四〇
林 産	一〇六,〇三〇,六六六
工 産	四三八,四〇一,七三六

右のうち産額の最も多いのは何といつても、朝鮮産業の大宗たる農産であつて、總生産額の五割六分を占め、これに亞ぐるのは工産額の二割五分であつて、水産は六分、林産は六分、鑛産は四分、畜産は三分といふ順序になつてゐる。

風水害狀況

(九月二日現在)

社會課の調査により、九月二日

水	黒鉛	土	石炭		高嶺土	明礬	茶	マグネサイト	石綿	石	重晶石
			有煙	無煙							
一五九	四、二三四	四、〇六四	九一九、八三三	一、〇〇、五五〇	三、三〇、〇〇〇	三、六、九三三	八、七三〇	二、四、〇〇〇	八、四三三	二、一、〇七〇	二、一、〇七〇
八七三	五、五九、三三三	八、八八、三三三	四、七三、〇〇〇	七、七三、〇〇〇	四、七三、〇〇〇	六、六、三三三	五、八、〇〇〇	七、一、九三三	四、八、〇〇〇	二、六、三三三	二、六、三三三
二、四三三	三、八八、三三三	三、八八、三三三	七、六、三三三	九、九、三三三	二、五、三三三	七、三、三三三	三、六、三三三	三、一、三三三	三、〇、三三三	九、六、三三三	五、九、三三三
一三三	一、二、三三三	一、二、三三三	三、七、三三三	六、一、七三三	九、九、三三三	二、〇、三三三	三、五、三三三	三、一、三三三	三、〇、三三三	八、〇、三三三	八、〇、三三三
八七三	三、七、三三三	四、四、三三三	三、三、三三三	九、九、三三三	九、九、三三三	三、五、三三三	二、五、三三三	二、五、三三三	二、五、三三三	一、〇、三三三	一、〇、三三三
二、四三三	四、四、三三三	六、二、三三三	九、八、三三三	九、八、三三三	一、九、三三三	五、六、三三三	四、三、三三三	三、三、三三三	三、三、三三三	一〇、〇、三三三	四、五、三三三

家内工業

〔昭和九年〕

昭和九年中に於ける朝鮮の家内工業生産額は、一億六千七百十二萬九千六百六十三圓であつて、これを始政當時に比するときは、明治四十四年の工場生

産をも含める總生産額に超ゆること實に一億三千五百餘萬圓に上つてゐる。また最近の家内工業生産額から見ても、昭和七年に比し三千七百餘萬圓、昭和八年に比し一千九百餘萬圓の激増を示してゐる。

昭和十年末現在に於ける乳用山羊の状況を調査すると、飼養頭数はゾーネン種牝二千六百一頭、牡五百一十一頭、計三千百一十二頭、ト

乳用山羊

昭和十年末現在に於ける乳用山羊の状況を調査すると、飼養頭数はゾーネン種牝二千六百一頭、牡五百一十一頭、計三千百一十二頭、ト

六十六萬七千六百五十六石、裸麥百九十四萬八千二百七十石、合計一千四十六萬四千三百七十石であつて、前年實收高に比し大麥百九十九萬三千五百七十九石、小麥二十六萬五千六百一十一石の減收、裸麥は南鮮地方に於ける作付反別の増加に依り三十二萬一千七百五十四石の増收となり、差引百八十四萬六千九百八十六石の減收豫想である。

麥收穫高累年表

- 昭和六年 一〇、一〇七、五三三石
- 昭和七年 一〇、六九、三五五石
- 昭和八年 一〇、三〇、七四四石
- 昭和九年 一一、二六、九四三石
- 昭和十年 一一、三二、二九六石
- 昭和十一年豫想 一〇、四六、三〇石

分、木製品工業は四百五十三萬八千二百九圓にして、全羅南道の二千七百七萬圓これに照し、京畿道の二千三百三萬圓、慶尙北道の一千九百五十萬圓、平安南道の一千三百三十六萬圓等の順序となつて居り、忠清北道は最も少く僅かに四百三十五萬圓である。今詳細を表示すれば次の如くである。

家内工業表 (昭和九年)

道	総数	紡績工業	機械器具工業	窯業	化学工業	木製品工業	食料品工業	其他の工業
總数	一六七、二二九	二五、八一五	三、八一二	二、七五三	二、四九九	四、五五八	七、七四七	二九、五六八
京畿道	二二、〇三六	一、三九六	一、三九七	二九七	二、八四九	七九八	一〇、八六六	三、九七〇
忠清北道	四、五五〇	三三五	三〇	一五	四八	三六	二、七九	八三七
忠清南道	一〇、四九九	一、八六一	二七	一四	三三	一八六	五、七六一	一、七四〇
全羅北道	八、七七八	九四三	一四三	二六	三三	二四四	三、六六七	二、四九三
全羅南道	二二、〇七五	二、五三九	二六	三三	九〇九	五三	三、三三八	四、〇三四
慶尙北道	一九、五〇六	五、四九四	三三	一九二	一、九二一	六三	八、五三二	二、二九五
慶尙南道	三、五六六	三、一八九	三五	二〇	二〇	四二	二、一三三	五、〇九三
黄海道	九、一八五	一、四六七	二九	二二	一、九二	一八	四、七六九	一、三二一
平安南道	一三、五六五	三、八六三	三五	二二	四九九	一八	四、二八五	二、九四五
平安北道	九、三三八	一、九四四	三三	三三	五五八	二九	三、八七三	一、九五四
江原道	二、四二四	一、〇五四	六七	三三	二九	一八	四、四三三	九三四

道別の生産額を觀るに、慶尙南道の二千二百五十

八萬餘圓が最も多く、全羅南道の二千七百七萬圓これに照し、京畿道の二千三百三萬圓、慶尙北道の一千九百五十萬圓、平安南道の一千三百三十六萬圓等の順序となつて居り、忠清北道は最も少く僅かに四百三十五萬圓である。今詳細を表示すれば次の如くである。

ツゲンブルグ種牝百九十八頭、牝二十九頭、計二百二十七頭、其他の種類牝二百七十三頭、牝五十一頭、計三百二十四頭であつて、合計三千六百六十三頭である。之を前年に比すれば、牝五百三十八頭、牝百四頭、計六百四十二頭、即ち二割一分の増加を示し、種類別に觀るときは、ザーネン種六百二十三頭、トツゲンブルグ種七頭、其他の種類十二頭をそれぞれ増加し、就中、ザーネン種の増加は顯著である。

飼養頭数を道別に觀るときは、慶南の六百二十八頭が最も多く、總頭数の一割六分を占め、全南の五百二頭これに照し、平南の四百七十一頭、京畿の四百四十五頭、全北の三百七十二頭等の順序である。搾乳場は五百十七箇所であつて前年に比し、四十三箇所を増加し、搾乳量に於ては三十萬九千九百六十四立であつて、前年より三萬三

咸鏡南道	六、八五三	一、二九〇	二、五五六	三、五五五	一、九二	三、六七四	六、二五	二、三六八	一、三二九
咸鏡北道	八、一八三	四、五五	二、二	一、四九	一、七三	二、四五六	二、〇	二、五六九	六、六八

内容ト計ト符合セザルモノアルハ千圓未満切捨ノ結果ニ因ル

蔬 菜

〔昭和十年〕

昭和十年に於ける全鮮の蔬菜作付反別及收穫高は次の如くである。

作物	作付反別(町)	收穫高(千貫)	反當收量(貫)
甘藷	優良種	三、三五四	三三
	在來種	二、三三六	四六四
馬鈴	優良種	五、八三四	三〇
	在來種	七、一三五	一六〇
薯蕷	優良種	九、六四三	一四三
	在來種	二	一四三
蘿蔔	優良種	六、三三四	三三
	在來種	九、九六五	二六
白蘿蔔	優良種	四、八五五	二五七
	在來種	七、三三	一六
甘藷	優良種	三、三四五	一六
	在來種	二、三六五	三五
葱	優良種	三、三四五	一七
	在來種	二、三六五	三五
茄子	優良種	三、三四五	一七
	在來種	二、三六五	三五

作物	作付反別	收穫高
胡瓜	七、七三	一八、九四
南瓜	四、五五八	一、五九
甜瓜	三、四二五	三、一七
西瓜	二、五二四	七、〇
大芥	八、六四	二、四五六
蒜	一、三三四	二、一七
葱	一、〇三	二、九
芥	一、〇三	二、九

右の作付反別及收穫高を前年に比較して見ると、(△は減、其他は増、括弧内は%を示す)

民有林野の所有状態

咸鏡北道を除く十二箇道に於ける民有林野(道有を除く)は九百七十六萬五千九百四町歩であつて、所有者は二百萬九千九百二十四人である。(所有者は面毎に集計してゐるから實数はこれより少く、また共有林野は共有者全部を以て一人とする。)

林野所有者一人當りの平均所有面積は四町八段六畝歩である。而

茄子 七四(九)
 胡瓜 △七五(一)
 南瓜 四四(〇)
 甜瓜 △七〇(五)
 西瓜 △三六(八)
 大芥 五三(七)
 蕃椒 一、〇五(八)
 芥椒 五九(六)

馬鈴薯 四三(九)
 在來種 △二二(六)
 優良種 五四(五)
 在來種 △九七(三)
 優良種 七九六(二)
 在來種 一、二九(八)
 優良種 一、七九(三)
 在來種 △三六(二)

即ち甘藷の優良種、馬鈴薯の優良種及び在來種、葱、茄子、南瓜、大芥、蕃椒は作付反別、收穫高共に増加し、胡瓜、甜瓜は作付反別、收穫高共に減少し、甘藷の在來種、蘿蔔、甘藍、西瓜は作付反別の減少に拘はらず、收穫高増加し、白菜、芥は作付反別は増加したが、收穫高は反對に減少してゐる。尙ほ主なる蔬菜に付道別收穫高を見ると次の如くである。

重要蔬菜收穫高表 (昭和十年)

道	甘藷		蘿蔔		蘿蔔
	優良種	在來種	優良種	在來種	
總數	五、八五八、〇三〇	四、六八四、一七三	六、八七二、五五五	九、九四二、六六二	一、三、七九、六八〇
京畿道	三、八七二、五〇〇	六、〇〇〇、〇〇〇	五、〇〇〇、〇〇〇	一、九四九、〇〇〇	二、六、一八〇、一六五
忠清北道	四、七四二、六九二	一、九九五	一、三〇八、八八一	一、〇三二、七二四	三、九五一、九八四
忠清南道	二、五三二、三二五	五、八二三、〇〇〇	二、八四九、七九二	三、三〇九、九三九	一、四、九八九、五〇六
全羅北道	一、七〇七、四四四	六、〇〇〇、〇〇〇	一、七〇八、三〇〇	四、五七六、七七一	六、七五八、七四〇
全羅南道	二、九八八、二二〇	一、七七一、五五五	一、〇三〇、〇〇〇	一、〇七二、八七一	一、五、四〇〇、三六二
慶尙北道	一、三六四、四五五	一、五七七、六六六	八、九七〇、九七〇	三、三三三、七三三	七、九七〇、五三三
慶尙南道	六、八九六、六七六	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	六、二二二、二二二	三、〇四七、五五三
黄海道	七、〇九二、四六六	一、〇〇〇、〇〇〇	一、三三三、三三三	一、七五五、〇〇〇	二、一、七五五、〇〇〇
平安南道	四、九七五、三三三	七、三三三、三三三	三、四〇〇、八二五	四、〇〇〇、八二五	一、五、五五五、八三三

して (1) 一人の所有面積二町歩未満の所有者数は全所有者数の五七%に及ぶが、その所有面積は全民有林野の九%に過ぎず、(2) 一人の所有面積二町歩以上二十町歩未満の所有者数は三九%、所有面積は四八%であつて其の釣合はほぼ平均に近く、(3) 一人の所有面積二十町歩を越ゆる所有者は僅に四%であるが所有面積は四三%を占めてゐる。即ち小面積林野の所有者は其の数が多いが、其の所有面積は極めて狭少である。

民有林野の所有状態を内地と比較すると次の如くである。

全面積 朝鮮 内地
 九、七五五、九〇町 一〇、三六九、一四町

全所有者数
 二、〇〇九、九八人 四、三一九、五九人

一人當平均所有面積
 四・八六町 二・四〇町

尤も右の調査は朝鮮が昭和十年十二月一日に咸北を除く十二箇道

威鏡北道	四四〇	一六、七六〇、五三〇	五、二四四、三六九	六、三九五、〇〇〇	六、三九五、〇〇〇
威鏡南道	一五四、六七七	一、九七五、四七三	二九、七七一、三三三	二九、七七一、三三三	一〇、三六六、四九二
江原道	四四八、三三九	八、一〇、三三三	二五、六三三、一六三	二五、六三三、一六三	二、七七一、四三六
平安北道	一、五四五、九九九	六、〇、三三三	五、九九九、三三三	六、九九九、三三三	三、四三三、五〇二

(續)

	白	甘	葱	甜
威鏡北道	七、七〇〇、九八〇	三、二八、五六八	一、八、三三〇、三三〇	三、三三〇、三三〇
威鏡南道	六、六三三、二六六	三、〇〇〇、三三三	一、三三三、三三三	三、三三三、三三三
江原道	八、七三三、七三三	七、七三三、七三三	三、三三三、三三三	九、六三三、七三三
平安北道	一、四六六、七三三	一、三三三、七三三	四、三三三、七三三	一、三三三、七三三
平安南道	八、六六六、七三三	九、〇、七三三	五、六六六、七三三	五、三三三、七三三
黃海道	一〇、五七七、四六六	六、六六六、六六六	二、七三三、四六六	四、六六六、七三三
慶尙南道	七、六三三、三三〇	二、二二二、八八八	六、六三三、三三〇	二、二二二、三三三
慶尙北道	六、一八九、六九九	四、九〇九	四、六九九、二二二	二、三三三、六三三
全羅南道	六、三三三、六三三	一、〇、三三三	四、三三三、七三三	一、七三三、四三三
全羅北道	四、七七三、三三三	四、七七三、三三三	四、一〇〇、九〇九	一、一六六、七三三
忠清南道	三、六三三、三三三	六、八三三、〇〇〇	七、三三三、〇〇〇	三、三三三、三三三
忠清北道	三、〇〇〇、九九九	一、九三三、三三三	二、〇〇〇、一〇〇	一、七三三、六三三
京畿道	一、七三三、三三三	一、九三三、三三三	一、五三三、七三三	七、四三三、三三三
總數	九九、九六五、〇七六	一、八五五、〇九三	六、三四八、〇〇〇	三三、一九〇、八七七

を民有（道有を除く公有、寺刹有、私有）の全部に付調査せるものなるに、内地は昭和六年末に府縣全部を私有林野（寺刹有を含む）を調査したもので、いくらか調査條件の差異はあるが、大體の所有状態を知ることが出来るであらう。

次に全鮮に於ける民有林野の面積を道別（威北を除く）に示して見よう。

總數	九七、六五、九〇〇町
京畿道	七三、五三三
忠清北道	四、五七、九六五
忠清南道	四、五三、八三三
全羅北道	四、六八、二〇〇
全羅南道	七、九三、一八七
慶尙北道	一、三三、四三三
慶尙南道	七、七三、七三三
黃海道	八、六六、六六六
平安北道	一、四、四、七三三
平安南道	一、二、二、三三三
江原道	一、三三、三三三
威鏡南道	一、三三、三三三

養 兔

〔昭和十年〕

昭和十年末現在に於ける養兔の飼養戸数は一萬五千六百七十二戸、飼養頭数は此三萬六千六百八十五頭、牡二萬二千二百三十三頭、計五萬八千八百九十八頭で、前年に比し、飼養戸數に於て二千四百三十二戸、頭數に於て七千六百六十九頭、牡五千三百十頭それぞれ増加してゐる。

これら道別に觀ると、飼養戸數に於ては京畿道の二五、四三六二戸最も多く、忠南の三三、三三三二戸、忠北の二五、五五〇戸これに次ぎ、全南、全北、慶南及び慶北は各一千戸臺、其の他の各道は何れ

も四百戸未滿であつて、概して言へば京畿以南に多く、總飼養戸數の九十三%を占めてゐる。

また飼養頭數では京畿の一萬一千六百五十二頭が筆頭で、忠南の九千六十頭、全南の八千五百八十頭、全北の七千八百八十二頭これに次ぎ、平北の二千四百九頭が最も少く、其の分布は飼養戸數と同じく京畿以南に多く、總頭數の九十三%を占めてゐる。

次に昭和十年中に於ける移動狀況を觀ると、生産七萬八千二十八頭、斃死二萬三千三百六十一頭、屠殺三萬四千四百九十一頭で、前年に比し生産六千二百九十九頭(八・八%)、斃死二千七百九十五頭(一三・五%)、屠殺九百四十一頭(二・八%)の夫れぞれ増加を示してゐる。尙養兔の主要なる種類は、アメ、ベニキス種、ペンキマン種、イタリマン種、アングラ種、レッキス種、チンテラ種等である。詳細は次表の如くである。

養 兔 表 (昭和十年末現在)

總 數	飼 養 戸 數			飼 養 頭 數			生 産	斃 死	屠 殺
	全 國	京 畿	他 道	全 國	京 畿	他 道			
一五、六七二	一五、六七二	三、六六五	三、三三三	三六、六八五	二五、四三六	二五、四三六	七六、〇二八	三三、三六一	三三、四九二
三、四九三	三、四九三	七、三三六	四、四〇五	四、六六六	二、五五〇	二、五五〇	一三、七九九	三、六三四	五、七五五
二、五五〇	二、五五〇	四、四〇五	二、五五〇	二、五五〇	六、九四五	六、九四五	三三、三〇〇	三、八三三	五、八八六

朝鮮米の輸移出仕向地

(昭和十年)

昭和十年中朝鮮米の輸移出高は八百六十萬一千餘石(玄米に見積り九百二萬五千石)である。その大約八割を占むるものは昭和九年の産米であつて、同年の米作は前年に比し著しく減收なりしに拘らず、内地に於ける需要が旺盛であつたのと、一面朝鮮に於ては滿洲粟の供給薄に内地麥及小麥粉等の補給が潤澤であつたのととり、比較的多額の移出があつたから、昭和九年に比し、輸移出合計に於て僅に八十五萬五千石、即ち一割弱の減退を示したに過ぎない。

其の仕向地は依然大阪府が第一頭地を抜んで、三百五十九萬四千餘石(四割二分)を算し、東京府の百八十七萬一千餘石(二割二分)、兵庫縣の五十三萬八千餘石(六分)これに次ぎ、山口、愛知の各縣も

前年總數	昭和十年	増減	増減率	前年總數	昭和十年	増減	増減率
忠清南道	五、四三三	五、四九七	九、〇〇〇	三、九〇〇	三、九八〇	八〇	二、〇五
全羅北道	一、四八八	一、四九六	七、一〇〇	八、四八九	八、四九六	七	〇、〇八
全羅南道	一、六七三	一、九三三	一、五〇〇	一、〇六六	一、一〇六	四〇	三、七五
慶尙北道	一、〇〇〇	一、〇〇〇	〇	三、四六八	三、四六七	一	〇、〇三
慶尙南道	一、〇三三	一、〇三三	〇	一、三三三	一、三三三	〇	〇
黃海道	二、六〇〇	二、五九八	二、〇〇〇	六、七五五	六、七五五	〇	〇
平安南道	二、六三三	二、六三三	〇	一、一七九	一、一七九	〇	〇
平安北道	五〇〇	五〇〇	〇	四、五五六	四、五五六	〇	〇
江原道	五、四〇〇	五、四〇〇	〇	五〇〇	五〇〇	〇	〇
咸鏡南道	一、八〇〇	一、八〇〇	〇	一、〇七七	一、〇七七	〇	〇
咸鏡北道	五〇〇	五〇〇	〇	二、七三三	二、七三三	〇	〇
前年總數	一、三、一、〇〇〇	一、三、一、〇〇〇	〇	一、三、一、〇〇〇	一、三、一、〇〇〇	〇	〇

水産生産額

〔昭和十年〕

昭和十年の水産生産額を見ると、漁獲高は六千五百九十六萬六千六百十四圓、養殖高は六千五百一萬三千六百五十六圓、養殖高は二百九十萬二千四百五圓、總額一億三千三百八十八萬二千六百七十五圓である。これと前年に比すれば、漁獲高に於て一割三

分、製造高に於て四割二分、養殖高に於て二分何れも増加し、總額に於て二割六分の増加を示してゐる。
右の水産額を道別に見るときは、漁獲高に於ては慶尙南道の千三百六萬八千二百二十七圓最も多く、咸鏡北道の一千二十萬三千三百六十七圓これに次ぎ、全羅南道の一千六萬七千六十圓、咸鏡南道の九百二十五萬一千四百圓、江原道の六百七十三萬三千二百六十一圓、慶尙北道の五百二十萬一千二百七圓等の順序であり、製造高に於ては咸鏡北道の一千八百二十四萬四千七百五十六圓最も多く、咸鏡南道の一千五

三十餘萬石に達した。更に前年との對照に於ては、前述の如く全輪移出力の減少に伴ひ、各仕向地とも概して多少の減退を免れなかつたにも拘はらず、廣島・香川・愛媛・高知・和歌山の各縣は何れも増進を示し、且つ北海道に於ける需要が比年増進し來つたのは注目すべき現象である。いま年額五萬石以上を算する各府縣及び輸出國別を摘記すると次の如くである。

- イ 移出先 昭和十年總移出高
- 大阪府 三、五九四(四一七)
- 東京府 一、八七一(二一七)
- 兵庫縣 九二九(一〇八)
- 廣島縣 五三八(六二)
- 山口縣 三八九(四五)
- 愛知縣 三三一(三八)
- 北海道 二四五(二八)
- 神奈川縣 一四二(一六)
- 愛媛縣 七四(九)
- 静岡縣 七三(八)
- 長崎縣 七〇(八)

百六十二萬四千二百六十六圓これに匹ぎ、江原道の計に於て見るときは、威鏡北道の二千八百四十九萬九百四十六萬四千五百七十二圓、慶尚南道の六百七十七萬七千七百六十圓、全羅南道の六百二萬二千八百八十六圓等の順序であり、養殖高に於ては全羅南道の二百三十三萬四千六百五十二圓が一躍地を抜いて多く、慶尚南道の二十三萬七千六百六十四圓これに匹ぎ、黄海道の十八萬三千四百十圓、威鏡南道の五萬百七十圓等の順序で以下は極めて少なくなつて居り、總

水産生産額表 (昭和十年)

道	總額	漁獲高	製造高	養殖高	前年に對する増	主なる生産物
總數	二,三〇,一〇〇,〇〇〇	一,〇〇,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇,〇〇〇,〇〇〇	〇・〇	いわたし油、油、めんたい、さば、フイツシユミール
威鏡北道	八,〇〇〇,〇〇〇	三,〇〇〇,〇〇〇	三,〇〇〇,〇〇〇	二,〇〇〇,〇〇〇	〇・五	いわたし油、油、めんたい、さば
威鏡南道	三,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	〇・五	いわたし油、油、めんたい、さば
慶尚南道	一,〇〇〇,〇〇〇	三,〇〇〇,〇〇〇	三,〇〇〇,〇〇〇	三,〇〇〇,〇〇〇	〇・五	いわたし油、油、めんたい、さば
全羅南道	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	〇・五	いわたし油、油、めんたい、さば
江原道	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	〇・五	いわたし油、油、めんたい、さば
慶尚北道	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	〇・五	いわたし油、油、めんたい、さば
黄海道	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	〇・五	いわたし油、油、めんたい、さば
平安北道	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	〇・五	いわたし油、油、めんたい、さば
京畿道	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	〇・五	いわたし油、油、めんたい、さば
忠清南道	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	〇・五	いわたし油、油、めんたい、さば
全羅北道	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	〇・五	いわたし油、油、めんたい、さば

福岡縣 五六 (六)
 其他二十七縣 一六二 (一九)
 樺太、臺灣

輸出先
 滿洲國 六一 (七)
 關東州 六〇 (七)
 其他 三 (〇)

備考 括弧内は輸移出總額に對する割合である。

次に右の輸移出米を玄米、精米等に區分すると次の如くである。

總額	移出	輸出
總數 八,〇〇〇,〇〇〇	八,〇〇〇,〇〇〇	八,〇〇〇,〇〇〇
玄米 四,七〇〇,〇〇〇	四,七〇〇,〇〇〇	四,七〇〇,〇〇〇
精米 三,五〇〇,〇〇〇	三,五〇〇,〇〇〇	三,五〇〇,〇〇〇
碎米 一七〇,〇〇〇	一七〇,〇〇〇	一七〇,〇〇〇
其他米 六〇,〇〇〇	六〇,〇〇〇	六〇,〇〇〇

海外旅券下附數 (昭和十年)

外事課の調査に據ると、昭和十年中總督府及各道で下付した海外

地 税

昭和十年末

面積 昭和十年末に於ける全鮮の課税地(大正三年制令第四號の規定に依り地税を徴收せざるものを含む)は四百四十五萬九千六百六十四町歩で朝鮮總面積の約二割に當り、前年末に比較すると千七百九十

五町歩の減少である。
土地の種類別では田畝が多く其の合計は課税地總面積の九割六分二厘に當つて居る、即ち田の二百六十五萬九千町歩が最も多く總面積の五割九分六厘を占め、畚は百六十三萬三千町歩で三割六分六厘に當つて居る。其の他は釜の十三萬五千町歩、雑種地の三萬町歩等である。道別の面積は黃海の五十五萬二千町歩(一割二分三厘)が第一位で、全南の四十二萬二千町歩、平北・京畿・平南三道の各四十萬餘町歩、慶北及咸南の各三十九萬町歩内外等は多い方である

道	田	畚	谷	雜種地	其他	合計
平安南道	一、六三六、一四三町歩	一、二一四、三七一町歩	五五、六三九町歩	六、一三三町歩	〇、二〇〇町歩	二、九四一、四九三町歩
忠清北道	五、八四五町歩	五、八五四町歩	一、	二、二二二町歩	〇、二二二町歩	一三、九〇四町歩
京畿	一七九、三三三町歩	二〇五、九三三町歩	一五、五六二町歩	三、三三三町歩	六、〇〇〇町歩	四〇〇、〇〇〇町歩
忠北	八四、八六八町歩	七二、八九三町歩	六、三三三町歩	四、	一、七一一町歩	一六三、〇〇〇町歩
忠南	八、四八四町歩	一六、四四五町歩	二、二二二町歩	二、〇〇〇町歩	二、	二五、〇〇〇町歩
全北	六、三三三町歩	一六、八三三町歩	九、八三三町歩	一、〇〇〇町歩	一、〇	二五、〇〇〇町歩
全南	一三九、〇三三町歩	二〇、六三三町歩	一、〇一〇町歩	四、〇一〇町歩	六、	一六〇、〇〇〇町歩
慶北	一七九、九七七町歩	一五、九七七町歩	一、二二二町歩	三、七七八町歩	四、	二〇〇、〇〇〇町歩
慶南	九四、一六六町歩	一七、四一七町歩	一、二二二町歩	六、	二、	一一三、〇〇〇町歩
黃海	一〇〇、〇〇〇町歩	一三、〇〇〇町歩	一、	四、	三、	一一三、〇〇〇町歩
平南	二二、二二二町歩	三、三三三町歩	八、	四、	九、	三三、〇〇〇町歩

旅行地別	總數	内地人	朝鮮人
總數	九三	三八	五五
歐洲諸國	一四	一四	一
北米合衆國	一三	二	一一
蘇聯邦	四	四	一
香港、加奈陀	一	一	一
佛領印度支那	九	一	八
比律賓諸島	一五	一	一四
濠洲	一三	一	一二
布哇	六	一	五
印度、ビルマ	三	一	二
メキシコ	一	一	一
次(これを旅行目的別に見ると次の如くである。)			
旅行目的別	總數	内地人	朝鮮人
總數	九三	三八	五五
公務	一八	一七	一
修學	九	一	八
視察旅行	二九	一八	一一
一時旅行	二九	一八	一一

平北	三〇九、七九〇	八六、七六六	八、四八八	一、三三三	三	四〇六、二八三
江原	二四〇、八四四	八六、八九六	八、五七四	二、四九一	一四	三三六、五九三
威南	三二、二五七	五、四〇五	八、〇〇三	二、四六九	六〇	三六八、五五二
威北	一八八、三三九	一四、七四三	三、五七七	二三	二二	二〇六、七〇三
總計	二、六九九、八八九	一、六三三、二二八	一、五五五、二〇〇	五、〇一六	八七六	四、四九九、一六四

地價 地價は九億三千七百二十五萬三千七百三十圓(稅額千四百五萬八千八百六圓)で前年末に比較して二百七十七萬四千四百四圓を増加して居る(但し税額に稅率の低減に依り九十萬二千五百一十一圓の減少である)。

地目別では香が最も多く六億六百六十七萬六千圓(割合にして總地價の六割四分七厘)を占め、田(二億四千七百一十一萬二千圓)(二割六分三厘)、畑の八千九百

九十三萬二千圓(八分七厘)、雜種地の百四十九萬四千圓等が順次に並んで居る。道別に觀ると慶北の一億三千三百六十七萬七千圓(一割四分二厘)が首位を占め、之に並んで居るのは慶南・全南・京畿三道の各一億二千萬圓内外、忠南の約一億圓、全北の約九千萬圓等で威北の一千萬圓未滿は他道に比較して特にならぬ。

道	地價					合計	稅額
	田	畑	雜種地	其他	合計		
京畿	三、四四〇、〇一八	六、一七〇、三三三	六、〇〇八、八〇〇	七、三三二、一四六	一、九三三、五五八	一、七九、七六三	
忠北	一、四〇三、二二〇	二、九五七、七五五	九、九三三、七	一、四三三、四三三	四、〇三三、九三三	七、七、五九四	
忠南	一、八〇〇、〇〇〇	七、六二九、三九四	二、四〇〇、〇〇〇	一、四二五、〇〇〇	九、九八三、四三七	一、四九、七三三	
全北	一、三二二、三三七	七、一六六、六三三	三、六三九、三三三	三、六三三、三三三	一、七三三、三三三	一、三三三、三三三	
全南	三、三六六、六三三	八、七〇六、六三三	一、三三三、三三三	一、三三三、三三三	一、三三三、三三三	一、三三三、三三三	
慶北	三、三三三、三三三	九、三三三、三三三	四、三三三、三三三	一、三三三、三三三	一、三三三、三三三	二、〇〇〇、〇〇〇	
慶南	三、三三三、三三三	九、三三三、三三三	四、三三三、三三三	一、三三三、三三三	一、三三三、三三三	二、〇〇〇、〇〇〇	

商業	三二	三	二九
布	二	一	二
家事	三	一	三

勞働者移動紹介

最近西北鮮地方に於ては鐵道・港灣・水電・工場・橋梁等大規模の諸工事が勃興し、勞働者の需要が頗る増加しつつあるが、同地方は由來人口が稀薄で勞力の不足を告ぐる事が甚だしく、他方南鮮地方は人口稠密にして耕地が缺少なるのみならず、連年に互る旱水害等のため生活窮乏の域を脱し得ないものが尠くないので、これを西北鮮地方の工事に振向けることの緊要を認め、昨春以來關係道と聯絡提携の上南鮮過剩勞働者の移動紹介を實施して來たが、本年も約三千二百名を浦浦線鐵道工事、羅津邑埋立工事及び古茂山セメント工場建設工事等に移動赴役せしめ朝鮮内の勞力需給の調節に資した

黄 海	三七,五九,三九二	三五,一九八,〇〇〇	三,六九,二九九	一六,八三五	四九六	七六,三三四,〇八一	一,一四七,八六一
平 南	一九,二七五,八〇〇	一四,三七四,四六六	四,二七三,九六七	七三,九七三	六七〇	三〇,九八八,六七七	五,九八八,〇
平 北	一五,〇四三,六八八	一四,九六〇,八〇二	二,〇一八,六六八	三九,九五三	一八	三〇,〇四四,九六六	四〇〇,九七四
江 原	一〇,九九八,八五四	一八,八八八,〇三三	二,一三二,八五五	九,八五七	一九三	三三,〇〇七,六八三	四〇〇,九二三
咸 南	八,九九八,〇〇〇	八,四六六,六六八	三,三三三,九三三	八七,四三三	一六七	三〇,八四九,三三八	三三三,七三九
咸 北	六,三三九,八〇九	一,九七二,三四一	一,六三三,八三三	四,八七九	一六三	九,八七七,九三二	一四八,四六九
總 計	二四七,二二,七七〇	六六六,六六八,三〇八	一,九三三,七九五	三三,七三〇	九七〇	九七,三三三,三二二	一,四〇六,八〇六

納稅義務者 同年末の納稅人員は三百七十九萬九百一人で前年末に比較して三萬千八百五十五人の増加となつて居る。

納稅人員の平均一人當の納稅額は三圓七十錢 七厘、所有面積は一町一段七畝歩であるが之を納稅額別並所有面積別に觀ると次の如く前者に於ては一圓未満のものが五割五厘を、後者に於ては一畝歩以上一町歩未満のものが五割二分二厘を占めて居る。

納稅人員納稅額別		納稅人員所有面積別	
一圓未満	一圓以上	一段歩未満	一段歩以上
五圓未満	五圓以上	一町歩未満	一町歩以上
二十圓未満	二十圓以上	二町歩未満	二町歩以上
百圓未満	百圓以上	三町歩未満	三町歩以上
合 計	合 計	合 計	合 計
内地人	朝鮮人	内地人	朝鮮人
外国人	總計	外国人	總計
二五,八五八	三五,一六五	二五,八五八	三五,一六五
一,八八八,一三八	一,二九二,一〇〇	一,八八八,一三八	一,二九二,一〇〇
六二七	五〇四	六二七	五〇四
一,一九四,六三三	一,三三六,二四九	一,一九四,六三三	一,三三六,二四九
二,七〇六	二,七〇六	二,七〇六	二,七〇六
二,七〇六	二,七〇六	二,七〇六	二,七〇六
七六,七三六	七六,七三六	七六,七三六	七六,七三六
二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇
九,三三三	九,三三三	九,三三三	九,三三三
三,六六六	三,六六六	三,六六六	三,六六六
一〇五,八〇九	一〇五,八〇九	一〇五,八〇九	一〇五,八〇九
一,七二四	一,七二四	一,七二四	一,七二四
三,七一九	三,七一九	三,七一九	三,七一九
一〇五,八〇九	一〇五,八〇九	一〇五,八〇九	一〇五,八〇九

るのみならず、これに依つて彼等窮民に生業を興へ、更生の途に就かしめたのである。

朝鮮簡保資金利下と融通額内定

朝鮮簡易生命保險事業諮問委員會第十四回會議に於て朝鮮簡易生命保險資金の利下及び融通額は左の通り内定した。

昭和十一年度運用計畫中變更の件は

- イ 資金貸付事業種目中利率年五分六厘のものを大部分五分四厘に引下げる。即ち産業共同施設、農業倉庫、乾藪場及藪取扱場、道路及橋梁、河川改修事業、砂防事業、埋立事業の八種を二厘方引下げること。
- ロ 朝鮮金融債券の引受は曩に融通規則の改正に依つて其の途は既に拓かれたので、今回運用計畫に於ても之を認めること。

朝鮮人	六五〇、〇元	一、九四二、二五	九六六、九六四	二六、七三三	二、六六〇	一、八六八	三、六四四、五七六
外國人	六七四	五八八	二九七	一〇六	三六	二	一、七二四
總計	六八〇、〇〇〇	一、九八一、四四五	九六六、九六四	二四六、七三七	一五、二九五	三、三五五	三、七九一、九〇〇

朝鮮貿易

〔昭和十年〕

貿易總況 昭和十年に於ける朝鮮貿易は輸移出五億五千八十萬圓・輸移入六億五千九百四十萬圓・輸移出入總額十二億一千二百萬圓で差引一億八百六十萬圓餘の輸移入超過を示し、之を前年に比すれば輸移出は一割八分・輸移入は二割七分・總額は二割三分・入超は十割二分を夫々増加した。

貿易總額 (單位千圓)

昭和十年	對前年増
輸移出	六四、九〇三
輸移出計	四八五、八九四
輸移出計	五五〇、七九六
輸移入	一〇〇、五九〇
輸移入計	五五八、八二四
輸移入計	六九八、四三三

貿易指數 (最近五箇年)

昭和六年	100	103	103	100
同 七年	114	114	114	104
同 八年	115	113	114	110
同 九年	115	116	113	111
同 十年	137	110	114	113

貿易の趨勢 最近五箇年に於ける貿易の消長を見ると増進の跡顯著なるものがあり、昭和十年の貿易總額は五年前の昭和六年に比し二倍三分に上つてゐる。更に出入の別に見ると兩者共増加の一途を辿つてゐるが就中輸移入の増加速度は輸移出の夫れより大にして、従つて入超の増大は著しく五年前の實に十二倍半となつてゐる。

外國貿易 外國貿易は輸出六千四百九十萬圓・輸入一億五千九萬圓・差引入超三千五百六十九萬圓で、前年に比し輸出は一割三分、輸入は二割七分、入超は六割三分を夫々増加した。

道別融通内定額

總額	一、三一五、二五〇
京畿道	三七八、五〇〇
忠清北道	二、〇〇〇
全羅北道	三五、〇〇〇
全羅南道	三、一〇〇
慶尙北道	二九〇、〇〇〇
慶尙南道	二八、六五〇
平安南道	五三、〇〇〇
江原道	四八、〇〇〇
咸鏡南道	二七七、〇〇〇
咸鏡北道	二〇〇、〇〇〇

ハ 債券の引受利率は年四分五厘以上であつたのを、發行總額五十萬圓を超えるものに限り年四分三厘以上といふこととした。

昭和十一年度資金第二回融通割當額の内定せるものは次の如くである。

道別 融通内定額

總額	一、三一五、二五〇
京畿道	三七八、五〇〇
忠清北道	二、〇〇〇
全羅北道	三五、〇〇〇
全羅南道	三、一〇〇
慶尙北道	二九〇、〇〇〇
慶尙南道	二八、六五〇
平安南道	五三、〇〇〇
江原道	四八、〇〇〇
咸鏡南道	二七七、〇〇〇
咸鏡北道	二〇〇、〇〇〇

事業別 融通内定額

總額	一、三一五、二五〇
----	-----------

外國貿易總額 (單位千圓)		對前年增	
輸出	六四、九〇三	七、三六八	一、二六五
輸入	一〇〇、五九〇	二、〇三〇	二、七五
輸入超過	三五、六八七	一三、八四四	六、三九六
輸出超過	二五、五三三	一、二二二	一〇〇、五九〇
輸入超過	一〇、九四六	一、六一八	一〇〇、五九〇

外國貿易の相手國 外國貿易の最も主たる相手國は滿洲國(關東州を含む)及中華民國で、就中對滿洲國貿易は輸出五千八百四萬圓で輸出總額の八割九分を占め、輸入五千三百九十五萬圓で輸入總額の五割四分を占めてゐる。

輸出入額國別 (單位千圓)		對前年增	
滿洲國(關東州を含む)	五八、〇四四	三、九一九	一、〇四七〇八
中華民國	三、三三三	一六、四四八	七六、三〇〇
北米合衆國	五、四七二	七、五八八	二九、一九一
英領印度	三、〇〇〇	三、五三三	一九七、五六一
英領吉利	一、九七七	三、三三〇	四〇、九六一
比律賓諸島	二、九二二	二、五七九	一、〇四九
英領海峽殖民地	三、三三三	一、七四四	一、〇四九
南阿弗利加	三、〇〇〇	一、三九六	一、〇四九
南太刺利	二、三三三	一、三三三	一、〇四九
露領亞細亞	五、七五七	五、七五七	一、〇四九

其の他の諸國 一、二六五

保稅工場 六、三九六

合計 六四、九〇三

內國貿易 內國貿易は移出四億八千五百八十九萬圓移入五億三千八百八十一萬圓、差引七千二百九十二萬圓の入超過、前年に比し移出は一割九分・移入は二割七分を増進し、入超過は實に十二割八分を激増した。

內國貿易總額 (單位千圓)		對前年增	
移出	四、八四九、〇〇〇	七六、三〇〇	
移入	五、五七八、〇〇〇	二九、一九一	
移出超過額	一、〇四七、〇〇〇	一九七、五六一	
移入超過額	七、三三三、〇〇〇	四〇、九六一	

輸移出入重要品 (昭和九年)

品目	數量	價額(千圓)	對前年增(△減)
米(玄米に換算)	三三、七八八、五	三、六四九	一、六七三
砂糖	四三三、〇三三、五	三、四四六	六、二四四
紅糖	三〇七、〇〇〇	一、〇五六	△
綿織物(人造絹織物を含む)	一、五九九、九二五、方碼	三、三三三	△三、〇五三
絹織物(人造絹織物を含む)	三、四三三、〇〇〇	一、三三三	一、四四

施設	數量
公設市場	八一、五〇〇
下水道	一〇九、八二八
農用林地設定	八五、〇〇〇
水道	一三、六五〇
屠場	一、〇〇〇
小學校	二七、〇〇〇
普通學校	五六、四〇〇
中等學校	二六、八〇〇
公會堂	一、〇〇〇
産業共同施設	一三五、〇〇〇
乾糞場及糞取扱場	三、一〇〇
道路及橋梁	三一二、九七二
其他の公共的事業	三四三、〇〇〇

内地の人口増加

内閣統計局の發表によると内地に於ける昭和十年内地人の出生は二百十九萬六百八十一人で、かつてなき多數に上り、(平均一時間の出生は二百五十人)、前年の二百四萬三千八百七人に比し十四萬六千八百七十四人の増加である。また

道歳入出決算

〔昭和九年度〕

歳入出總額 昭和九年度道一般會計及特別會計の歳入決算總額は八千二百二十六萬圓、歳出決算總額は七千五百二十二萬圓で差引一千七百三十三萬圓の歳計剩餘金を生じ、前年度に比し歳入は二百三十五萬圓、歳出は七百二十六萬圓を減少したが、之は主として窮民救濟事業縮少の結果起債及事業費の減少したるに因るものである。

道歳入出決算總計表（單位千圓）

歳入		歳出		對前年度 増(△)減(○)
一般會計	特別會計	一般會計	特別會計	
恩給特別會計	三六五	恩給特別會計	七〇、三三五	△ 二、三三三
兒童獎學基金	四三	兒童獎學基金	二九	△ 一四
特別會計	三	特別會計	三	△
合計	四一二	合計	七〇、三六五	△ 七、二七九
合計	四一二	合計	七〇、三六五	△ 七、二七九

滿洲國主要都市戸口

（國務院統計處調）

滿洲國第一次臨時人口調査の結果に依る康徳二年末(昭和十年末)現在の新京特別市外二十四都邑に於ける常住戸數及人口の概數を人口數の順序に表示すると左の通りである。

都市名	戸數	人口
哈爾濱特別市	九四、五七九	四五六、七九
奉天市	八〇、六五五	四四三、三三
新京特別市	四七、六二二	二四八、四三
吉林市	二四、七九	二八、七五
營口縣城	二二、四八	二二、五五
齊々哈爾	一九、四三	一九、六五
安東縣	一五、五六一	一八、一八
錦縣	一七、二四五	一七、六五
遼陽縣城	一〇、七〇	一六、五五

砂	五、九七九	六八二
揮發油	一、六〇〇	一、六〇〇
燈油	四、六〇〇	二〇二
機油	三、八七三	一、〇九八
爆發藥	三、三三九	六一
線綿及打綿	一、六三三	四、四三三
綿織物	九、三二一	一〇
人造絹絲	四、二二二	三、〇六六
綿織物	一、四、五七	七、八五九
毛織物	一、〇三三	六七
綿織物(人造絹布を含む)	三、一九三	七、〇四四
護底綿靴	四、六七八	五九
洋紙	九、四六三	一、九三三
石炭	八、〇〇九	一、八二四
セメント	四、九二六	五、五五九
陶磁器	五、三七九	一、三三三
鐵	三、九三六	一、七三九
釘	三、二二二	五、四三三
自動車及部品	九、七九	七七九
分轉車及部品	六、七三三	三、〇一〇
自轉車	三、三三三	二、四三三
木枝類	九、二二九	一、三三七
木材	三、三三三	一、三三七
生肌	五、四八	一、三三七
肥料	一、七三三	三、九三七

差引額餘金 二、七三一

道歳入出決算道別表 (特別會計を含む)

(單位千圓)

道名	歳入	歳出	剩餘金
京畿道	10,276	8,646	1,630
忠清北道	2,200	2,336	126
忠清南道	6,667	5,798	869
全羅北道	5,595	4,499	1,096
全羅南道	6,595	5,718	877
慶尙北道	10,360	8,483	1,877
慶尙南道	10,335	9,137	1,198
黄海道	5,364	4,401	963
平安南道	5,866	4,706	1,160
平安北道	4,995	4,004	991
江原道	4,668	3,668	1,000
咸鏡南道	6,190	5,499	691
咸鏡北道	2,879	2,699	180
合計	82,555	70,824	11,731

歳入科目別(一般會計) 一般會計歳入八千九百九

十五萬圓の科目別を見ると、道債の二千五百七十九萬圓(歳入總額の三二・五%)を筆頭に道税の二千五

十萬圓(二五・〇%)國庫補助金の一千八百七十九萬圓(二二・九%)之に次ぎ、以上三科目を以つて歳

入總額の約八割を占めてゐる。

道一般會計歳入科目別(單位千圓)

項目	九年度	對前年度
臨時恩賜金受入	20,499	361
財産收入	9,566	66
財源收入	551	77
使用料及手数料	3,630	20
前年度繰越金	6,774	72
國庫補助金	18,792	9,477
寄附金	556	124
貸付金收入	2,573	1,011
雑收入	2,303	1,035
合計	82,555	33,644

右の表道税を更に科目別に見ると地稅附加稅は九百六十三萬圓で道稅總額の四七・〇%を占め、戶稅は四百八十七萬圓で二三・八%、之に次いで不動産取得稅は百九十七萬圓、林野稅は百十六萬圓、車輛稅は百十萬圓、其の他家屋稅、屠場(屠畜)稅、漁業稅、所得稅附加稅、特別所得稅の五稅は併せて百七十七萬圓である。

歳出科目別(一般會計) 一般會計歳出七千二百

七萬圓を科目別に見ると、勸業費の一千八百十七萬

承 德 九、七五九 四六、九五一

鐵嶺縣城 八、九五五 四六、五五四

撫順縣城 九、一九七 四一、六五六

佳木斯 六、九五五 三七、二六〇

蓋平縣城 五、三三七 二九、三六一

海城縣城 四、五五〇 二八、四四六

梨樹縣四平街 五、四四五 二五、九五九

延吉 五、一八八 二五、六四一

開原縣城 四、五五四 二五、三七六

鳳城縣城 三、六八五 三三、二一〇

昌圖縣城 三、四四三 一八、五八五

梨樹縣城 三、一三〇 一七、七三三

本溪縣城 二、八五五 一六、五三四

懷德縣城 三、二八五 一六、三三六

復縣城 二、三六〇 一四、二九四

黑河 二、五九二 一一、七七一

水稻植付狀況 (七月二十日現在)

七月二十日現在の水稻植付狀況を調査すると、七月中旬の降雨により南鮮諸道並に平安北道、咸鏡北道はほとんど完了したが、京畿

圖(歳出總額の二五・九%)、土木費の千七百八十八萬圓(二五・五%)、教育費の千三百十四萬圓(一三・七%)の三科目で歳出總額の七割を占め、之に次いで、は貸付金の五百八十六萬圓、道債費の五百四萬圓等が主なるものである。

道一般會計歳出科目別(單位千圓)

科目	九年度		對前年度 増(△)減(○)
	金額	割合	
土木費	1,788,830	25.5%	△ 8,625
勸業費	181,271	3.9%	△ 3,928
授産費	1,033	0.0%	△ 133
教育費	3,399,000	13.7%	△ 8,566
衛生費	3,399	0.0%	△ 33
社會事業費	3,399	0.0%	△ 197
財産費	71	0.0%	△ 66
會議費	63	0.0%	△ 16
事務費	1,555	0.0%	△ 367
新營費	1,135	0.0%	△ 1,135
貸付金	5,863	23.3%	△ 5,863
臨時恩賜金繰戻	51	0.0%	△ 51
測候所費	41	0.0%	△ 100
各種補助費	87	0.0%	△ 50
道債費	5,033	20.1%	△ 2,026
豫備費	1	0.0%	△ 1

書 堂

〔昭和十年〕

種別	金額	割合
雑支出	67	0.0%
計	7,355	29.7%

書堂は朝鮮獨特の教育機關であつて、内地の舊幕時代に於ける寺小屋にも比すべきものである。其の發生起源等は判明しないが、沿革は頗る古く、李朝時代に於いては唯一の初等教育機關として極めて優勢なものであつた。而して日韓併合と共に朝鮮教育令制定せられ、朝鮮人の初等教育は普通學校によるを原則とする旨定められたが、書堂は依然初等教育機關として頗る優勢であつた。左に併合以後に於ける書堂の状況を普通學校と對比して見よう。

明治四十五年三月末現在に於て書堂の生徒數は一四一、六〇四人であつて、普通學校生徒數(同年五月末現在、以下普通學校生徒數は五月末現在)一〇〇に付三一七といふ多數を示してゐた。其の後大正十一年に至る迄は漸次其の數を増加し、同年三月末現在に於ては生徒數二九八、〇六七人に達した。し

黄海・平南の諸道は依然として降雨に恵まれず、七月十日現在に比し植付は微々として進捗せず、咸鏡南道、江原道また完了に至らずして停頓してゐる。即ち七月二十日現在植付面積は百七十三萬三千九百九十三町一反步であつて、本年の植付豫想面積の九割六分二厘に相當し、未だ植付未済の面積は六萬四千五百三十九町一反步となつてゐる。

水稻植付済面積

(七月二十日現在)

道	面積(町)
總數	1,633,933
京畿道	186,433
忠清北道	71,334
忠清南道	312,451
全羅北道	175,644
全羅南道	211,338
慶尙北道	195,450
慶尙南道	107,733
黄海道	126,936
平安南道	74,309

かしながら其の間に於ける普通學校の増加数は尙著し、勢ひ書堂も絶對數に於ては増したるであらう。併合以後書堂生徒數の最多數になつた。即ち普通學校も年々増設されたが、民衆の向學熱がそれ以上に旺盛であつた爲、普通學校に於ける。

明治四十五年三月末現在	實數			明治四十五年三月末を百とせる指數			普通學校生徒百に付書堂生徒數
	書堂	教員	生徒	書堂	教員	生徒	
大正二年 同	一六、五五〇	一八、七七一	一四、六四〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	四、六三六
三年 同	一八、二三八	二〇、八七〇	一六、九〇七	一一〇	一一〇	一一九	五、八二六
四年 同	二〇、三六六	二二、五三三	一八、一七四	一二〇	一二〇	一三八	五、九三九
五年 同	二二、四四二	二四、六七〇	一九、五五〇	一三〇	一三〇	一四四	六、三〇四
六年 同	二四、五二〇	二六、八三二	二〇、九三三	一四〇	一四〇	一六三	七、〇七五
七年 同	二六、五九八	二八、九〇〇	二二、三〇〇	一五〇	一五〇	一八三	八、四二八
八年 同	二八、六七六	三一、〇六二	二三、六七一	一六〇	一六〇	二〇二	九、〇七六
九年 同	三〇、七五四	三三、二一八	二五、〇八〇	一七〇	一七〇	二二一	九、七二八
十年 同	三二、八三二	三五、三八四	二六、九四五	一八〇	一八〇	二四〇	一〇、三八〇
十一年 同	三四、九一〇	三七、四五〇	二八、八〇〇	一九〇	一九〇	二六〇	一一、〇三二

然るに其の普通學校の加速度的普及と内容の充實し來れることの爲に民衆の向學熱を此の方面に誘導し得るに至つたのと、不完全なる書堂が年々廢止

平安北道 六、八三三・四
 江原道 八、七七一・五
 咸鏡南道 五、三九六・六
 咸鏡北道 一七、三四四・四

夏秋蠶第一回豫想

(昭和十一年)
 本年の夏秋蠶第一回は中部及南鮮地方は六月下旬乃至九月下旬、北鮮地方は八月下旬乃至八月下旬の見込である。

各道夏秋蠶第一回見込總數は四十三萬一千六百五十二枚で、前年夏秋蠶第一回實數四十一萬六千七百七十五枚に比較すれば一萬四千八百七十七枚(三分六厘)の増加で、之を地方別に觀ると最高全羅南道の一割一分一厘、全羅北道の一割二厘が之に亞ぎ、最低は咸鏡南道の三厘である。減少したのは平安南道の九分七厘が最高に、平安北道の九分四厘、黃海道の一分五厘の三道である。
 桑葉の繁茂狀況は黃海道の不良

年次	實 數			明治四十五年三月末を百とせる指數			普通學校生徒(朝鮮人)	普通學校生徒百に對する書堂生徒數
	書堂	教員	生徒	書堂	教員	生徒		
大正十二年三月末現在	三〇,〇七〇	二,〇九七	三〇,〇八三	二七	二九	一九八	三七,六六一	八八
同 十三年 同	一九,六三三	三〇,二八五	三〇,八五五	二九	三三	一八〇	三七,三二〇	六六
同 十四年 同	一八,五〇〇	一九,一〇一	三〇,一七四	二二	二四	一四〇	四〇,七三三	五七
昭和 元年 同	一六,八七三	一七,三三〇	二〇,〇三〇	一〇	一〇	一七	四六,九七〇	四七
同 二年 同	一六,〇〇〇	一六,三三〇	一九,八八〇	九	九	一三	四四,二二〇	四四
同 三年 同	一五,〇〇〇	一五,五〇〇	一九,九三〇	九	九	一三	四三,三三六	四二
同 四年 同	一四,九七七	一五,四六九	一九,七三三	九	九	一三	四二,〇〇〇	四一
同 五年 同	一一,四六九	一一,九〇八	一四,二四七	六	七	一三	四八,九七四	三三
同 六年 同	一〇,〇〇〇	一〇,五〇〇	一四,〇九三	六	六	一〇	四九,九一〇	三〇
同 七年 同	九,三三六	九,五九七	一四,六九〇	五	五	一〇	五三,七八八	二九
同 八年 同	八,六三〇	九,〇〇七	一四,三六八	五	五	一〇	五二,二九二	二九
同 九年 同	七,五九九	七,九六四	一四,一〇五	四	四	一〇	五二,六二九	二九
同 十年 同	六,八四三	七,四〇八	一三,六三四	四	四	一〇	五二,〇〇三	二九
同 十一年 同	六,三〇九	六,八七六	一三,七三四	三	四	一〇	五〇,〇〇〇	二九

右の如く書堂は普通學校の著しき充實と共に年々減少したが、最近に於いては普通學校の充實に拘らず、書堂の生徒數も亦増加せんとする傾向を示してゐる。即ち前年に比し昭和九年は五、四三七人、同十年は五、五二九人、同十一年は八、一四〇人を増

加してゐるのである。之は大正十二年以來の趨勢に全く反する新現象であつて、最近農村振興運動の刺戟を受けて文盲排除の思想が熾烈になつた結果と考へられ、注目すべき事項である。

昭和十一年三月末に於ける書堂の道別狀況を其の

京畿道の一部不良、平安南道、平安北道の普通、其の他の道は何れも良好である。蠶兒發育狀況は概ね良好の見込である。

昭和十一年夏秋蠶種掃立枚數 (第一回豫想)

道 名	蠶種掃立 前年に對する枚數(増)△減(減)
京畿道	二六,七二一
忠清北道	二六,七四一
忠清南道	三一,〇〇〇
全羅北道	四四,七七〇
全羅南道	五五,五五六
慶尙北道	〇〇,〇〇〇
慶尙南道	二四,五三四
黃海道	一八,〇〇〇
平安南道	二四,四〇〇
平安北道	二九,〇〇〇
江原道	四四,〇〇〇
咸鏡南道	三三,〇〇〇
咸鏡北道	三三,〇〇〇
合 計	四三三,六三三

生徒数に付いて見ると、最も多いのは平安北道の三〇四九人が最も少い。尚書堂の道別分布を表示すれば次の如くである。

道	書堂数		生徒数		経費(圓)	
	男	女	男	女	男	女
總數	六,三〇九	二,〇一七	一四,四六八	一,九,五〇六	七,〇〇,四二二	一,〇〇,〇〇〇
京畿道	三,八八	一,一〇	六,九三三	八,四〇〇	四〇,六九七	一〇,〇〇〇
忠清北道	五八八	一一	一七,三三〇	四,二七六	四三,五二八	一〇,〇〇〇
忠清南道	一八三	一一	四,七七八	七九二	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇
全羅北道	二七四	一一	四,九二八	一,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇
全羅南道	六二六	一一	一五,九三六	一,四八七	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇
慶尙北道	二六〇	一一	三,六八九	一,六三三	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇
慶尙南道	六五	一一	一,〇四九	五五	四,五六二	一〇,〇〇〇
黄海道	五九三	一一	一五,九三三	一,九一五	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇
平安南道	八七〇	一一	一六,〇七〇	一,一九九	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇
平安北道	九三三	一一	一五,一五六	二,九七七	一七,八八六	一〇,〇〇〇
江原道	五三七	一一	一〇,八四七	一,〇一一	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇
咸鏡南道	五九二	一一	一七,九三五	一,五八三	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇
咸鏡北道	五五二	一一	一七,四三二	二,一七〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇

小賣物價調

(昭和十一年五月中)

昭和十一年五月中、九箇府即ち京城・大田・木浦・大邱・釜山・平壤・新義州・元山・清津に於ける小賣物價を調査するに、調査品目九十四種中前月に比し騰貴したるもの四十四、下落したるもの十五、保合のもの三十五品であつてこれを種別に就いて見ると、蔬菜及び果實類に於いては、多少低下を示してゐるが、穀類・肉類・燃料等に於いては騰貴の趨勢を示してゐる。

近藤賛助會員の逝去

本協會賛助會員の近藤全羅南道知事閣下には、去る六月二十九日知事會議を終へ歸任を前にして急逝せられた。茲に謹みて哀悼の意を表します。

尙ほ七月五日午後四時から、京城府主催の下に長谷川町公會堂で、神式による追悼會が莊嚴裡に執行され、宇垣總督、今井田政務總監、小磯軍司令官各閣下を初め官民多數の参列があつた。

雜筆

偶感

黄海長淵 須々木生

統計が國家諸政上に重要な役割を爲す事は言を俟たないところであるが、

統計事務に對する指導訓練乃至は統計事務擔任者の養成訓育に就て如何なる考慮が拂はれつゝあるかを考察し、思ひついた一二の點を述べて見ることも強ち無意義のことではなからうと思ふ。

朝鮮に於ける最小行政組織である府邑面は統計の立場から言つても本事務の最前線であり根基を爲すものであるが、之等の間に在つて從來統計實務に對する方策を全然考慮の中に入れてなかつた事は洵に遺憾に思ふところである。由來面の事務に實際に關した問題に就て論議する爲府邑に關しては暫く擱き、は法令に依り屬せ

しめたる範圍に限定せられて居たが、邑面制の改正に依り法令の範圍内に於ての其の公共事務處理として多少の自治を加味せられ事務處理の限界が廣汎に互るに至つたのみならず、今や農村振興運動は精神的運動より既に實行方面に推移し面の職員は擧げて本運動に盡瘁して居る實狀に在るのである。

現下朝鮮農村の實際を見るにその經濟に農法に未だ舊套を脱する能はず之が改善促進に猶幾多の指導監督を要するものがあるのである。固より之等は農村に於けるあらゆる指導機構を通じ模範施設を介し之が促進を期しつゝありと雖、其の效果の急顯を得んとするには勢ひ臨地指導に俟たなければならぬ情況にある様に、面の主な事務は内務よりも外務に重きを置かなければならなくなつたのである。之が爲に内務事務は其の處理に幾分の濫濫を生じ緩慢を來すものも亦已むを得ない趨勢と言はなければならぬ。

此の様な状態の中に在つて統計

事務が從來如何に考へられ又如何に取扱はれつゝあるかを思ひ、更に如何にしたならば改善を期し、正鵠を得させることが出来るかに思ひを致すことも大切な問題であると信ずるものである。

統計は固より正確な資料の下に爲さるべきは論を俟たないところであるに、人口調査小票を根基とする人口統計諸表の類の外はその殆んどが机上達觀の基礎に置かれたものでないとは創刊號の江上氏の言のみならず誰が言ひ得やう。此に於て吾々は統計の重要性に鑑みその結果に對して言ひ知れぬ不安と危懼の念を抱くものである。統計が國家諸政上の根幹を爲し指針となるなれば之が當否は正に統計事務擔任者の雙肩に懸つて居るのであるが、その重大性を認識しつゝ、此の事務を擔當して居るものが果して何人あるだらうか、不撓の努力をその準備と用意に拂ひ以つて迅速と正確を期すべく努むるものが幾人あるであらうか、省みてその心細さを如何にすること

も出来ないものである。外の仕事程

殊に教育等とか勸業だとかの様にその施設が外面的であり得るものは如實に効果を察知し見聞し得るが故に極めて華やかであるのに反し、統計實務は極めて地味なものであり、効果のあらはれるのが間接であるのに、その調査には實に豫想以上の困難があり、努力を要するものであつて、これが改善刷新には並々ならぬ苦心と工夫がい

るものである。然らば如何にして統計事務の内容を改善し、刷新し、擔任者をしてその本來の意義の認識を強めさせ得るか。乏しい上に局部的の意見かも知れないけれども其の二、三を擧げて強調して見たいのである。

一、面職員増員の斷行 固より統計事務のみの爲に職員を増すことは出来ないが前述の通り面事務の激増に反するに、職員は依然増置されずあらゆる事務の圓滿遂行を期せんとするには必然的に人員の増加を要すべく、この結果は勢ひ本事務の圓滑處理に對しても一部分の助

成たり得るものと信ぜられるに依るものである。

二、邑面統計主任の設置

面に依つては本制度を設けて居る向もあるが、その多くは特別に之等の制度なく濫然とした取扱ひをして居る様であるが、統計事務が重要な一存在であるならば他の事務に對立したところの一個の存在として示すべき別個の責任者を構成する法令に依つて設け、全責任を負はしめると共に本事務に關する限り相當の權限を附與するを一つの方法と思ふ。

三、統計事務擔任者講習會の開催
從來統計に關する團體若は内閣統計局の主體乃至は後援の下に内地に於て統計講習會等が開催されて居るが、之等は極めて一部の者の出席に止まり廣く一般に及ぼすことは容易な事でないと思はれるので、此の種催しを本府に開催して少くとも各道の統計主務者の訓練を爲し、更に之等道主務者に依り郡統計主務者、郡主務者より面統計主務

者と言ふ様に順次訓練の段階を定めて實施し、擔任者をして汎く之が體験者たらしめ、以つて統計に關する實務の習得を得せしむると共に興味を喚起し、統制を加ふるを必要と思ふ。

以上は尚ほ必要と思ふ。
以上は尚ほ必要と思ふ。以上は尚ほ必要と思ふ。以上は尚ほ必要と思ふ。以上は尚ほ必要と思ふ。

最後に吾等の豫てから念願して居た本協會が各方面の御盡力に依り設立せられた事は非常に嬉しく、心強く思ふところであるが、それだけに本協會の使命も重大であり、全會員の奮起を要するや切なるものがあるのである。故に本會に對し抱いて居る希望、願ひと言つた様なものを掲げてこの項を終りたいと思ふ。

一、協力の必要

固より本會の設立の趣旨は既に明かに示されて居るところでありその目的に向つて理事者は勞苦を拂つて居られるものであるが、往々にしてこの種團體の使

命が日を経るに従ひ年を關するに従つて、會員の團體と言ふ觀念を忘れ有名無實の弊に陥る實例を見るに吾等會員は、あくまでも眞摯な態度を以つて永久に吾等の會たるの理想を失はない様にしなければならぬと思ふ。

殊に機關誌の如きに至つて更に其の感を強くせざるを得ないのである。過去に於ける種々な實例を目撃するにその多くは會員の支援を失ひ、理事者其の原稿の蒐集に奔命するも猶意の如くならず爲に機關誌本來の目的を充分に達成し得なかつた事である。吾々は其の蘊蓄の深淺を問はず、その内容の大小にこだわらず、更に文筆の巧拙を念慮せず奮つてその支持に努めたいと思ふ。

二、理事者に對する希望

從來下級官廳職員を持つ希望、意見の如きを發表若くは具現すべき公的乃至は半公的の何等の機關を持つて居なかつたのであるが、本協會設立の曉はその趣

旨に反せざる限り更にその目的達成に關聯する内容を有する範圍に於ては吾等の希望、要望或は意見の如きの上達等の方面にも相當意を用ひて貰ひたいことを理事者にお願ひするものである。

三、機關誌に對する希望

イ、統計圖表の登載
統計圖表が統計發表に如何に効果的であるかと言ふことは言を俟たないところで特に素人方面に大きな效用を爲すものである固より圖表の考察研究に關しては常に意を用ひて居るところであるが如何にせんその經驗に乏しきと、良い參考書等を得られない吾々に在つては、充分なる期待を懸けられない有様である。茲に於て時報に時折各種の圖表類を蒐録せられ吾等の參考に供して貰ひたいことを望む次第である。

ロ、文藝欄の設置

第二號誌上に編者よりその意のあることをほめかしてはあつたが、讀みよい、見よい冊誌た

らしめんには是非共こりした方面の記事を有することが願つて力あることを信じ成るべく早急實現を見んことを希望するものである。

兎と龜

佐藤 生

有名な兎と龜との競走の話では兎の遅い龜が兎を破つてゴールインし、兎の自慢の鼻を明かしたことになる。併し此は天才兎兎公が途中油断して居残りした爲め敗れし切つてゐた天才兎公に打負されたと云ふ譯で、天才の意氣は天才の努力に若かずといふ訓意を持ち、小學校の修身教材に取り入れられて私共に多くの教訓を垂れてゐる次第である。

處でこれは途中で兎公が居残りした爲めであるが、若し兩方共一生懸命に走る場合はどうか？ 兩方共に一生懸命に走るのだから出發點を同一にして置けば兎の勝つことは明らかであり、餘り

に龜さんに詰といふので、龜さんの出發點を百米だけ先に出して置くことにする。さてこゝろした條件の下に「里着下」と兩者が一齊に飛び出したらどちらが先に逃げつくか？ いふ迄もなく兎はいくばくもなく龜さんを追ひ抜いて優勝するであらうことは誰しも考へる處である。處が斯ういふ風に出發點に於て百米といふ差がある場合には兎の速力が如何ほど龜よりも優れてゐても永久に兎公が龜さんに勝つことはない筈だといふ議論がある。それは古代ギリシヤに盛んであつた詭辯學派の議論として聞かされた話であるが、兎が百米走つて出發の際に龜のゐる位置に到達する時は、龜は更にいくばくかそれより先の點に着いてゐる筈である、更に兎が頭張つて龜が第二にゐる點に到達する時は龜は今一步これより先の點に到つてゐる筈である。この様な理窟を繰返して行くときは兎が龜の位置に到達する時は龜は常に更にいくらか前進してゐるといふ譯で、兎は永久に龜を追ひ抜くことは出来ないといふ議論である。甚だ常識に反した愚論であるが、とにかくこの様な理窟が學者と稱する人々の間に日角泡を飛ばして行はれたものである。

朝鮮の統計は内地等に比して尠からず遅れてゐることは否めないが、今や朝鮮は四半世紀の初頭に立ち、すばらしい躍進を約束される。敢へて内地等の進歩を目して龜の速力といふ譯ではないが、少くとも朝鮮の統計は兎の速力を以て促進せしめ、他地方を凌ぐ位にしたものだと思ふ。それを朝鮮は現在出發點に於て立遅れてゐるといふので内地等に到底及ぶものでないとするのは詭辯學者の議論と同様一笑に附すべきものと考えるのである。

オリムピック

安元三郎

今初夏の世界運動界の目標は一途ベルリンに開かれたる第十一回萬國オリムピック大會にそゝがれ

てゐた。その結果に於いて多年得んとし得られなかつた我運動界の世界的地歩をこゝに鮮明に獲得した事であつて、紺碧の色鮮なベルリンの空にりうりやうたる君が代のバンドと共に、靜に卒頭高く上つて行く日章旗を眺めた時その場に臨んだ若き選手や同胞の應援團は勿論のこと、一刻も早くラヂオを圍みその戰況を氣遣つて居る本國の人達にも涙なしには居られなかつた歴史的な事柄であつた。

かゝる刺戟と環境にある我運動界が、より以上の隆盛を見る事は當然の事實であつて、新歸朝の彼等オリムピック選手がもたらす研究とフォームとは、我後進選手の爲に單なる模倣的時代より創造時代への機會を與へ、世界的フェイムが世界の競技界がへいげいするの自信を作り、今や日本スポーツは平面行より立體行きとなつたのである。

近代人の發見は多々枚擧に遑もないが、吾人は最もモダンなる意味に於て、近代生活のモットーで

では乗用馬、輕軌馬、重軌馬に分たれ、産地別では東洋種及び西洋種に二分されますが、近時東洋種と西洋種との雜種大に行はれ、東洋種の特徴を多く有するを東洋雜種、西洋種の特徴多きを西洋雜種と云ひます。一般に東洋種は頭蓋骨の發達良好で、四肢は細小優美で堅牢であり、また皮膚は柔軟、毛は細軟で、鬣及び尾毛も長く、蹄は堅く小さい。西洋種は全く之に反して四肢の下部に距毛があります。東洋種には殆んどありません。概して西洋種は力強いが、美貌を欠き運動鈍く、東洋種は爽快なる運動と美貌とを有してゐます。

今朝鮮に輸入せられてゐる洋種馬は乗用馬ではアラブ、サラブレット、アングロアラブ、輕軌馬ではアングロノルマン、ハックニー、トロッター等であるが、其の内主なるものについて述べて置きます。

アラブ アラビヤ産で馬中最良の體格を有し、小形であるが乗馬として理想的體格を有し、耐久力に富み能力も亦優れてゐて、性は精悍、温良且つ伶俐で、よく調教訓練することが出来ます。體色は葦毛鹿毛等が多いが、栗毛、青色等もあります。風土に適應する力が強く種馬として在來馬の改良に用ひられ、近年は海外輸出を禁止してゐます。

サラブレット イギリスに於て作出せられ競馬としては世界に冠たるものであります。頭部細長、體幹は大きく、四肢細長で體高五尺四、五寸に達するものがあり、色は鹿毛、栗毛が多くあります。

アングロノルマン フランス産の馬でノルマンディー地方産の馬にサラブレット種を交配して改良したもので、體幹は偉大、體力は強健で、四肢太くよく走り、時に乗馬として長距離競走に用ひられ、色は鹿毛が多く、本邦でも中格軌馬を作るため種馬として盛に用ひられて

みます。

滿洲馬 體は概ね倭小であります。全身の發育よく整ひ四肢は短大且つ強健、性質は頗る從順でやゝ怯懦のところがあります。粗食勞働に堪へ得る點で此の種に及ぶものはありません。滿洲及び韓地地方に産し、乗用及び輕軌馬として使用されます。丈は四尺四、五寸から四尺八、九寸で胸廓は深長で、肋骨は圓隆、色は多く栗毛、鹿毛、葦毛であります。

朝鮮馬・新朝鮮馬 體格極めて倭小で、往時は兵用・官用を目的として産馬を飼ひ、民間に於いては僅に山間險路の小貨運搬、旅客の乗用若くは祭禮儀禮の用に供するに止まり、産業上に廣く使用せられる迄には行つてゐなかつた。その後これが改良の必要を認め、ギドラン、アングロノルマンの如き洋種を以て雜種改良をなし、これを新朝鮮馬と稱し、爾來引續き蒙古牝馬や、洋種牝馬を移してこれが増殖を圖つて居ります。

飼養戸數 この調査は所有權の有無に拘はらず、直接飼養または管理する戸數を掲記し、共同飼育するが如き場合は調査當時飼育又は管理する者を一戸として掲記するのであります。

他表との對照 本表は牛、馬、豚増減表、種牛及種馬表、馬用役別表、屠殺表その他關係表が多いから、彼此照對して計數に誤りなき様に注意せられたいのであります。

樣式三驢、騾、山羊及綿羊表 驢は馬と同族の家畜で體形は馬に似てゐるが、馬より餘程小さい。頭は大形で耳が長くて大兎の耳のやうであるからウサギウマと呼ばれてゐます。鬣厚く胸狭く臀部は扁平であります。全身鼠色で背上一筋の黒條があり、肩部にて十字形を

く、もうこの位ふつたらあがりさうなものだと思つて翌朝眼をさまして見ると、まだ降つてゐる。そしてそれがひどい降りだ。全く桶の水をたがすやうな烈しい降り方をする時が少くない。家の内にもつてもじめじめするし、街に出れば着物も帽子も靴もめちやめちやになるといふ有様である。一體この雨は何時まで降つたらなつとくがいくのだらうかと、こぼしてゐる者もある。京城ばかりでなく外の地方も矢張り雨が多いやうで新聞は早くも水害による作物減收を豫想せしめてゐる。現に今日（八月十二日）の記事を見ると全く半島中部は雨政めで、漢江ではいま刻々と増水して危険状態にあるので、これが防備のため待機してゐる有様である。

このひどい降雨は過去幾回となくわが朝鮮を襲つて人々をなやませしてゐる。そこでここに少し朝鮮の降雨のもたらす洪水、それからこれによる被害の有様などを取扱つた歌を「朝鮮風土集」市山盛雄氏編の中から拾つて見ること

としよう。

大江は梅雨にあふれてものすこし水泡粉となり散り来るかも

石井 龍史

さながらの海となりけりみの限り波をたたせていやはろかなり

市山 盛雄

家ぬちに水越え来れば犬の子のおどろきのぼる邊の上に

關鶴 沙東

みさくれば我が家の軒は水づきてもの突き當るいつぎいつぎに

百瀬 千尋

警戒は右往左往して物々し人に混りて苦も歩めり

朝田 愛

二階より見ればあかるか篝火の炭に燃えて人の動けり

相川 龍雄

たすけよふ聲さへつきて屋根の上

百瀬 千尋

みる。洪水から起る惨害は實に見るにしのびないものがある。田や番はめちやめちやになるし、家は浸され殊に人の屍體をまのあたり見なければならぬことは悲惨以上の悲惨である。泥海になかば浸りて傾ける家あり水は刻々に増す

市山 盛雄
山崩れ諸處に起れる江上の人の屍體の流れ来るなり

額田島三郎

故柳澤伯記念 事業資金 募集!

募 集 !

故柳澤保惠伯爵の我が國統計學界に於ける御功績は、誠に不朽のものである。苟も統計に關する學會並に行政の事業には必ず關與せられて、終始一貫、我國統計上の進歩のために御貢獻があつたのである。我が朝鮮統計協會が機關紙「朝鮮統計時報」を創刊するや、直ちに御懇切なる御教示を誌上に戴いたことは、諸賢の知らるる通り

である。

しかるに、去る五月二十五日遂に薨去せられたことは、恰も我國統計界の明星を失つた感がある。是に於て、御生前、緣故の人々が相謀り、左記よつて故柳澤伯記念事業資金を募集して、同伯の名に於て將來我國統計事業獎勵等の用途に供し、以て同伯の名を永久に傳へんとすることになつた。而して我朝鮮統計協會の眞締主事及び村辻幹事は何れも其の發起人となつてゐる。諸賢の奮つて此舉に御賛同の程御願ひ致します。

記

- 一、募集金の使途—募集金の上實行委員之を決す。
- 一、酬金額—一口參圓以上（但し數人共同して之を取纏め參圓以上としての酬金も可）
- 一、申込及拂込期限—昭和十一年十一月末日
- 一、拂込方法—拂込は東京統計協會内故柳澤伯記念事業實行委員長野村芳郎宛宛振替貯金口座東京一一七七五番

統計口誌

地方統計課長會議

内閣統計局に於ては、六月十一、十二の兩日に互り、本秋十月十日施行の第五回労働統計實地調査等に關する地方統計課長會議を開催し、朝鮮總督府よりは眞鍋統計官、村辻處の二名出席した。

道知事會議

全道各道知事會議は六月二十三日から二十七日まで五日間、本府第一會議室に於て開會されたが文書課主管の總督指示は次の如くである。

一 統計の整備に關する件

最近時勢の進展は各廳事務の全面的膨脹を促し、殊に農山漁村振興計畫の擴充に伴ふ地方廳事務の激増著しきものありて、統計事務の處理は動もすれば形式に流れ、根據なき机上の達觀を以て資料を整へんとする事例に乏しからず、調査の意義を没却し統計の價値を没却するもの尠からず各般に互り事業の更張を企圖せらるるもの多き現下の情勢に於て、其の基礎資料たるべき統計の忽にすべからざるは言を俟たざる所なり。仍て本府は茲に報告例を改正し、以て調査報告事務の緩和に資する所あり、尙努めて隨時調査報告の事項輕減に付意を用ひ

つつあり、道に於ても各部課相互の事務連絡を密にし、既調査事項の活用を努め、下級廳に命ずる調査報告は必要の最小限度に止め、以て下級廳就中邑面に於ける職員の能率向上を期すると共に、調査の正確、統計の整備に努められたし。

第十八回内閣

統計講習會

例年内閣統計局主催の下に開催せられたる内閣統計講習會は、本年も七月二十日(月)より八月八日(土)迄二十日間、東京市本郷區東京帝國大學を會場として其の第十八回を開催し、朝鮮よりも左の十五名が出席した。

勤務官署	氏名	職名
朝鮮總督府	今泉 吉秀	(文書課勤務)
同	花隈 豊米	(同)
同	宋相 哲	(同)
同	三輪 駒夫	(外事課勤務)
同	藤田 勇	(商工課勤務)
同	金世 麟	(水産課勤務)
同	柳澤 基弘	(鑛山課勤務)
同	李俊 泓	(土地改良課勤務)
同	関成 基	(編譯課勤務)
同	山本 堅二	(庶務課勤務)
同	松浦 一	(保險監理課勤務)
同	西村 勝	(勤務課)

京城專賣支局 川村勲一郎
平壤專賣支局 宇山 牙雄
京畿道官房 松崎 重雄 (知事官房勤務)

柳澤伯爵の薨去

國際統計協會名譽會員、中央統計委員會委員等として、斯界の爲大いに盡粹せられ、曩に我が朝鮮統計時報の創刊に當つて懇切なる祝詞を戴いた日本統計界の權威柳澤保忠伯は五月二十五日午後八時三十分遂に薨去せられたが、早速我が協會よりも柳澤統計研究所宛弔文を送つた。

協會人事

道府郡島統計主任(本會)

道府郡島	主任	職名
揚平郡	松浦 允	根
京畿郡	金 允	根
開豐郡	辛 允	根
京畿郡	李 允	根
始興郡	三宅 修	通
京畿郡	森山 修	次
泰川郡	植木 正	光
平北郡	筒井 喜	正
高陽郡	鄭 天	正
京畿郡	岩崎 正	男
平安北道	李 碩	均
七、一一	朱 均	均

編輯後記

△今夏は例年に増して、雨が多く、水害の惨状が頻々として毎日新聞紙上に傳へられて、我々の胸をいためる。會員諸賢の中にも、この被害に直面された方々が各道に互つて非常に多いことと思はれます。茲に謹みて各位に對して御見舞の微意を申し上げます。

△本誌には鹽田前協會長の玉稿を得て巻頭を飾りました。また内閣統計局森統計官に戴いた「統計の任務」はわれわれ會員の絶好の讀物と思はれます。共に御熟讀を御願ひ致します。

京城帝國大學大内教授の誌上御講義「統計の話」第二回を御多忙の中から御筆を執つて戴いたことは、編輯子は勿論のこと、會員御一同に感謝して戴きたいと思ひます。

△それにしても會員諸賢からの御寄稿を今後は益々積極的に御願ひ致したく思ひます。從來御寄稿して下さつた方ばかりでなく、各方面から多數の寄稿があるやう、そしてどんどん編輯

投稿歡迎!!!

論説・研究

地方通信・資料

質疑・雜筆

次號締切十月末日

者を翻載し、鞭撻して下さい。ことを何よりも御待致します。朝鮮に唯一の統計雜誌としての眞價を發揮するためには、どうしても諸賢の御寄稿に俟たねばならぬことだと思ひます。御寄

稿の文は何でも構ひません。或は統計の資料でも、或は各地方の特殊事情でも、或はその他統計に關する御感想なり、歌詩等の文藝方面の記事でも、少くとも統計協會員としての元氣の溢れてゐるものであればよいと思ひます。呉れぐれも諸賢の御寄稿を切望します。

△本文中にもある如く、わが協會の草創の時より絶えず御指導と御鞭撻とをおしまれなかつた鹽田前協會長には、今回の異動により文書課長から農林局農産課長に御榮轉になり、その後任として、農林局林政課長から文書課長に御榮轉の鈴木課長を本協會長にお迎へすることとなりました。茲に末尾ながら、前協會長に厚く御禮申上げると共に、新協會長の御指導と御鞭撻を願ひ上げます。

廣告案内

本誌廣告掲載御希望の向は本會事務所(朝鮮總督官房文書課内)又は本會地方委員(各道府郡島廳内)統計主任へ御照會ありたし。

昭和十一年九月廿五日印刷
昭和十一年九月三十日發行

定價(送料共)拾五錢

京城府西小門町官舎十三號

編輯兼 村 辻 元

發行人

京城府南米倉町一五九番地

印刷人 藤 本 外 次

京城府南米倉町一五九番地

印刷所 行政學會印刷所

朝鮮總督官房文書課内

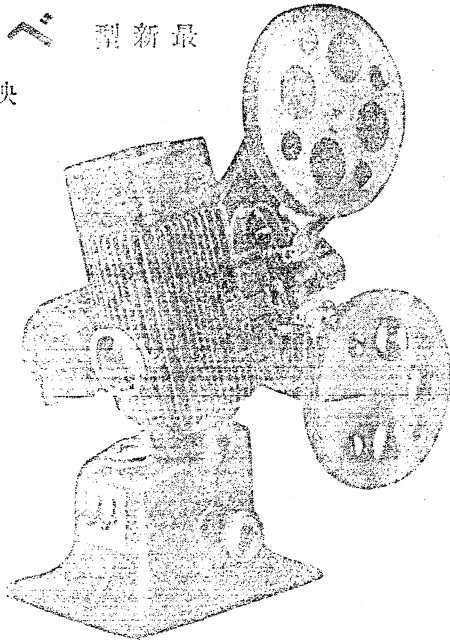
發行所 朝鮮統計協會

振替口座二四、四八八番

(リミ六十)

最新型 ベル映寫機 直寫式

映寫距離八十間



擴聲機 (マイン) (イマ) (ロク) (付) (ン) (オ) (フ) **ンオフKO**

國產小型映寫機

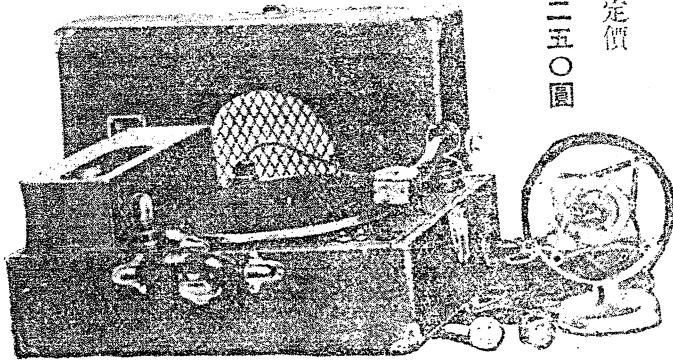
の最高權威

時は廻り文化は進む

社會教化も映畫より

十一號型 定價 二八〇圓
十二號型 定價 三三〇圓

御通知あり次第
カタログ直送す



定價
二五〇圓

電氣蓄音機に依る映畫伴奏と
マイクに依つての映畫解説が
一緒に出來ます
映寫會講演會等には是
非無くてはならぬ品です

朝鮮總發賣元
京城府南米倉一五九番地
朝鮮公民教育會映畫部
電話本局一八八三番 振替京城二一五九番